

令和 6 年度志木市国民健康保険  
レセプト疾病構造分析事業報告書  
(令和 5 年度分)

令和 7 年 3 月

# 目次

第1章 事業の概要	1
1. 事業の目的	1
2. 実施方法	1
3. 集計・分析の対象	1
第2章 医療費の状況	2
1. 国民健康保険被保険者数の構成	2
第3章 医療費の構造分析	3
1. 令和5年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合	3
2. 令和5年度の医療費、レセプト件数の状況	6
3. レセプト件数が36件以上(平均3件/月)の人数	7
4. 頻回受診者の疾病構造	9
5. 長期入院患者の疾病構造	10
第4章 国保医療費の疾病構造	11
1. 疾病分類別の総医療費と受療割合(入院、入院外を含む全体の医療費)	11
2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合	17
3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合	21
第5章 国保医療費の上位疾患の構造	26
1. 総医療費の上位疾患	26
2. 入院医療費の上位疾患	32
3. 入院外医療費の上位疾患	34
第6章 注目疾患別に見た診療の状況	37
1. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費	37
2. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費	38
3. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費	41
4. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院外医療費	42
5. 関節疾患に対する入院医療費	44
6. 関節疾患に対する入院外医療費	45
7. かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院医療費	47
8. かぜ、急性上気道感染症、肺炎、誤嚥性肺炎、間質性肺炎に対する入院外医療費	48
9. 新生物に対する入院・入院外医療費	50

10. 精神及び行動の障害に対する入院・入院外医療費.....	52
11. COVID-19 に対する入院・入院外医療費.....	54
第 7 章 特定健康診査の状況.....	55
1. 特定健康診査の受診状況.....	55
2. 特定保健指導レベルの状況.....	55
3. メタボリックシンドローム(以下、メタボ)の状況.....	57
4. 測定項目の状況.....	58
第 8 章 まとめ.....	91

## 第1章 事業の概要

### 1. 事業の目的

志木市国民健康保険被保険者のレセプトデータ及び特定健康診査の結果を分析し、医療費の動向、市民の疾病の構造、受療行動について調査する。本データに基づき、本市の疾病の課題に対する具体的な方策等を検討することを目的とする。

### 2. 実施方法

令和5年4月～令和6年3月診療分の国民健康保険医科のレセプトデータを集計した。レセプトデータはICD10の傷病名コードに記載される5,515傷病名を対象とし、本データに基づき、糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、悪性新生物、腫瘍、精神および行動の障害、睡眠障害・不眠症、変形性膝関節症、心疾患、脳血管疾患、脳出血、脳梗塞、骨粗しょう症、腎不全、アルツハイマー病、急性上気道感染症、肺炎等について解析を行った。さらに、ICD10の大分類に基づき解析を行った。

### 3. 集計・分析の対象

#### 3.1. レセプトデータ

令和5年度の全レセプトデータ件数は104,764であった。

## 第2章 医療費の状況

### 1. 国民健康保険被保険者数の構成

志木市国民健康保険の令和5年度の被保険者数を図2-1に示す。表2-1にはその構成比を性別に示した。年齢区分は5歳とした。構成比について20歳未満は10.3%、20~59歳は52.8%、60~74歳は36.9%であった。65歳以上は29.6%であった。

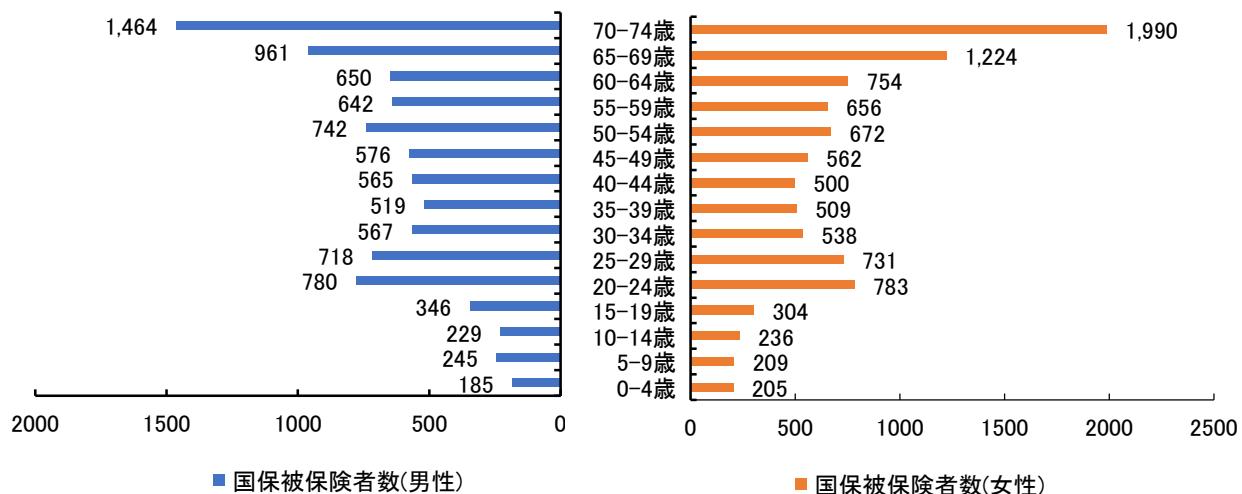


図2-1 志木市の年齢区分別の国民健康保険被保険者数

表2-1 志木市の年齢階級別の国民健康保険被保険者の構成比

男性		年齢区分 [歳]	女性	
人数[名]	構成比[%]		人数[名]	構成比[%]
185	2.0	0-4	205	2.1
245	2.7	5-9	209	2.1
229	2.5	10-14	236	2.4
346	3.8	15-19	304	3.1
780	8.5	20-24	783	7.9
718	7.8	25-29	731	7.4
567	6.2	30-34	538	5.4
519	5.6	35-39	509	5.2
565	6.1	40-44	500	5.1
576	6.3	45-49	562	5.7
742	8.1	50-54	672	6.8
642	7.0	55-59	656	6.6
650	7.1	60-64	754	7.6
961	10.5	65-69	1,224	12.4
1,464	15.9	70-74	1,990	20.2
9,189	48.2	計	9,873	51.8
2,425	26.4	65歳以上	3,214	32.6

### 第3章 医療費の構造分析

#### 1. 令和5年度の性別・年齢階級別一人当たり医療費と受療割合

医療費の分析において、74歳は誕生日を迎えることで75歳の後期高齢者医療制度に移行するため、医療費解析は令和6年3月31日時点において74歳までの人を対象に行った。表3-1に性別、年齢階級別の人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合を示した。すべてのデータは医療機関にかかっていない0点(医療費)、0日(診療日数)、0件(レセプト件数)の人を含めずに解析した。医療費、レセプト件数の合計を受療人数(医療機関を受療した人数)で除した値である平均値を示した。受療割合は、入院、入院外の受診者を当該年齢階級の人数で除し、100を乗じたものである。

図3-1に男性、図3-2に女性の年齢階級別の人当たりの総医療費と入院外医療費を示した。図3-1、3-2より、男女ともに総医療費、入院外医療費は子どもと高齢者が高く、一般的なカーブであった。男性は30-34歳、40-44歳、60-64歳、女性は20-24歳、40-44歳、70-74歳のタイミングで総医療費が増加することがわかった。

図3-3に性別、年齢階級別の人当たりのレセプト件数を示した。図3-3より、レセプト件数は子どもと高齢者が多く、男女ともに20-24歳が少ない傾向にあった。70-74歳ではレセプト件数が男性11件、女性12件に達し、1ヶ月に約1回は医療機関に受診していることが推定できる。

表 3-1 性別、年齢階級別の人当たりの総医療費、レセプト件数、受療割合

	総医療費[円]	レセプト件数 [件]	入院			入院外			
			診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	診療日数[日]	医療費[円]	受療割合[%]	
男性	0-4歳	68,014	6.6	4.4	60,490	3.8	9.0	64,426	63.8
	5-9歳	68,158	7.6	0	0	0	10.3	68,158	72.2
	10-14歳	49,537	5.3	0	0	0	6.5	49,537	72.1
	15-19歳	42,730	4.0	7.0	701,790	0.6	4.6	34,617	50.0
	20-24歳	34,802	3.4	28	720,220	0.3	4.0	28,593	29.7
	25-29歳	47,649	3.5	17.0	695,035	0.3	4.7	41,985	33.0
	30-34歳	71,762	4.3	33.5	1,026,848	0.7	5.3	54,223	39.9
	35-39歳	69,558	4.5	22.3	475,308	1.2	6.6	58,995	52.0
	40-44歳	165,376	5.7	162.0	2,791,420	1.6	7.5	79,569	50.8
	45-49歳	222,357	6.7	102.7	2,428,557	2.3	10.3	124,955	54.7
	50-54歳	193,184	6.6	85.9	2,058,617	1.9	11.2	127,498	57.5
	55-59歳	217,147	7.6	93.5	1,910,517	3.1	11.2	121,334	61.1
	60-64歳	386,899	8.9	75.4	1,829,908	4.8	15.2	253,965	64.3
	65-69歳	251,117	9.6	38.8	1,365,910	3.1	15.3	195,599	74.9
	70-74歳	321,926	11.5	55.4	1,455,464	4.6	17.7	245,949	87.0
女性	0-4歳	65,169	6.4	2.8	37078	2.4	8.4	63,907	71.7
	5-9歳	56,490	7.0	0	0	0	8.4	56,490	78.5
	10-14歳	50,577	6.6	0	0	0	8.0	50,577	69.5
	15-19歳	46,640	5.1	9.0	889,620	0.3	6.1	41,248	54.3
	20-24歳	67,367	4.1	99.3	2,335,300	0.5	4.9	35,485	37.4
	25-29歳	57,969	4.7	11.5	326,692	1.8	6.2	45,291	45.8
	30-34歳	86,277	5.0	10.2	403,594	1.7	6.5	73,703	52.4
	35-39歳	72,914	5.7	5.8	78,988	1.6	7.5	70,959	56.2
	40-44歳	177,261	6.7	65.0	1,665,934	3.2	9.8	93,205	63.0
	45-49歳	148,209	7.5	68.1	1,828,302	1.6	10.2	100,236	61.0
	50-54歳	119,793	7.5	93.0	1,243,141	1.2	10.9	97,664	66.1
	55-59歳	148,146	8.8	36.3	917,728	2.0	13.6	120,771	64.8
	60-64歳	181,016	9.4	66.2	1,840,971	1.9	13.9	133,357	71.2
	65-69歳	211,260	10.7	43.3	1,134,163	2.3	16.2	179,746	81.8
	70-74歳	268,651	12.2	69.7	1,884,923	3.8	18.4	188,689	87.0

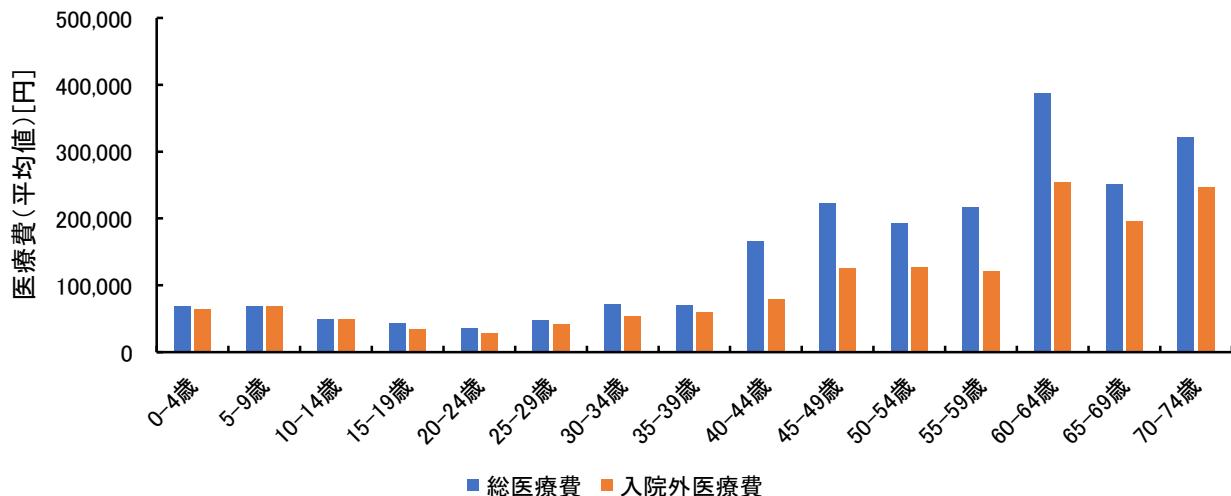


図 3-1 男性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

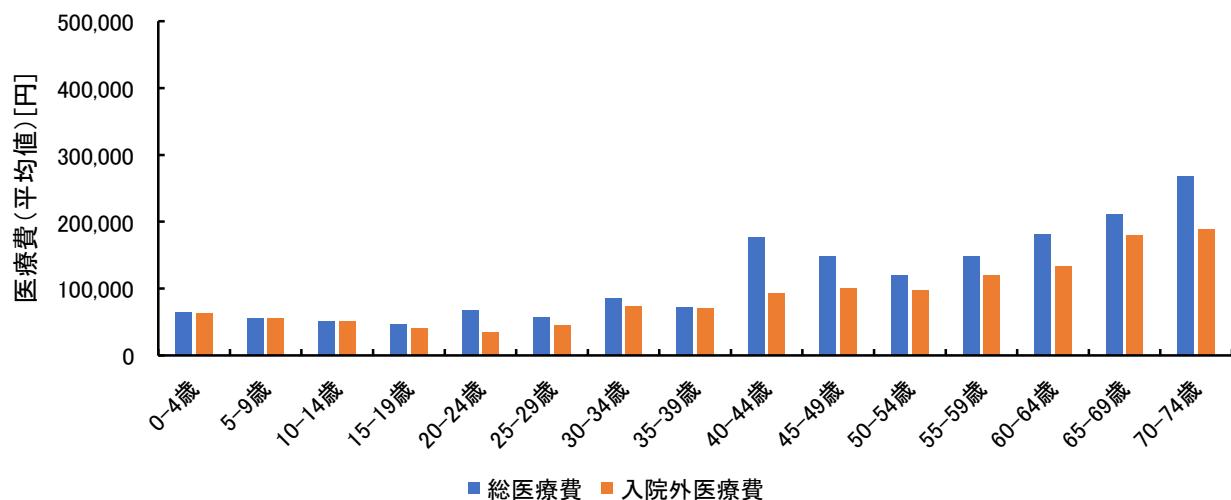


図 3-2 女性一人当たりの年齢階級別総医療費, 入院外医療費

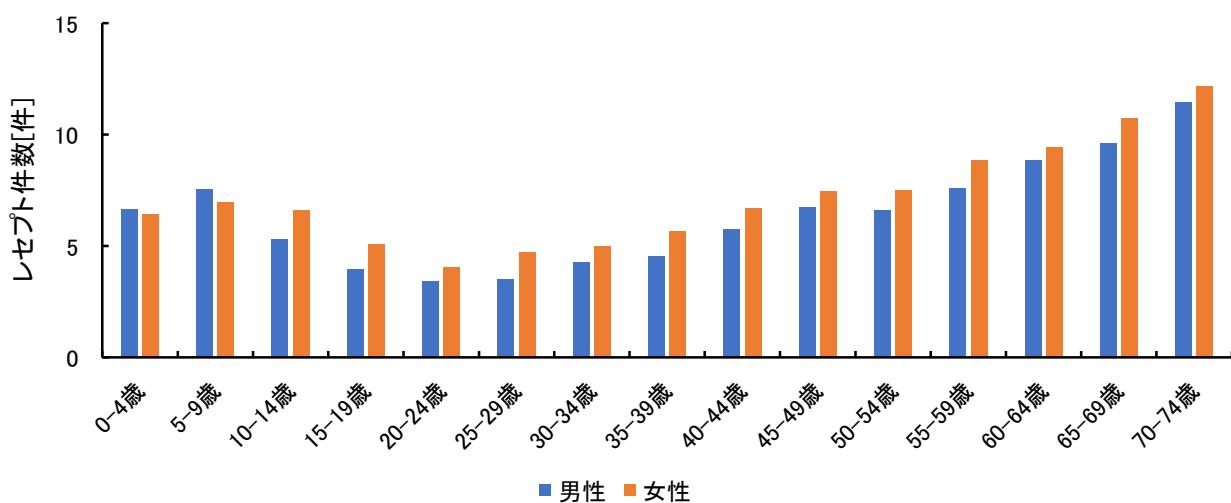


図 3-3 一人当たりの性別, 年齢階級別レセプト件数

## 2. 令和 5 年度の医療費、レセプト件数の状況

表 3-2 に全体の医療費、レセプト件数について平均値、中央値、最大値等を示した。医療費やレセプト件数は値が極端に大きい人が含まれると、平均値が大きくなる傾向がある。そのため、ここでは中央値も示すこととした。

令和 5 年度の受療者全体の平均年齢は 52.5 歳、中央値は 60.0 歳であった。入院と入院外の医療費を合計した総医療費の平均値は 186,637 円、中央値は 51,075 円であった。令和 4 年度からは平均値は 5,8716 円、中央値は 11,335 円減少していた。入院外診療日数に着目すると最大値に 319 日（該当者 2 名）、該当対象者は 1 年間のレセプト件数が 1 人目 13 件、2 人目 53 件であり、複数の医療機関に頻回に受診していることからこの値が導出された。レセプト件数の最大値は 69 件（入院外診療日数：80 日）であった。

表 3-2 全体の医療費、レセプト件数

	年齢 [歳]	総医療費 [円]	入院診療日数 [日]	入院点数 [円]	入院外診療日数 [日]	入院外点数 [円]	レセプト件数 [件]
平均値	52.5	186,637	57.0	1,467,841	12.3	136,490	8.3
標準偏差	21.0	732,478	99.6	1,922,201	18.2	567,035	7.5
中央値	60.0	51,075	14.0	686,340	7.0	49,695	6.0
最大値	77.0	38,698,690	428.0	11,219,940	319.0	38,698,690	69.0
25パーセントタイル	38.0	18,830	5.0	226,605	3.0	18,443	2.0
75パーセントタイル	71.0	118,640	52.5	1,757,290	15.0	111,393	12.0

### 3. レセプト件数が 36 件以上(平均 3 件/月)の人数

表 3-3 に令和 5 年度のレセプト件数が 36 件以上、表 3-4 に 25-35 件の年齢階級別の人数を示した。レセプト件数は医療機関を受診することにより月に 1 件提出される。つまり、月に 2 ケ所の医療機関を受診すると 2 件提出される。1 ヶ月に多くの医療機関を受診する、あるいは特定の医療機関を複数日受診することは様々な問題が考えられる。

一般的に重複受診は同一月内に同一診療科を 3 ケ所以上受診することをいう。頻回受診は同一月内に医療機関へ 15 日以上通院することをいう。同じ疾患で複数の医療機関を受診することは、治療効率の低下、検査の重複、調剤(投薬)の重複が考えられ、医療費の高騰を誘発するだけでなく、副作用のリスクも高まることが推察される。そのため、対策が求められる。

表 3-3 より、重複受診は男性は 45-49 歳(5-9 歳除く)、女性は 25-29 歳(15-19 歳除く)から発生し、男女ともに 70-74 歳から増加していた。表 3-4 より、レセプト件数が 25-35 件の該当者は男女ともに 55-59 歳から増加し、70-74 歳では男性は 76 名、女性は 120 名であった。

表 3-3 年齢階級別のレセプト件数 36 件/年以上の人数

	男性[人]	女性[人]	合計[人]
0-4歳	0	0	0
5-9歳	1	0	1
10-14歳	0	0	0
15-19歳	0	1	1
20-24歳	0	0	0
25-29歳	0	1	1
30-34歳	0	0	0
35-39歳	0	0	0
40-44歳	0	0	0
45-49歳	1	3	4
50-54歳	0	3	3
55-59歳	2	6	8
60-64歳	4	4	8
65-69歳	3	19	22
70-74歳	17	27	44

表 3-4 年齢階級別のレセプト件数 25-35 件/年の人数

	男性[人]	女性[人]	合計[人]
0-4歳	1	2	3
5-9歳	3	5	8
10-14歳	2	2	4
15-19歳	1	1	2
20-24歳	2	1	3
25-29歳	0	4	4
30-34歳	1	2	3
35-39歳	4	1	5
40-44歳	6	9	15
45-49歳	7	10	17
50-54歳	3	10	13
55-59歳	12	17	29
60-64歳	9	26	35
65-69歳	37	55	92
70-74歳	76	120	196

#### 4. 頻回受診者の疾病構造

頻回受診者(予備群を含む)は、入院外診療日数が年間 120 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 79 名(平均年齢 63.6 歳)であった。男性 53 名(平均年齢 63.5 歳)、女性 26 名(平均年齢 64.0 歳)であった。総医療費は 295,237,870 円、レセプト件数は 1,728 件であった。

表 3-5 に頻回受診者の ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。表 3-5 より、該当人数では第 9 章の循環器系の疾患(70 人)、第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患(69 人)、第 11 章の消化器系の疾患(69 人)、第 13 章の筋骨格系及び結合組織の疾患(67 人)が多いことがわかった。一人当たりの医療費では、第 2 章の新生物、第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第 14 章の腎尿路性器系の疾患、第 1 章の感染症及び寄生虫症では 450 万円を超えていた。

以上より、頻回受診者の特性として、腎不全や慢性疾患に加えて消化器系の疾患の受診者が多いことがわかった。

表 3-5 頻回受診者の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	35	4,557,486
第2章 新生物	13	7,145,519
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	45	5,478,448
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	69	4,204,404
第5章 精神及び行動の障害	26	2,434,433
第6章 神経系の疾患	42	4,241,020
第7章 眼及び付属器の疾患	44	4,040,375
第8章 耳及び乳様突起の疾患	12	2,759,638
第9章 循環器系の疾患	70	4,123,311
第10章 呼吸器系の疾患	58	4,056,048
第11章 消化器系の疾患	69	3,918,822
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	56	4,279,385
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	67	4,067,229
第14章 腎尿路性器系の疾患	58	4,772,268
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	5	4,419,236
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	56	4,278,717
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	54	4,407,548

## 5. 長期入院患者の疾病構造

長期入院患者は、入院期間が 250 日を超えるものとした。その結果、該当したのは 40 名（平均年齢 60.6 歳）であった。男性 25 名（平均年齢 57.4 歳）、女性 15 名（平均年齢 65.9 歳）であった。総医療費は 237,649,740 円、レセプト件数は 509 件であった。

表 3-6 に ICD10 の大分類の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費を示した。表 3-6 より、該当人数では第 11 章の消化器系の疾患（35 人）、第 5 章の精神及び行動の障害（34 人）、第 6 章の神経系の疾患（34 人）が多いことがわかった。一人当たりの医療費では、第 2 章の新生物、第 10 章の呼吸器系の疾患、第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第 14 章の腎尿路性器系の疾患では 650 万円を超えていた（第 8 章、第 17 章、第 19 章を除く）。

表 3-6 長期入院者の疾病分類別の該当人数、一人当たりの総医療費

疾病分類名	該当人数[人]	一人当たりの医療費[円]
第1章 感染症及び寄生虫症	13	6,266,668
第2章 新生物	5	7,075,362
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	12	6,680,108
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	26	6,328,972
第5章 精神及び行動の障害	34	5,734,391
第6章 神経系の疾患	34	5,913,025
第7章 眼及び付属器の疾患	6	6,413,740
第8章 耳及び乳様突起の疾患	4	7,789,323
第9章 循環器系の疾患	21	5,989,245
第10章 呼吸器系の疾患	24	6,719,609
第11章 消化器系の疾患	35	6,017,781
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	26	6,199,897
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	20	6,391,461
第14章 腎尿路性器系の疾患	17	6,600,278
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	2	6,474,985
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	28	6,273,377
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	12	6,810,270

## 第4章 国保医療費の疾病構造

### 1. 疾病分類別の総医療費と受療割合(入院、入院外を含む全体の医療費)

表4-1に疾病分類別の総医療費合計、総医療費合計を患者数で除した一人当たりの総医療費(平均医療費)、患者数を示した。疾病分類別の医療費全体のインパクトを示すために、総医療費合計を記載した。1年間にそれぞれの分類に対し、1回でも病名が記載された場合に、患者としてカウントした人数であり、繰り返し受診したことによる延べ人数ではない。総医療費合計(入院と入院外)はそれぞれの患者の医療費の合計である。(例として、糖尿病と胃炎の診断を受けると、第4章と第11章にそれぞれ患者数としてカウントされる。)

図4-1に疾病分類別の総医療費合計、図4-2に疾病分類別の人一人当たりの総医療費、図4-3に疾病分類別の患者数を示した。図4-3より、患者数に着目すると、第10章の呼吸器系の疾患が多く、次いで第11章の消化器系の疾患、第7章の眼及び付属器の疾患、第4章の内分泌、栄養及び代謝疾患のボリュームが大きいことがわかった(第18章除く)。ボリュームが大きい分、総医療費合計も大きい傾向であった。図4-2より、一人当たりの医療費に着目すると、第3章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(鉄欠乏性貧血などの貧血が含まれる)、第2章の新生物(がんが含まれる)の医療費が大きいことがわかった。

表4-1 疾病分類別の総医療費合計、一人当たりの総医療費、患者数

疾病分類名	総医療費合計 [円]	一人当たり医療費 [円]	患者数[人]
第1章 感染症及び寄生虫症	999,567,670	311,683	3,207
第2章 新生物	745,741,070	456,390	1,634
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	884,555,860	642,379	1,377
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,625,063,020	349,476	4,650
第5章 精神及び行動の障害	826,050,920	395,998	2,086
第6章 神経系の疾患	1,328,429,240	379,660	3,499
第7章 眼及び付属器の疾患	1,149,257,900	231,799	4,958
第8章 耳及び乳様突起の疾患	324,158,360	222,942	1,454
第9章 循環器系の疾患	1,524,954,490	356,131	4,282
第10章 呼吸器系の疾患	1,607,547,160	221,792	7,248
第11章 消化器系の疾患	1,848,758,190	318,477	5,805
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	1,391,393,520	312,813	4,448
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,477,728,560	326,209	4,530
第14章 腎尿路性器系の疾患	1,048,279,270	423,718	2,474
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	19,520,670	226,985	86
第16章 周産期に発生した病態	2,604,000	137,053	19
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	101,456,530	431,730	235
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,589,390,650	320,959	4,952
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	905,880,240	407,687	2,222

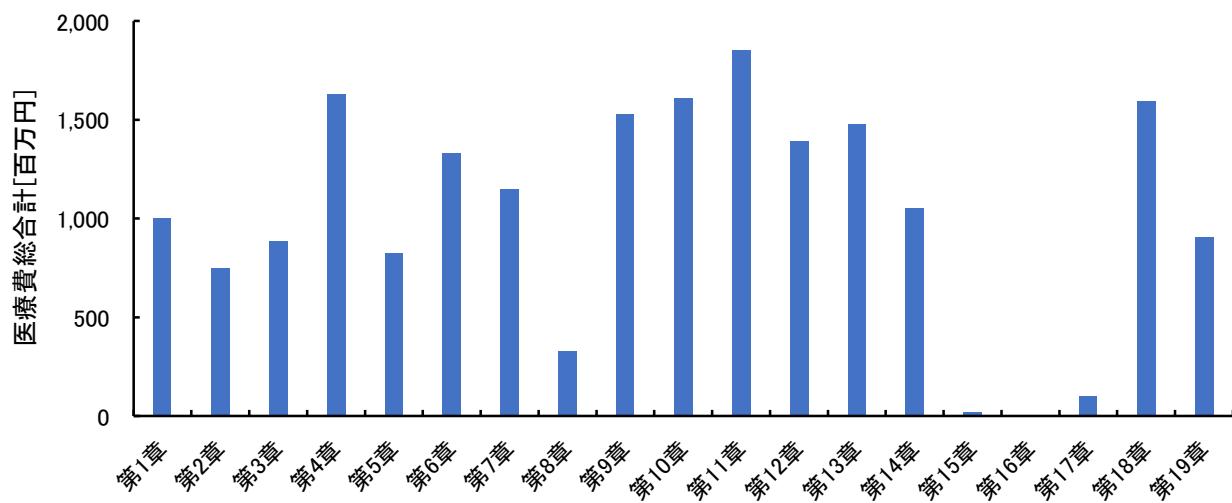


図 4-1 疾病分類別の総医療費合計

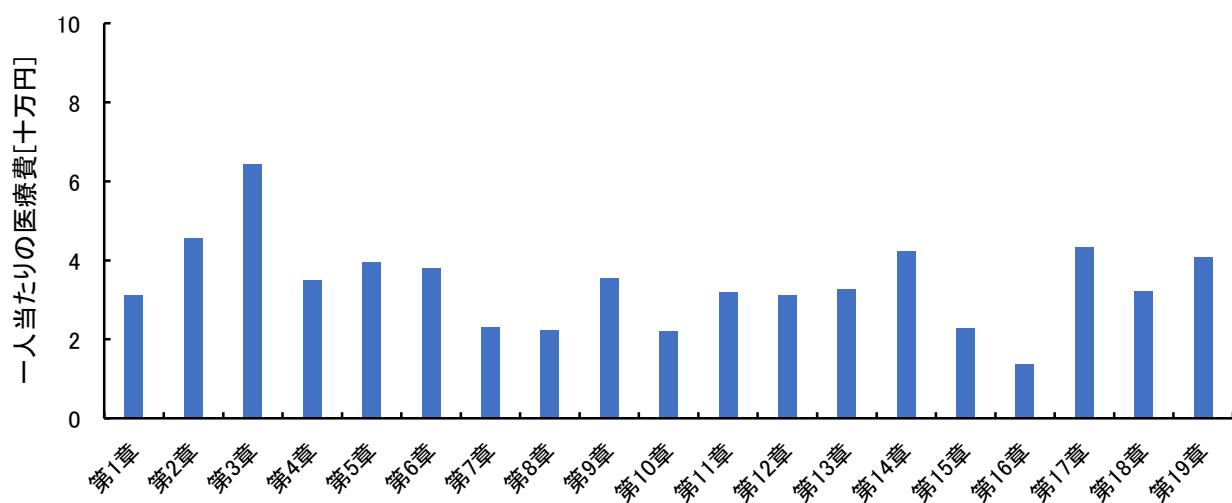


図 4-2 疾病分類別的一人当たりの総医療費

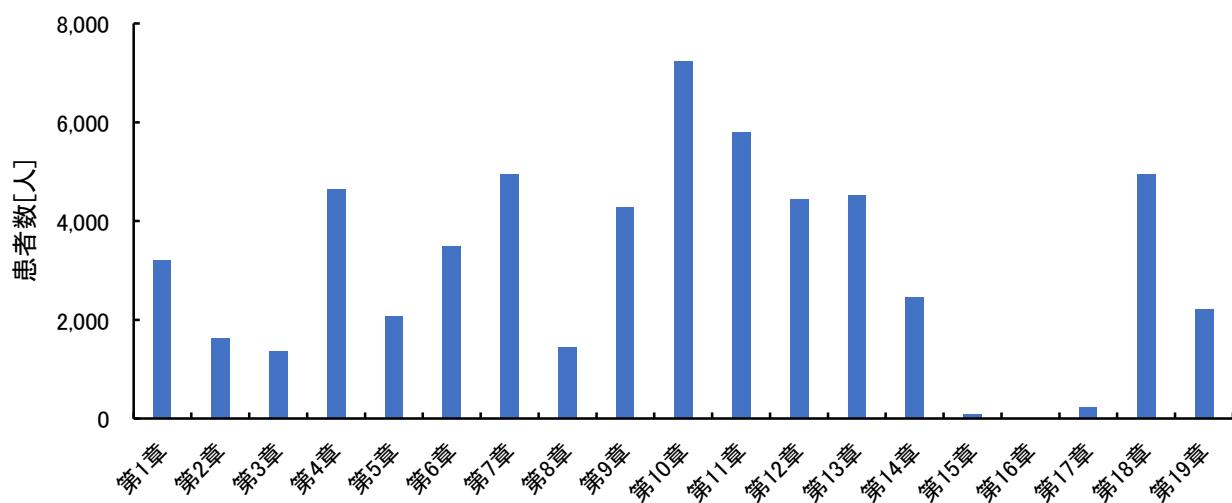


図 4-3 疾病分類別の患者数

表 4-2, 図 4-4 に疾病分類別の年齢階級別総医療費合計, 表 4-3 に受療割合を示した. 表 4-2, 図 4-4 より, 年齢階級別医療費は, 60-64 歳以降の医療費が高いことがわかった. 70-74 歳に着目すると, 総医療費合計で 5 億円以上の疾患として, 下記の章が挙げられる.

- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(胃潰瘍, 便秘, 胃炎等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 18 章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)

表 4-3 より, 幼児, 若年期にウエイトが大きいものとして下記の章が挙げられる.

- 第 1 章 感染症及び寄生虫症(ウイルス性胃腸炎等)
- 第 7 章 眼及び付属器の疾患(結膜炎, 近視, 遠視, 乱視等)
- 第 8 章 耳及び乳様突起の疾患(外耳炎, 中耳炎等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪), 急性気管支炎, ぜんそく, 慢性鼻炎等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎, アトピー, 乾皮症(皮膚乾燥症)等)

一方で, 高齢期に増加する疾患として, 下記の章が挙げられる.

- 第 2 章 新生物(肝臓がん, 胃がん等)
- 第 3 章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(鉄欠乏性貧血等)
- 第 4 章 内分泌, 栄養及び代謝疾患(糖尿病, 脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症, アルツハイマー病, うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害, 多発性ニューロパチー, 末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患, 心房細動, 不整脈, 心不全等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(胃潰瘍, 便秘, 胃炎等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風, 関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症, 坐骨神経痛, 肩の障害, 骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路性器系の疾患(腎不全等)
- 第 18 章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(呼吸困難, 胸やけ, 傾眠等)
- 第 19 章 損傷, 中毒及びその他の外因の影響

表 4-2 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

単位[円]

疾病分類名	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	12,641,610	14,496,990	7,785,280	4,251,810	12,850,870	10,828,660	14,877,940	11,231,890
第2章 新生物	334,570	459,180	171,800	317,610	1,519,810	3,427,960	9,900,960	5,077,090
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	669,950	225,760	296,450	401,120	11,050,040	6,455,400	9,176,640	12,911,390
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,184,560	1,082,520	1,809,490	1,948,100	9,227,090	6,721,330	18,432,710	20,846,730
第5章 精神及び行動の障害	424,540	2,697,260	2,098,860	2,902,980	15,477,360	10,578,840	18,294,040	12,175,860
第6章 神経系の疾患	0	1,053,130	1,354,060	2,432,610	14,816,670	11,166,170	20,248,920	14,097,690
第7章 眼及び付属器の疾患	7,718,720	13,238,600	10,914,150	7,350,240	12,287,240	9,868,090	14,384,090	10,786,870
第8章 耳及び乳様突起の疾患	8,099,190	13,154,790	8,567,210	3,143,840	7,995,210	3,179,010	2,042,350	3,748,960
第9章 循環器系の疾患	1,011,540	674,390	2,135,430	1,818,660	1,746,570	6,015,780	6,775,470	13,799,920
第10章 呼吸器系の疾患	16,686,270	21,033,930	15,669,810	13,475,090	23,053,290	20,453,890	28,524,660	29,082,560
第11章 消化器系の疾患	4,730,450	5,728,630	4,835,480	5,485,770	18,800,180	14,796,200	30,362,160	23,972,120
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	14,079,630	15,701,480	10,049,370	6,932,260	13,639,300	11,652,310	23,378,490	17,906,680
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	570,450	2,298,890	4,834,420	3,205,860	8,556,840	8,056,490	17,447,280	18,658,640
第14章 腎尿路性器系の疾患	1,068,750	1,869,870	1,539,120	2,226,510	10,613,630	8,873,100	8,401,030	17,483,280
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	16,310	693,870	3,629,470	2,484,780	2,624,760
第16章 周産期に発生した病態	1,286,700	200,840	1,116,460	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	2,034,110	1,501,700	1,659,990	425,790	104,150	166,870	6,079,340	1,231,420
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10,465,030	14,651,570	10,644,290	9,291,930	18,479,510	15,947,590	21,924,150	20,939,440
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	4,121,930	6,866,410	5,907,750	6,777,160	13,635,390	9,082,780	8,365,400	9,018,560

疾病分類名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	29,083,610	40,850,100	56,894,260	49,740,600	103,101,800	202,327,370	428,604,880
第2章 新生物	22,591,530	30,290,180	42,152,080	55,630,100	68,787,500	164,623,560	340,457,140
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	32,167,450	64,540,670	48,805,910	46,321,700	120,788,280	188,087,180	342,657,920
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	48,801,900	86,193,480	101,813,050	100,470,950	203,790,330	307,618,750	715,122,030
第5章 精神及び行動の障害	73,378,600	64,030,650	50,985,850	74,546,570	105,289,820	114,656,410	278,513,280
第6章 神経系の疾患	75,388,550	74,389,570	90,034,960	102,604,140	163,275,570	237,170,650	520,396,550
第7章 眼及び付属器の疾患	35,369,270	52,538,370	56,142,540	46,840,290	131,718,620	241,710,360	498,390,450
第8章 耳及び乳様突起の疾患	17,512,650	20,148,760	21,549,720	8,980,310	19,742,830	58,148,030	128,145,500
第9章 循環器系の疾患	32,761,080	55,836,880	72,142,830	97,313,000	197,026,590	307,599,710	728,296,640
第10章 呼吸器系の疾患	79,422,150	96,485,630	84,439,330	95,382,980	180,411,620	299,826,900	603,599,050
第11章 消化器系の疾患	86,153,970	94,117,190	109,300,950	123,624,370	219,648,240	331,498,340	775,704,140
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	59,572,620	71,829,140	76,195,270	86,648,490	161,910,480	262,949,600	558,948,400
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	42,252,180	73,318,520	93,093,610	91,781,530	163,531,450	306,829,080	643,293,320
第14章 腎尿路性器系の疾患	26,263,460	47,910,930	66,640,740	71,484,830	123,222,720	211,438,590	449,242,710
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	5,037,420	539,750	421,880	0	0	0	4,072,430
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	9,432,100	15,015,410	9,888,550	2,835,460	21,285,070	8,302,670	21,493,900
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	65,921,480	91,831,240	97,689,960	111,013,610	181,855,550	282,817,510	635,917,790
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	11,177,010	32,232,920	65,375,410	67,200,780	112,094,720	193,527,410	360,496,610

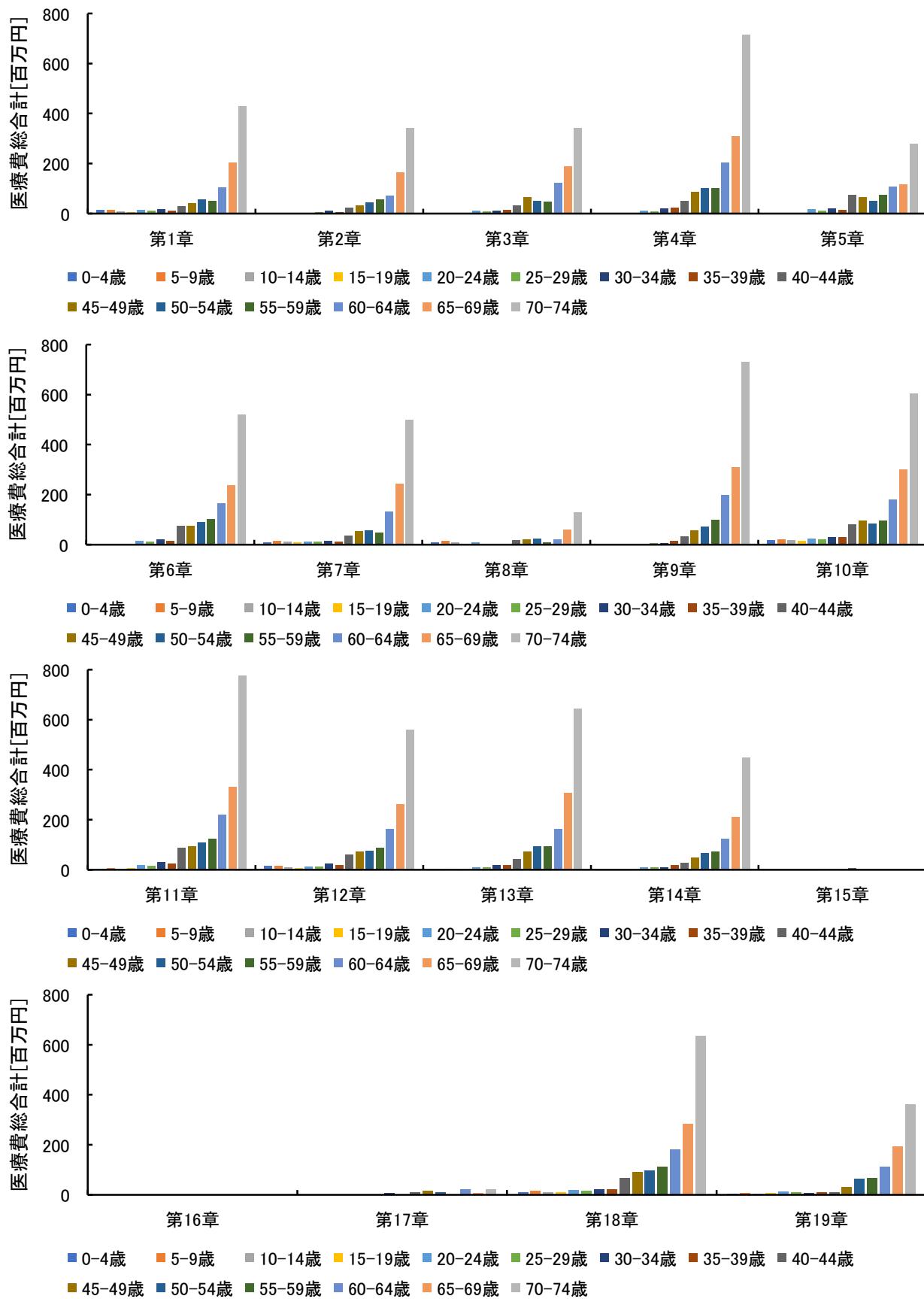


図 4-4 疾病分類別の年齢階級別総医療費合計

表 4-3 疾病分類別の年齢階級別受療割合

単位[%]

疾病分類名	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	21.5	13.4	7.1	5.2	5.3	4.3	7.1	7.3
第2章 新生物	0.5	0.7	0.9	0.3	0.6	1.2	2.2	2.2
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.5	0.9	1.3	0.9	1.0	1.4	2.3	3.5
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1.8	1.1	1.9	2.3	1.9	2.6	5.2	8.9
第5章 精神及び行動の障害	1.0	2.6	5.4	2.5	4.0	8.0	8.5	9.8
第6章 神経系の疾患	0	1.8	4.7	3.8	2.8	6.9	8.3	10.2
第7章 眼及び付属器の疾患	10.0	23.8	28.2	14.2	6.5	5.5	7.2	9.8
第8章 耳及び乳様突起の疾患	15.6	23.8	15.3	3.8	1.9	2.1	2.2	3.5
第9章 循環器系の疾患	1.0	1.1	3.2	1.4	0.6	1.2	2.3	3.4
第10章 呼吸器系の疾患	57.7	61.9	44.7	24.0	14.0	17.5	20.0	21.8
第11章 消化器系の疾患	7.9	5.7	6.5	5.2	4.6	7.2	10.0	13.2
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	43.8	31.5	25.8	15.1	8.9	9.2	12.7	13.0
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	2.1	2.4	6.2	4.9	1.9	4.8	7.0	8.5
第14章 腎尿路性器系の疾患	1.5	2.0	2.2	2.0	4.6	5.7	8.1	9.0
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	0.3	1.0	2.1	1.5
第16章 周産期に発生した病態	1.3	0.4	0	0	0.1	0	0.1	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	2.6	1.1	1.1	0.5	0.1	0.5	0.7	0.7
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20.3	16.7	12.3	8.2	4.9	7.1	7.1	11.2
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.8	6.4	9.7	6.2	1.2	1.7	1.7	2.9

疾病分類名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	8.9	8.0	8.2	8.0	11.4	14.7	20.0
第2章 新生物	4.1	3.3	5.0	4.9	6.0	8.9	12.1
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4.3	5.9	5.2	4.6	8.5	10.4	14.1
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	10.5	16.7	19.1	22.7	31.0	44.4	56.8
第5章 精神及び行動の障害	11.2	12.9	13.2	12.3	10.4	10.3	13.6
第6章 神経系の疾患	12.9	17.1	16.7	18.4	21.2	23.7	32.8
第7章 眼及び付属器の疾患	14.0	16.2	17.5	16.9	26.6	36.8	46.0
第8章 耳及び乳様突起の疾患	4.2	3.9	3.7	4.1	5.1	8.3	9.0
第9章 循環器系の疾患	6.1	12.7	16.5	21.6	30.3	42.2	57.5
第10章 呼吸器系の疾患	24.8	26.1	22.1	21.8	28.3	34.9	39.6
第11章 消化器系の疾患	18.0	23.4	24.1	26.1	33.3	44.9	56.5
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	15.0	16.6	16.1	14.3	21.6	24.8	30.5
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	13.4	15.5	19.0	21.9	27.8	37.4	49.3
第14章 腎尿路性器系の疾患	10.5	9.1	11.0	8.6	12.2	14.0	21.1
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	1.0	0.1	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0.1	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.1	0.9	0.4	0.5	1.5	1.0	1.2
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	14.3	14.9	17.3	15.9	21.0	27.5	35.9
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.6	4.3	3.7	4.3	7.8	8.1	12.3

## 2. 疾病分類別の入院医療費(中央値)と受療割合

表 4-4, 図 4-5 に疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値を示した。20 歳未満は人数が少ないため、20-24 歳より記載する。高額な医療費の影響を受けにくくするため、中央値を示した。さらに、該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。表 4-4, 図 4-5 より、40-44 歳のタイミングで各章の入院医療費が大きく増加していることがわかった。

表 4-5, 図 4-6 に疾病分類別の年齢階級別入院受療割合を示した。表 4-5, 図 4-6 より、40-44 歳以降から大きく増加し、受療割合が 1.0% を超えている疾患として、下記の章が挙げられる(第 18 章を除く)。

- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症、アルツハイマー病、うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害、多発性ニューロパチー、末梢神経障害性疼痛等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪)、急性気管支炎、ぜんそく、慢性鼻炎等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕、食道炎、胃潰瘍等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎、アトピー、乾皮症(皮膚乾燥症)等)

70-74 歳で受療割合が 2.0% を超えている疾患として、下記の章が挙げられる(第 18 章を除く)。

- 第 4 章 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病、脂質異常症等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害、多発性ニューロパチー、末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患、心房細動、不整脈、心不全等)
- 第 10 章 呼吸器系の疾患(急性上気道感染症(風邪)、急性気管支炎、ぜんそく、慢性鼻炎等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(胃潰瘍、便秘、胃炎等)
- 第 12 章 皮膚及び皮下組織の疾患(感染性皮膚炎、アトピー、乾皮症(皮膚乾燥症)等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風、関節炎、股関節症、膝関節症、脊柱管狭窄症、坐骨神経痛、肩の障害、骨粗しょう症等)

表 4-4 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

疾病分類名	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	326,490	8,000	206,600	68,125	748,890	2,183,570	816,430	1,251,740	965,135	590,755	919,015
第2章 新生物	0	0	0	0	909,490	1,246,830	4,245,255	1,494,240	771,720	565,380	836,560
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4,183,510	254,620	401,650	33,110	421,305	1,178,570	1,281,550	1,251,740	962,560	1,109,590	1,100,010
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0	460,455	434,140	291,405	909,490	1,143,110	816,430	1,078,990	944,235	594,210	984,370
第5章 精神及び行動の障害	2,648,730	0	920,885	744,985	3,035,845	1,255,395	1,281,550	1,251,740	2,449,860	1,141,450	1,709,010
第6章 神経系の疾患	2,648,730	481,950	273,720	448,125	2,739,810	1,107,650	1,446,030	1,276,620	1,366,600	930,875	1,050,700
第7章 眼及び付属器の疾患	0	70,280	0	55,910	909,490	956,430	629,860	1,049,670	766,510	590,755	599,640
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	1,381,240	1,037,150	0	0	388,420	479,865
第9章 循環器系の疾患	0	0	366,610	0	1,521,425	1,973,530	441,065	1,385,430	778,230	579,720	966,740
第10章 呼吸器系の疾患	326,490	74,255	399,670	68,125	839,040	1,032,040	1,048,990	1,230,420	925,910	847,290	948,010
第11章 消化器系の疾患	720,220	43,115	399,670	80,340	829,190	1,032,040	816,430	1,078,990	971,070	712,160	981,200
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	326,490	37,735	401,650	448,125	909,490	3,200,670	438,840	1,078,990	944,235	970,690	1,075,990
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0	460,455	418,885	428,280	628,915	1,032,040	816,430	836,240	774,975	844,800	981,290
第14章 腎尿路性器系の疾患	326,490	43,115	0	31,100	428,925	644,875	816,430	1,159,560	962,560	929,630	997,620
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	78,230	399,670	26,640	96,680	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	322,115
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	2,255,000	78,230	403,630	68,125	829,190	1,583,910	1,048,990	1,165,365	944,235	712,160	984,460
第19章 損傷、中毒及び他の外因の影響	4,183,510	502,210	206,600	210,380	302,810	662,030	627,635	1,177,805	852,070	942,690	920,495

表 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

疾病分類名	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	0.1	0.1	0.6	0.5	0.5	0.4	0.6	0.5	0.6	1.0	1.4
第2章 新生物	0	0.1	0.2	0	0.1	0	0.1	0.2	0.4	0.6	1.2
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.1	0.2	0.6	0.4	0.8	0.3	0.2	0.4	0.9	0.9	1.6
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.1	0	0.2	0.7	0.9	1.0	0.8	1.2	1.5	2.2	3.1
第5章 精神及び行動の障害	0.1	0.1	0.5	0.5	1.2	0.6	1.0	0.7	0.9	1.1	1.6
第6章 神経系の疾患	0.1	0.1	0.5	0.6	1.3	0.9	1.2	1.0	1.4	1.7	2.8
第7章 眼及び付属器の疾患	0.1	0.1	0.2	0.2	0.4	0.3	0.4	0.4	1.0	1.3	1.9
第8章 耳及び乳様突起の疾患	0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.1	0.1	0.4	0.3	0.3
第9章 循環器系の疾患	0	0	0.1	0.1	0.8	0.5	0.8	1.2	1.8	2.0	3.3
第10章 呼吸器系の疾患	0.1	0.2	0.9	0.4	1.2	0.5	0.8	0.9	1.1	1.5	2.4
第11章 消化器系の疾患	0.2	0.2	0.8	1.1	1.9	1.0	1.3	1.5	2.1	2.6	3.7
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	0.1	0.2	0.2	0.7	1.1	0.7	0.8	1.0	1.1	1.1	2.2
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.1	0	0.5	0.5	0.8	0.9	1.0	0.8	1.3	1.9	2.9
第14章 腎尿路性器系の疾患	0.1	0.1	0.8	0.5	0.6	0.1	0.6	0.3	1.0	1.0	1.9
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0.1	0.3	0.6	0.7	0.5	0	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0.1	0	0.2	0	0	0	0.1	0	0.2
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.1	0.3	0.4	1	1.0	0.8	0.9	1.1	1.4	1.9	2.8
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.5	0.3	0.3	0.7	0.6	1.0

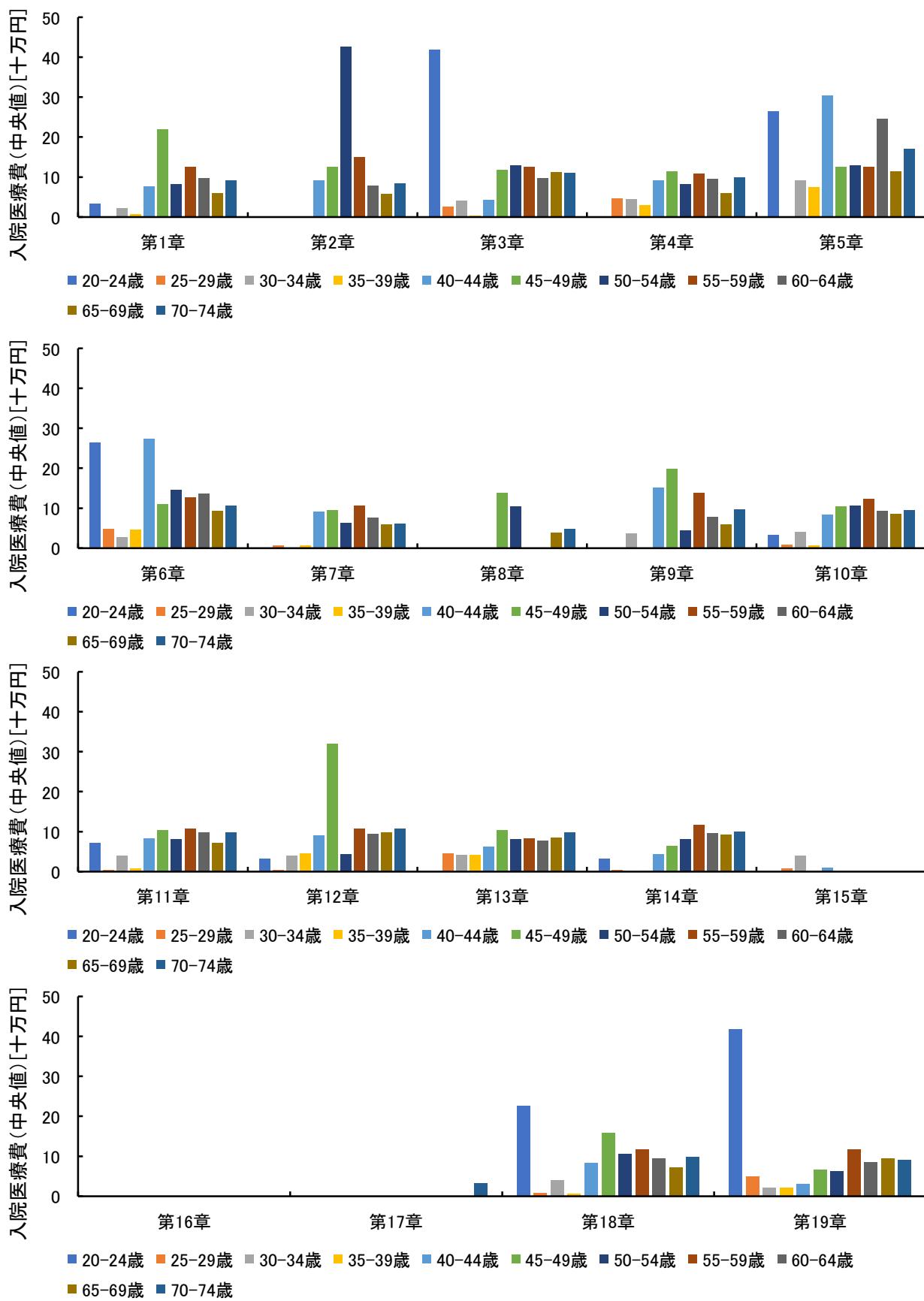


図 4-5 疾病分類別の年齢階級別入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

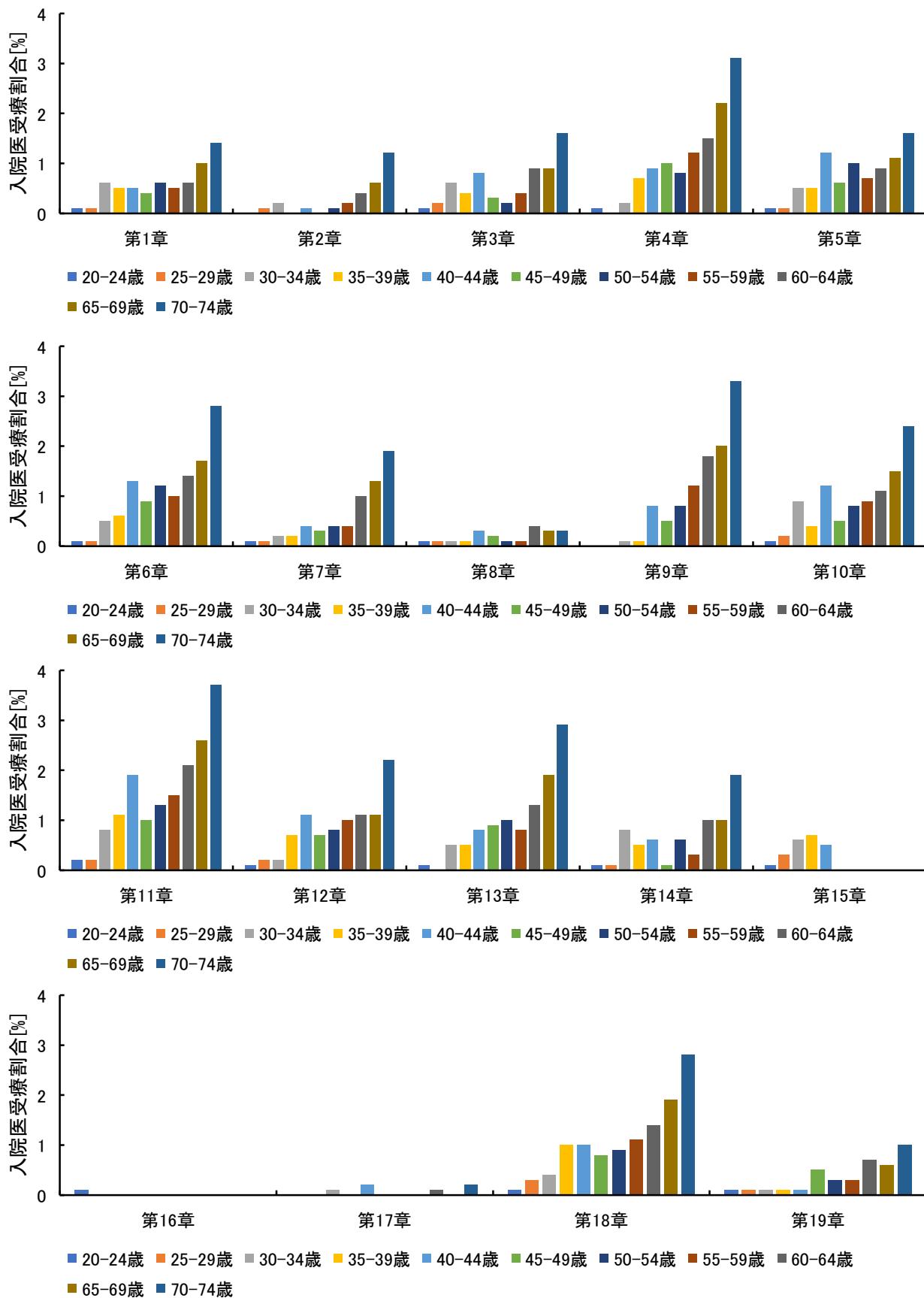


図 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院受療割合

### 3. 疾病分類別の入院外医療費(中央値)と受療割合

表 4-6, 図 4-7 に疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値を示した。高額な医療費の影響を受けにくくするため、中央値を示した。さらに、該当患者数が 2 名以下の場合には採用しなかったためゼロとなっている。

表 4-6, 図 4-7 より、鉄欠乏性貧血が含まれる第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、糖尿病、脂質異常症が含まれる第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患、睡眠障害が含まれる第 6 章の神経系の疾患は 40-44 歳、45-49 歳から増加傾向にあり、100 万円以上使用していた。

ウイルス性胃腸炎が含まれる第 1 章の感染症及び寄生虫症、胃がんが含まれる第 2 章の新生物、鉄欠乏性貧血が含まれる第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、腎不全が含まれる第 14 章の腎尿路性器系の疾患は 70-74 歳で 150 万円以上使用していた(第 19 章除く)。

表 4-7, 図 4-8 に疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合を示した。表 4-7, 図 4-8 より、ウイルス性胃腸炎が含まれる第 1 章の感染症及び寄生虫症、結膜炎が含まれる第 7 章の眼及び付属器の疾患、外耳炎が含まれる第 8 章の耳及び乳様突起の疾患、急性上気道感染症が含まれる第 10 章の呼吸器系の疾患、感染性皮膚炎が含まれる第 12 章の皮膚及び皮下組織の疾患は幼児期と高齢期に高い割合であることがわかった(第 18, 19 章を除く)。

年齢とともに受療割合が増加している疾患として、下記の章が挙げられる。

- 第 2 章 新生物(肝臓がん、胃がん等)
- 第 3 章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(鉄欠乏性貧血等)
- 第 4 章 内分泌、栄養及び代謝疾患(糖尿病、脂質異常症等)
- 第 5 章 精神及び行動の障害(統合失調症、アルツハイマー病、うつ病等)
- 第 6 章 神経系の疾患(睡眠障害、多発性ニューロパチー、末梢神経障害性疼痛等)
- 第 9 章 循環器系の疾患(高血圧性疾患、心房細動、不整脈、心不全等)
- 第 11 章 消化器系の疾患(う蝕、食道炎、胃潰瘍等)
- 第 13 章 筋骨格系及び結合組織の疾患(痛風、関節炎、股関節症、膝関節症、脊柱管狭窄症、坐骨神経痛、肩の障害、骨粗しょう症等)
- 第 14 章 腎尿路性器系の疾患(腎不全等)

表 4-6 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

疾病分類名	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	72,990	68,520	53,740	43,015	33,790	31,860	39,500	44,440
第2章 新生物	58,680	71,290	42,560	55,450	53,510	55,635	43,880	54,250
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	156,610	52,810	59,590	51,830	69,410	70,295	40,130	53,770
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	111,170	200,840	58,485	63,760	50,635	40,840	59,885	50,400
第5章 精神及び行動の障害	78,840	125,130	62,590	64,440	48,610	44,780	52,175	65,530
第6章 神経系の疾患	0	100,050	52,895	44,005	55,620	44,080	50,305	62,470
第7章 眼及び付属器の疾患	99,350	59,230	45,370	33,980	24,690	29,290	29,795	41,120
第8章 耳及び乳様突起の疾患	109,590	75,490	48,080	48,580	52,835	43,740	31,140	66,980
第9章 循環器系の疾患	125,630	121,870	72,245	47,480	64,300	67,510	66,465	59,455
第10章 呼吸器系の疾患	56,570	46,800	38,655	27,640	23,760	25,910	27,435	30,930
第11章 消化器系の疾患	75,590	74,065	59,250	47,760	43,275	38,320	40,020	48,190
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	59,705	63,870	47,380	37,040	28,650	27,880	30,860	41,580
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	75,880	74,710	64,000	52,265	51,440	42,260	42,400	45,810
第14章 腎尿路性器系の疾患	83,960	61,990	75,140	43,350	35,060	42,510	41,995	47,720
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	60,875	35,425	31,340	29,120
第16章 周産期に発生した病態	21,850	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	78,840	76,550	42,580	53,705	44,230	23,620	71,240	125,565
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	69,055	62,970	54,615	45,005	34,100	33,215	37,940	52,710
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	76,050	83,935	53,010	43,330	51,050	47,890	30,620	44,705

疾病分類名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	51,230	71,030	76,740	93,570	119,540	123,615	150,780
第2章 新生物	80,300	89,385	98,940	107,430	134,920	133,370	180,750
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	86,530	111,150	97,185	120,535	150,470	146,910	161,905
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	77,750	84,840	77,390	84,550	98,815	93,740	123,110
第5章 精神及び行動の障害	74,140	88,590	73,035	98,620	132,350	138,870	136,120
第6章 神経系の疾患	65,760	87,780	73,480	90,620	115,370	119,995	140,700
第7章 眼及び付属器の疾患	51,450	51,865	61,620	72,585	88,770	93,555	125,370
第8章 耳及び乳様突起の疾患	50,695	61,990	72,290	76,435	108,110	115,860	138,710
第9章 循環器系の疾患	89,750	79,655	72,915	77,455	94,690	90,610	121,675
第10章 呼吸器系の疾患	39,165	46,770	52,030	72,500	82,900	89,030	122,100
第11章 消化器系の疾患	62,505	72,100	68,770	79,920	101,250	99,080	127,260
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	53,350	61,790	63,020	78,000	97,030	105,380	131,525
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	59,125	74,480	72,405	84,090	93,145	101,720	131,510
第14章 腎尿路性器系の疾患	59,710	86,270	78,455	94,365	137,315	126,140	155,080
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	41,110	0	164,070	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	96,355	115,080	104,250	157,940	132,370	144,990	139,275
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	63,915	77,390	68,770	87,670	110,430	104,935	137,570
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	55,160	74,550	80,330	100,110	99,545	133,970	155,080

表 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合

単位[%]

疾病分類名	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
第1章 感染症及び寄生虫症	21.5	13.4	7.1	5.2	5.3	4.3	7.1	7.3
第2章 新生物	0.5	0.7	0.9	0.3	0.6	1.2	2.2	2.2
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.5	0.9	1.3	0.9	1.0	1.4	2.3	3.5
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	1.8	1.1	1.9	2.3	1.9	2.6	5.2	8.9
第5章 精神及び行動の障害	1.0	2.6	5.4	2.5	4.0	8.0	8.3	9.7
第6章 神経系の疾患	0	1.8	4.7	3.8	2.8	6.9	8.2	10.1
第7章 眼及び付属器の疾患	10.0	23.8	28.2	14.2	6.5	5.5	7.2	9.8
第8章 耳及び乳様突起の疾患	15.6	23.8	15.3	3.8	1.9	2.1	2.2	3.5
第9章 循環器系の疾患	1.0	1.1	3.2	1.4	0.6	1.2	2.3	3.3
第10章 呼吸器系の疾患	57.7	61.9	44.7	24.0	14.0	17.5	19.9	21.8
第11章 消化器系の疾患	7.9	5.7	6.5	5.2	4.6	7.2	10.0	13.2
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	43.8	31.5	25.8	15.1	8.9	9.2	12.7	13.0
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	2.1	2.4	6.2	4.9	1.9	4.8	7.0	8.5
第14章 腎尿路性器系の疾患	1.5	2.0	2.2	2.0	4.6	5.7	8.1	9.0
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	0	0	0	0	0.3	1.0	2.1	1.5
第16章 周産期に発生した病態	1.3	0.4	0	0	0.1	0	0.1	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	2.6	1.1	1.1	0.5	0.1	0.5	0.7	0.7
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20.3	16.7	12.3	8.2	4.9	7.1	7.1	11.2
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.8	6.4	9.7	6.2	1.2	1.7	1.7	2.9

疾病分類名	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
第1章 感染症及び寄生虫症	8.8	7.9	8.1	8.0	11.3	14.6	19.9
第2章 新生物	4.1	3.3	5.0	4.9	6.0	8.8	12.0
第3章 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4.0	5.8	5.2	4.6	8.5	10.4	14.0
第4章 内分泌、栄養及び代謝疾患	10.2	16.4	18.9	22.7	30.8	44.3	56.5
第5章 精神及び行動の障害	10.7	12.7	12.8	12.2	10.2	10.1	13.1
第6章 神経系の疾患	12.4	16.9	16.3	18.3	21.0	23.5	32.4
第7章 眼及び付属器の疾患	14.0	16.2	17.4	16.9	26.4	36.8	45.9
第8章 耳及び乳様突起の疾患	4.2	3.8	3.7	4.1	5.1	8.3	9.0
第9章 循環器系の疾患	6.0	12.6	16.5	21.5	30.2	42.0	57.1
第10章 呼吸器系の疾患	24.5	25.9	22.0	21.6	28.1	34.8	39.4
第11章 消化器系の疾患	17.4	23.1	23.8	25.9	33.1	44.6	56.1
第12章 皮膚及び皮下組織の疾患	14.7	16.4	15.9	14.3	21.4	24.6	30.3
第13章 筋骨格系及び結合組織の疾患	13.2	15.3	18.7	21.8	27.7	37.2	49.0
第14章 腎尿路性器系の疾患	10.4	9.1	10.8	8.6	12.1	13.9	21.0
第15章 妊娠、分娩及び産じょく	1.0	0.1	0	0	0	0	0
第16章 周産期に発生した病態	0	0	0	0.1	0	0	0
第17章 先天奇形、変形及び染色体異常	1.1	0.9	0.4	0.5	1.5	1.0	1.2
第18章 症状、徵候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	14.0	14.7	17.0	15.7	20.9	27.3	35.6
第19章 損傷、中毒及びその他の外因の影響	2.6	4.2	3.5	4.3	7.7	8.1	12.3

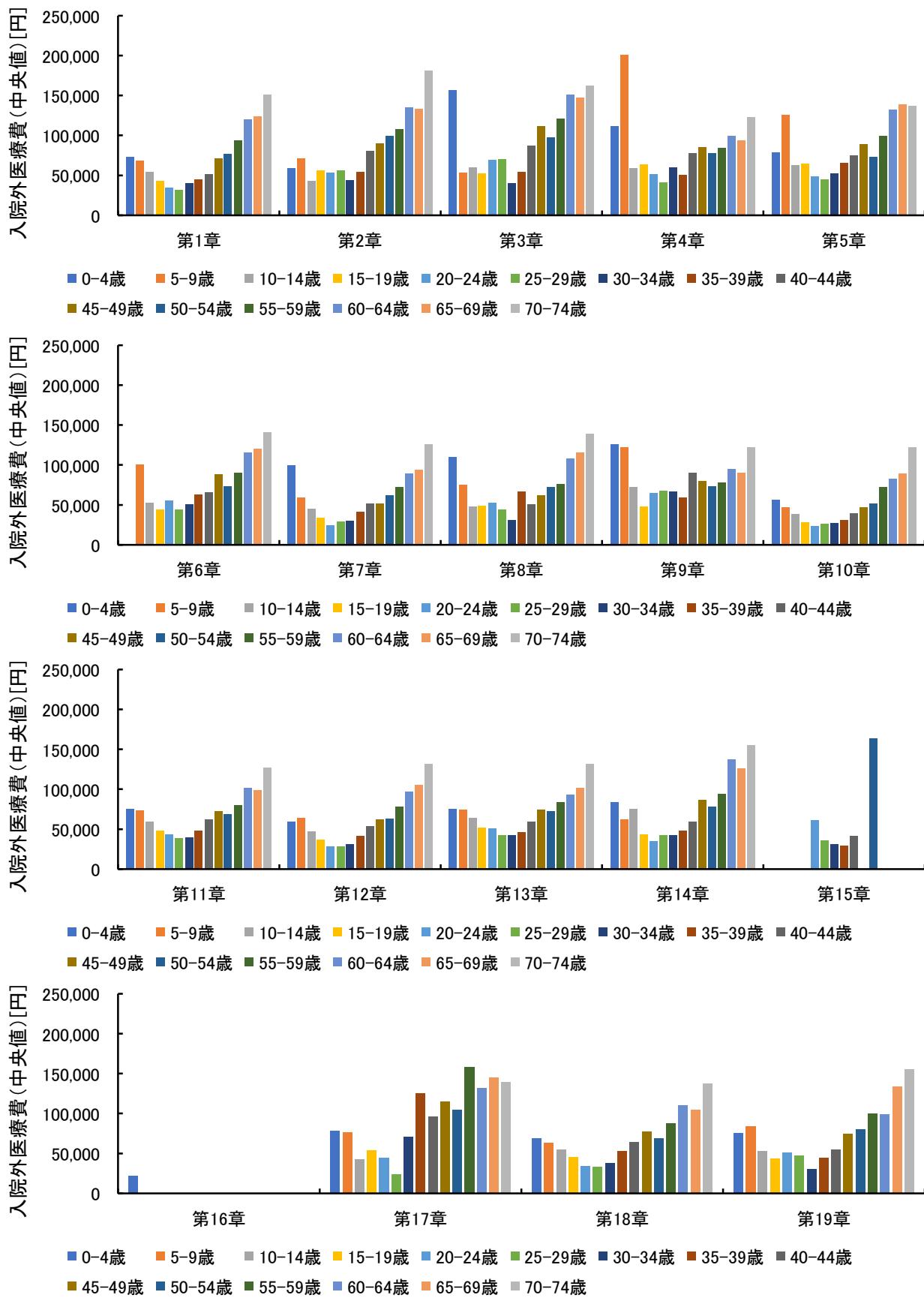


図 4-7 疾病分類別の年齢階級別入院外医療費の中央値(人数 2名以下は採用しない)

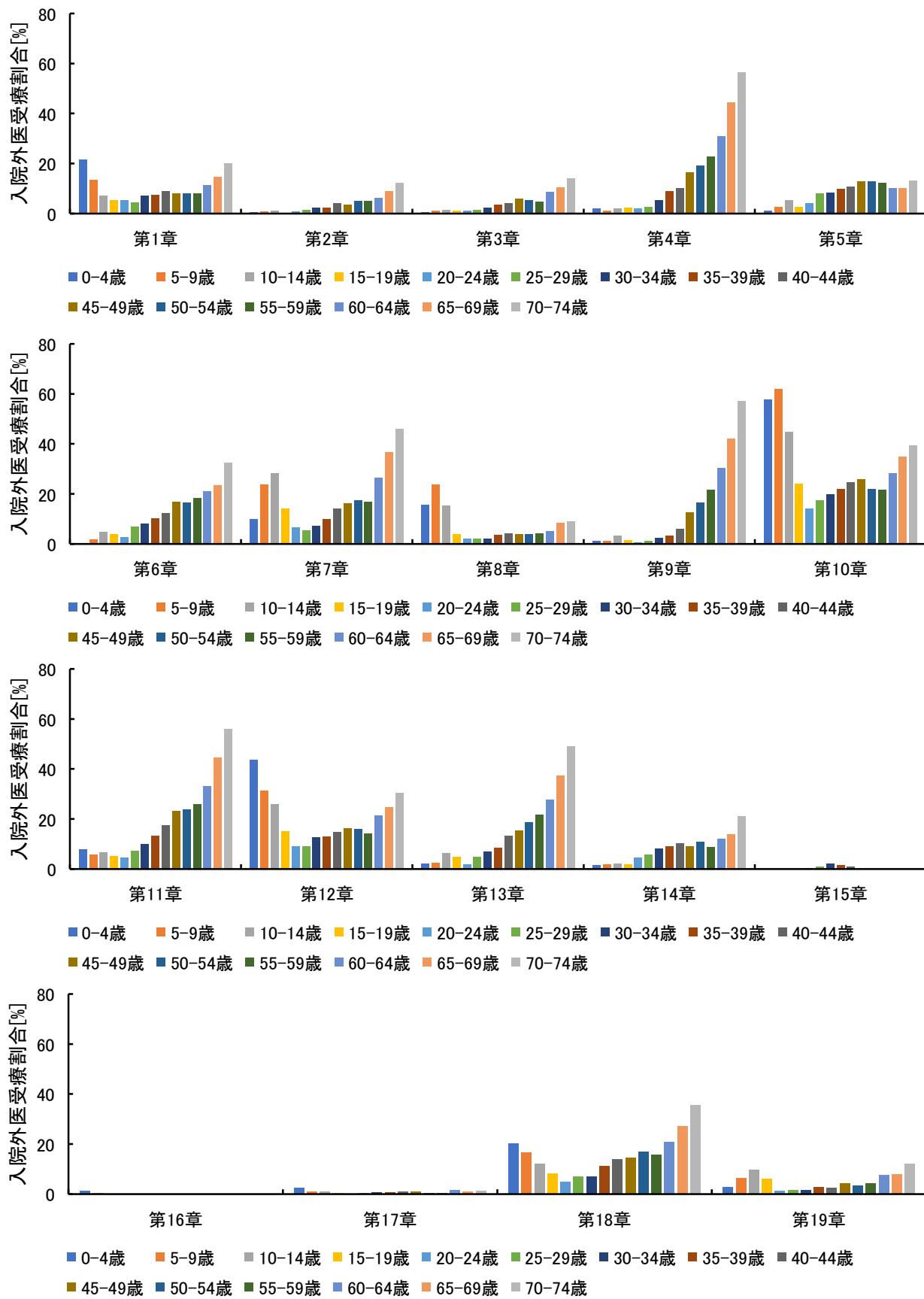


図 4-8 疾病分類別の年齢階級別入院外受療割合

## 第5章 国保医療費の上位疾患の構造

### 1. 総医療費の上位疾患

表5-1にICD10の傷病名コードに記載される5,515傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位30位までの傷病名と患者数、受療割合を示した。第17位には高脂血症(傷病名コード: 2724007)、第20位には脂質異常症(8844446)がある。分析にはICD10の傷病名コードを利用しているため、この2つの類似の傷病名が分かれている。

表5-1より、患者数は3位に高血圧症(3,103人、令和4年度2位(3,305人))、20位に脂質異常症(1,112人、令和4年度:16位(1,152人))、29位に糖尿病(985人、令和4年度:21位(1,118人))が位置していることから、慢性疾患患者の人数が多いことがわかった。また、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、近視性乱視、湿疹、白内障、皮脂欠乏症など呼吸器系、眼科系、皮膚に関する疾患の患者数も多いことがわかった。

表5-1 総医療費の患者数に関わる上位疾患

患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	4,009	21.0	16位	慢性胃炎	1,312	6.9
2位	急性気管支炎	3,343	17.5	17位	高脂血症	1,170	6.1
3位	高血圧症	3,103	16.3	18位	皮脂欠乏症	1,120	5.9
4位	急性上気道炎	2,633	13.8	19位	白内障	1,117	5.9
5位	アレルギー性結膜炎	2,254	11.8	20位	脂質異常症	1,112	5.8
6位	近視性乱視	2,074	10.9	21位	鉄欠乏性貧血	1,060	5.6
7位	不眠症	1,853	9.7	22位	逆流性食道炎	1,057	5.5
8位	便秘症	1,732	9.1	23位	骨粗鬆症	1,051	5.5
9位	気管支喘息	1,715	9.0	24位	胃炎	1,046	5.5
10位	急性咽頭喉頭炎	1,644	8.6	25位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	1,039	5.5
11位	湿疹	1,461	7.7	26位	2型糖尿病	1,030	5.4
12位	急性副鼻腔炎	1,420	7.4	27位	胃潰瘍	1,023	5.4
13位	高コレステロール血症	1,359	7.1	28位	ドライアイ	1,016	5.3
14位	腰痛症	1,352	7.1	29位	糖尿病	985	5.2
15位	急性咽頭炎	1,326	7.0	30位	COVID-19	932	4.9

表 5-2 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位 30 位までの傷病名と患者数、受療割合を性別に示した。表 5-2 より、慢性疾患の高血圧症は男性は 1 位(令和 4 年度:1 位)、女性は 5 位(令和 4 年度:3 位)、脂質異常症は男性は 22 位(令和 4 年度:21 位)、女性は 24 位(令和 4 年度:23 位)、糖尿病は男性は 19 位(令和 4 年度:14 位)、女性は 36 位(令和 4 年度:30 位)であった。その他に、不眠症は男性 6 位、女性 7 位、便秘症は男性 9 位、女性 8 位であった。また、女性の変形性膝関節症は 27 位に位置していた。

表 5-2 総医療費の患者数に関わる性別の上位疾患

男性				女性			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	1,649	17.9	1位	アレルギー性鼻炎	2,442	24.7
2位	アレルギー性鼻炎	1,567	17.1	2位	急性気管支炎	1,959	19.8
3位	急性気管支炎	1,384	15.1	3位	アレルギー性結膜炎	1,529	15.5
4位	急性上気道炎	1,151	12.5	4位	急性上気道炎	1,482	15.0
5位	近視性乱視	860	9.4	5位	高血圧症	1,454	14.7
6位	不眠症	738	8.0	6位	近視性乱視	1,214	12.3
7位	アレルギー性結膜炎	725	7.9	7位	不眠症	1,115	11.3
8位	気管支喘息	712	7.7	8位	便秘症	1,036	10.5
9位	便秘症	696	7.6	9位	急性咽頭喉頭炎	1,021	10.3
10位	高尿酸血症	640	7.0	10位	気管支喘息	1,003	10.2
11位	高コレステロール血症	623	6.8	11位	湿疹	941	9.5
12位	急性咽頭喉頭炎	623	6.8	12位	骨粗鬆症	895	9.1
13位	2型糖尿病	598	6.5	13位	急性副鼻腔炎	860	8.7
14位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	563	6.1	14位	腰痛症	810	8.2
15位	急性咽頭炎	562	6.1	15位	慢性胃炎	802	8.1
16位	急性副鼻腔炎	560	6.1	16位	急性咽頭炎	764	7.7
17位	腰痛症	542	5.9	17位	高コレステロール血症	736	7.5
18位	高脂血症	533	5.8	18位	白内障	726	7.4
19位	糖尿病	526	5.7	19位	ドライアイ	718	7.3
20位	湿疹	520	5.7	20位	胃炎	663	6.7
21位	慢性胃炎	510	5.6	21位	皮脂欠乏症	655	6.6
22位	脂質異常症	504	5.5	22位	鉄欠乏性貧血	646	6.5
23位	胃潰瘍	486	5.3	23位	高脂血症	637	6.5
24位	逆流性食道炎	465	5.1	24位	脂質異常症	608	6.2
25位	皮脂欠乏症	465	5.1	25位	遠視性乱視	605	6.1
26位	COVID-19	416	4.5	26位	逆流性食道炎	592	6.0
27位	鉄欠乏性貧血	414	4.5	27位	変形性膝関節症	571	5.8
28位	白内障	391	4.3	28位	咽頭炎	552	5.6
29位	胃炎	383	4.2	29位	胃潰瘍	537	5.4
30位	前立腺肥大症	379	4.1	30位	COVID-19	516	5.2

表 5-3 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、総医療費の患者数に関わる上位 15 位までの傷病名と患者数、受療割合を年齢階級別に示した。表 5-3 より、0-4 歳から 40-49 歳までは急性上気道炎、急性気管支炎、アレルギー性鼻炎が 1~3 位に位置しており、アレルギー性結膜炎も高い順位を位置していることがわかった。うつ病は 25-29 歳(11 位)、統合失調症は 40-44 歳(13 位)、不眠症は 20-24 歳(14 位)で患者数が多いことがわかった。また、高血圧症は 45-49 歳(7 位)、脂質異常症は 55-59 歳(11 位)、糖尿病は 60-64 歳(14 位)から患者数が多いことがわかった。

表 5-3(a) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(0-19 歳)

0-4歳				5-9歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	急性上気道炎	192	49.2	1位	急性上気道炎	259	57.0
2位	急性気管支炎	189	48.5	2位	急性気管支炎	247	54.4
3位	アレルギー性鼻炎	144	36.9	3位	アレルギー性鼻炎	225	49.6
4位	湿疹	101	25.9	4位	気管支喘息	158	34.8
5位	気管支喘息	88	22.6	5位	急性咽頭炎	134	29.5
6位	発熱	87	22.3	6位	耳垢栓塞	118	26.0
7位	急性咽頭炎	79	20.3	7位	発熱	114	25.1
8位	急性胃腸炎	76	19.5	8位	急性咽頭喉頭炎	113	24.9
9位	皮脂欠乏性湿疹	73	18.7	9位	アレルギー性結膜炎	109	24.0
10位	皮脂欠乏症	66	16.9	10位	急性副鼻腔炎	103	22.7
11位	耳垢栓塞	63	16.2	11位	皮脂欠乏症	78	17.2
12位	急性咽頭喉頭炎	54	13.8		インフルエンザA型	78	17.2
13位	急性副鼻腔炎	52	13.3	13位	湿疹	76	16.7
14位	結膜炎	42	10.8	14位	急性胃腸炎	69	15.2
15位	急性湿疹	35	9.0	15位	インフルエンザ	64	14.1
10-14歳				15-19歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	199	42.8	1位	アレルギー性鼻炎	151	23.2
2位	急性気管支炎	188	40.4	2位	急性気管支炎	147	22.6
3位	急性上気道炎	173	37.2	3位	急性上気道炎	142	21.8
4位	アレルギー性結膜炎	114	24.5	4位	急性咽頭炎	100	15.4
5位	気管支喘息	106	22.8	5位	アレルギー性結膜炎	67	10.3
6位	急性咽頭炎	105	22.6		近視性乱視	67	10.3
7位	急性咽頭喉頭炎	93	20.0	7位	急性咽頭喉頭炎	64	9.8
8位	耳垢栓塞	90	19.4	8位	急性副鼻腔炎	60	9.2
9位	急性副鼻腔炎	85	18.3	9位	気管支喘息	55	8.5
10位	近視性乱視	80	17.2		インフルエンザA型	55	8.5
11位	インフルエンザA型	70	15.1		発熱	55	8.5
12位	皮脂欠乏症	63	13.5	12位	COVID-19	45	6.9
13位	発熱	61	13.1	13位	皮脂欠乏症	43	6.6
14位	湿疹	41	8.8	14位	インフルエンザ	35	5.4
15位	急性鼻炎	40	8.6	15位	耳垢栓塞	33	5.1
	インフルエンザB型	40	8.6		尋常性ざ瘡	33	5.1

表 5-3(b) 総医療費の患者数に関わる年齢階級別の上位疾患(20-39 歳)

20-24歳				25-29歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	急性気管支炎	170	10.9	1位	急性気管支炎	184	12.7
2位	急性上気道炎	161	10.3	2位	アレルギー性鼻炎	171	11.8
3位	アレルギー性鼻炎	159	10.2	3位	急性上気道炎	158	10.9
4位	急性咽頭喉頭炎	93	6.0	4位	急性咽頭喉頭炎	87	6.0
5位	近視性乱視	88	5.6	5位	近視性乱視	77	5.3
6位	急性咽頭炎	73	4.7	6位	不眠症	75	5.2
7位	急性副鼻腔炎	67	4.3	7位	急性咽頭炎	74	5.1
8位	COVID-19	65	4.2	8位	急性副鼻腔炎	72	5.0
9位	アレルギー性結膜炎	63	4.0	9位	アレルギー性結膜炎	65	4.5
10位	気管支喘息	57	3.6	10位	気管支喘息	63	4.3
11位	湿疹	53	3.4	11位	うつ病	60	4.1
12位	皮脂欠乏症	47	3.0	12位	COVID-19	55	3.8
13位	頭痛	46	2.9	13位	胃炎	52	3.6
14位	不眠症	39	2.5	14位	頭痛	51	3.5
15位	咽頭炎	38	2.4	15位	神経症	47	3.2
30-34歳				35-39歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	183	16.6	1位	アレルギー性鼻炎	188	18.3
2位	急性気管支炎	144	13.0	2位	急性気管支炎	173	16.8
3位	急性上気道炎	144	13.0	3位	急性上気道炎	148	14.4
4位	急性咽頭喉頭炎	83	7.5	4位	急性咽頭喉頭炎	88	8.6
5位	不眠症	72	6.5	5位	アレルギー性結膜炎	83	8.1
6位	近視性乱視	71	6.4	6位	不眠症	82	8.0
7位	急性副鼻腔炎	70	6.3	7位	急性副鼻腔炎	77	7.5
	アレルギー性結膜炎	70	6.3	8位	気管支喘息	76	7.4
9位	気管支喘息	69	6.2	9位	近視性乱視	74	7.2
10位	急性咽頭炎	62	5.6	10位	急性咽頭炎	68	6.6
11位	湿疹	49	4.4	11位	胃炎	53	5.2
12位	COVID-19	46	4.2	12位	COVID-19	50	4.9
13位	下痢症	44	4.0	13位	湿疹	49	4.8
14位	急性胃炎	42	3.8	14位	頭痛	48	4.7
	腰痛症	42	3.8	15位	鉄欠乏性貧血	46	4.5

表 5-3(c) 総医療費の患者数に関する年齢階級別の上位疾患(40-59 歳)

40-44歳				45-49歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	191	17.9	1位	アレルギー性鼻炎	220	19.3
2位	急性気管支炎	159	14.9	2位	急性気管支炎	155	13.6
3位	急性上気道炎	124	11.6	3位	不眠症	121	10.6
4位	不眠症	107	10.0	4位	急性上気道炎	116	10.2
5位	近視性乱視	99	9.3	5位	近視性乱視	107	9.4
6位	アレルギー性結膜炎	96	9.0	6位	アレルギー性結膜炎	106	9.3
7位	急性咽頭喉頭炎	90	8.5	7位	高血圧症	92	8.1
8位	気管支喘息	88	8.3	8位	気管支喘息	91	8.0
9位	急性咽頭炎	70	6.6	9位	便秘症	87	7.6
	便秘症	70	6.6	10位	急性咽頭喉頭炎	83	7.3
11位	急性副鼻腔炎	67	6.3	11位	腰痛症	82	7.2
12位	湿疹	66	6.2	12位	慢性胃炎	81	7.1
13位	統合失調症	65	6.1	13位	急性副鼻腔炎	76	6.7
14位	腰痛症	64	6.0	14位	湿疹	74	6.5
15位	慢性胃炎	63	5.9	15位	統合失調症	68	6.0
50-54歳				55-59歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	アレルギー性鼻炎	252	17.8	1位	高血圧症	233	18.0
2位	高血圧症	180	12.7	2位	アレルギー性鼻炎	220	16.9
3位	急性気管支炎	171	12.1	3位	急性気管支炎	160	12.3
4位	不眠症	164	11.6	4位	不眠症	148	11.4
5位	急性上気道炎	148	10.5	5位	急性上気道炎	124	9.6
6位	近視性乱視	140	9.9	6位	近視性乱視	118	9.1
7位	アレルギー性結膜炎	132	9.3	7位	便秘症	117	9.0
8位	便秘症	115	8.1	8位	アレルギー性結膜炎	114	8.8
9位	気管支喘息	92	6.5	9位	慢性胃炎	109	8.4
	鉄欠乏性貧血	92	6.5	10位	腰痛症	92	7.1
11位	慢性胃炎	88	6.2	11位	高コレステロール血症	87	6.7
12位	急性咽頭喉頭炎	87	6.2		脂質異常症	87	6.7
13位	腰痛症	84	5.9	13位	高脂血症	83	6.4
	胃炎	84	5.9	14位	逆流性食道炎	78	6.0
15位	湿疹	81	5.7		維持療法の必要な難治性逆流性食	78	6.0
	統合失調症	81	5.7				

表 5-3(d) 総医療費の患者数に関する年齢階級別の上位疾患(60-74 歳)

60-64歳				65-69歳			
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]	患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]
1位	高血圧症	357	25.4	1位	高血圧症	702	32.1
2位	アレルギー性鼻炎	279	19.9	2位	アレルギー性鼻炎	530	24.3
3位	急性気管支炎	196	14.0	3位	急性気管支炎	384	17.6
4位	近視性乱視	192	13.7	4位	アレルギー性結膜炎	376	17.2
5位	不眠症	190	13.5	5位	近視性乱視	355	16.2
6位	アレルギー性結膜炎	183	13.0	6位	高コレステロール血症	326	14.9
7位	便秘症	166	11.8	7位	白内障	298	13.6
8位	高コレステロール血症	154	11.0	8位	便秘症	292	13.4
9位	高脂血症	147	10.5	9位	不眠症	276	12.6
10位	急性上気道炎	142	10.1	10位	脂質異常症	263	12.0
11位	腰痛症	140	10.0	11位	腰痛症	258	11.8
12位	気管支喘息	122	8.7	12位	骨粗鬆症	255	11.7
13位	湿疹	120	8.5	13位	高脂血症	245	11.2
14位	糖尿病	118	8.4	14位	ドライアイ	227	10.4
15位	慢性胃炎	117	8.3	15位	急性上気道炎	223	10.2
70-74歳							
患者数順位	傷病名	患者数[人]	受療割合[%]				
1位	高血圧症	1,460	42.3				
2位	アレルギー性鼻炎	897	26.0				
3位	急性気管支炎	676	19.6				
4位	アレルギー性結膜炎	656	19.0				
5位	高コレステロール血症	654	18.9				
6位	便秘症	649	18.8				
7位	白内障	637	18.4				
8位	骨粗鬆症	618	17.9				
9位	近視性乱視	580	16.8				
10位	不眠症	559	16.2				
	高脂血症	559	16.2				
12位	脂質異常症	504	14.6				
13位	腰痛症	501	14.5				
14位	遠視性乱視	497	14.4				
15位	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	495	14.3				

## 2. 入院医療費の上位疾患

図 5-1 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院医療費の中央値を示した。患者数が 3 名以下の場合には採用しなかった。図 5-1 より、ローズピンク色(第 6 章)の神経系の疾患、後遺症等が全体の入院医療費では上位に位置することがわかった。

全体	下段は医療費(中央値)[円]									
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	脳性麻痺	摂食障害	気管切開術後	僧帽弁閉鎖不全症	器質性精神障害	アテローム血栓性脳梗塞・急性期	陳旧性心筋梗塞	症候性てんかん	慢性呼吸不全	脳梗塞後遺症
	6,691,400	6,671,090	6,119,905	4,272,825	3,671,285	3,609,080	3,605,240	3,342,625	3,334,280	3,244,395

図 5-1 入院医療費(中央値)に関する上位 10 疾患(人数 3 名以下は採用しない)

図 5-2 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院医療費の中央値を年齢階級別に示した。患者数が 3 名以下の場合には採用しなかった。図 5-2 より、黄緑色(第 5 章の精神及び行動の障害)の統合失調症は 40 歳から 64 歳までの働き世代で上位に位置していることがわかった。ローズピンク色(第 6 章の神経系の疾患)も 40 歳から 64 歳までの働き世代で多く、特に不眠症が上位に位置していることがわかった。

下段は医療費(中央値)[円]										
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	8位	9位	10位	
40-44歳	脳性麻痺	てんかん	統合失調症	精神運動発作	神経症	不眠症	うつ病	鉄欠乏性貧血	弛緩出血	子宮内感染症
	7,499,490	6,889,200	3,035,845	1,824,650	909,490	829,190	829,190	421,305	255,570	249,430
45-49歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位				
	脂質異常症	てんかん	統合失調症	鉄欠乏性貧血	神経症	呼吸不全	-	-	-	-
50-54歳	5,002,590	2,140,825	1,246,830	1,107,650	956,430	862,035				
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
55-59歳	誤嚥性肺炎	骨粗鬆症	脱水症	うつ状態	てんかん	鉄欠乏性貧血	統合失調症	甲状腺機能低下症	神経症	うつ病
	5,654,445	5,654,445	3,507,570	2,476,800	2,061,215	1,866,135	1,363,790	944,660	816,430	552,340
60-64歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	症候性てんかん	片麻痺	前立腺肥大症	低カリウム血症	廃用症候群	癌性疼痛	逆流性食道炎	肝機能障害	鉄欠乏性貧血	不眠症
65-69歳	4,596,850	3,489,505	3,374,185	2,679,435	2,092,905	1,494,240	1,286,615	1,251,740	1,251,740	1,209,100
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
70-74歳	虚血性心疾患	慢性心不全	嚥下障害	呼吸困難	不眠症	うつ性心不全	統合失調症	うつ病	心不全	てんかん
	4,272,825	3,605,240	3,567,495	2,662,585	2,449,860	2,289,835	2,268,135	2,268,135	2,093,260	1,918,425
75歳以上	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	
	アルツハイマー型認知症	パーキンソン病	慢性呼吸不全	脳梗塞後遺症	急性循環不全	てんかん	肺炎	誤嚥性肺炎	認知症	うつ病
75歳以上	3,599,100	3,348,350	2,378,620	2,301,635	2,035,575	1,967,180	1,889,530	1,783,630	1,766,845	1,748,605
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
75歳以上	気管切開術後	脳梗塞後遺症	アテローム血栓性脳梗塞	胃瘻造設状態	経口摂取困難	統合失調症	アテローム血栓性脳梗塞・急性期	虚血性脳血管障害	慢性呼吸不全	嚥下障害
	6,809,595	5,546,450	4,801,810	4,173,335	4,089,015	3,692,880	3,609,080	3,054,970	2,893,610	2,658,690
75歳以上	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	誤嚥性肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-

図 5-2 入院医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患(人数 3 名以下は採用しない)

### 3. 入院外医療費の上位疾患

図 5-3 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院外医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院外医療費の中央値を示した。患者数が 10 名以下の場合には採用しなかった。図 5-3 より、全体の入院外医療費では水色(第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患)が上位に位置していることがわかった。

全体	下段は医療費(中央値)[円]									
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	透析シャント狭窄	透析困難症	末期腎不全	高リン血症	続発性副甲状腺機能亢進症	慢性腎臓病ステージG5D	多発性骨髄腫	カルニチン欠乏症	上肢痛	副甲状腺機能亢進症
	4,877,285	4,767,410	4,746,730	4,578,405	4,509,620	4,160,770	3,826,130	3,617,390	3,473,080	3,038,960

図 5-3 入院外医療費(中央値)に関する上位 10 疾患(人数 10 名以下は採用しない)

図 5-4 に ICD10 の傷病名コードに記載される 5,515 傷病名を対象に、入院外医療費の中央値の上位 10 位までの傷病名と入院外医療費の中央値を年齢階級別に示した。患者数が 10 名以下の場合には採用しなかった。図 5-4 より、オレンジ色(第 10 章の呼吸器系の疾患)は 0-4 歳、5-9 歳で上位に位置していることがわかった。ピンク色(第 1 章の感染症及び寄生虫症)の下痢症は 5-9 歳～15-19 歳までは上位に位置していることがわかった。20-24 歳からは黄緑色(第 5 章の精神及び行動の障害)が増加していた。35-39 歳からは水色(第4章の内分泌、栄養及び代謝疾患)が増加していた。

下段は医療費(中央値)[円]										
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
0-4歳	急性喉頭炎	感冒	外耳湿疹	急性鼻炎	外耳炎	急性中耳炎	アレルギー性結膜炎	皮膚炎	眼瞼炎	じんま疹
	170,510	162,005	155,020	153,500	153,305	153,110	144,785	133,390	127,160	126,990
5-9歳	1位	2位	4位	5位	6位	7位	8位	9位		
	頭痛	細菌感染症	スギ花粉症	鼻出血症	急性喉頭炎	滲出性中耳炎	感冒	外耳湿疹	急性鼻炎	下痢症
10-14歳	164,250	160,730	160,730	160,540	159,395	158,825	143,245	142,265	141,155	141,155
	1位	2位	3位	4位	6位	7位	8位	9位	10位	
15-19歳	滲出性中耳炎	スギ花粉症	鼻出血症	下痢症	皮膚炎	外耳湿疹	急性鼻炎	慢性副鼻腔炎	頭痛	便秘症
	135,460	124,170	117,420	108,760	108,760	101,980	89,715	80,320	73,330	68,600
20-24歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	便秘症	外耳炎	嘔吐症	外耳湿疹	ドライアイ	慢性胃炎	耳垢栓塞	慢性副鼻腔炎	急性鼻炎	下痢症
25-29歳	83,235	78,410	64,340	58,215	53,890	51,830	50,110	49,270	47,890	47,890
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
30-34歳	腰痛症	統合失調症	便秘症	脱水症	不眠症	胃潰瘍	うつ病	神経症	慢性副鼻腔炎	扁桃炎
	88,210	85,865	73,340	70,610	65,530	65,120	60,420	59,470	59,210	56,640
35-39歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	躁うつ病	外耳湿疹	めまい症	疼痛	統合失調症	うつ病	うつ血性鼻炎	片頭痛	不安障害	鉄欠乏性貧血
	100,770	94,030	82,035	69,670	67,450	66,005	65,945	65,600	64,510	64,440
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	胃潰瘍	躁うつ病	注意欠陥多動障害	細菌感染症	適応障害	統合失調症	咽頭喉頭炎	不眠症	片頭痛	うつ病
	90,870	80,340	80,240	79,560	66,550	63,730	62,560	58,850	58,850	57,760
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	8位	9位	10位	
	てんかん	うつ状態	甲状腺機能低下症	皮膚炎	不安神経症	頸肩腕症候群	嘔吐症	扁桃炎	肝機能障害	糖尿病
	102,340	101,430	99,340	97,610	97,135	96,680	96,680	91,100	87,400	87,270

図 5-4(a) 入院外医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患(0-4 歳～35-39 歳)  
(人数 10 名以下は採用しない)

下段は医療費(中央値)[円]

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
40-44歳	神経障害性疼痛	甲状腺機能低下症	肩関節周囲炎	末梢神経障害	維持療法の必要な難治性逆流性食道炎	便秘症	高コレステロール血症	神経症	脂質異常症	てんかん
	176,630	144,140	136,430	120,450	114,880	113,185	107,530	104,470	102,975	100,590
45-49歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	骨粗鬆症	慢性気管支炎	腰椎椎間板ヘルニア	睡眠時無呼吸症候群	不整脈	末梢神経障害性疼痛	甲状腺機能低下症	躁うつ病	心不全	大腸ポリープ
50-54歳	202,220	197,840	195,095	188,730	178,650	176,690	159,145	155,470	142,980	140,785
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
55-59歳	皮膚そう痒症	乳癌	骨粗鬆症	双極性感情障害	末梢循環障害	糖尿病網膜症	嘔吐症	関節リウマチ	睡眠時無呼吸症候群	白内障
	308,520	236,010	211,860	181,950	177,200	167,795	164,070	155,345	151,775	139,215
60-64歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	化学療法に伴う嘔吐症	神経因性膀胱	慢性便秘	睡眠時無呼吸症候群	乳癌	薬剤性バーキンソン症候群	口内炎	過敏性腸症候群	急性扁桃炎	皮膚潰瘍
65-69歳	448,335	322,240	304,365	217,700	199,910	175,250	167,895	161,480	158,695	156,385
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	
70-74歳	高リン血症	腎性貧血	慢性腎不全	呼吸不全	低酸素血症	化学療法に伴う嘔吐症	慢性疼痛	神経因性膀胱	皮膚そう痒症	2型糖尿病・糖尿病性合併症なし
	4,667,300	4,586,120	2,237,940	1,271,980	994,760	693,900	453,150	347,490	289,760	289,760
65-69歳	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	高リン血症	続発性副甲状腺機能亢進症	腎性貧血	慢性腎不全	化学療法に伴う嘔吐症	ニューモシスチス肺炎	呼吸不全	低酸素血症	癌性疼痛	慢性便秘
70-74歳	3,692,510	3,692,510	3,012,850	1,412,690	1,306,175	611,090	493,465	484,740	450,280	399,990
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
70-74歳	高リン血症	続発性副甲状腺機能亢進症	経口摂取困難	腎性貧血	好中球減少症	慢性呼吸不全	癌性疼痛	化学療法に伴う嘔吐症	コレステロール結石	肺癌
	4,722,370	4,560,690	1,696,910	1,224,425	982,335	963,370	572,540	474,090	473,450	450,810

図 5-4(b) 入院外医療費(中央値)に関する年齢階級別の上位 10 疾患(40-44 歳～70-74 歳)

(人数 10 名以下は採用しない)

## 第6章 注目疾患別に見た診療の状況

### 1. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費

表6-1に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が2名以下の場合には採用しなかった。表6-1より、入院医療費は45-49歳から糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、50-54歳から腎不全、55-59歳から心疾患、脳出血・脳梗塞の医療費が発生していた。

表6-2に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院受療割合を示した。表6-2より、糖尿病の入院受療割合は30-34歳のタイミングで増加し、60-64歳では受療割合が1.8%を超えていた。高血圧は50-54歳、55-59歳、60-64歳、70-74歳のタイミングで大きく増加し、60-64歳では受療割合が2.1%を超えていた。脂質異常症は年齢に伴い増加し、60-64歳では受療割合が1.2%を超えていた。心疾患、脳血管疾患の受療割合は55-59歳のタイミングで大きく増加していた。

表6-1 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院医療費の中央値(人数2名以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0	0	1,570,810	80,340	344,750	710,435	443,290	194,470	962,560	844,800	935,920
高血圧	0	0	0	0	0	956,430	443,290	1,062,110	778,230	572,810	950,930
脂質異常症	0	0	0	0	0	3,891,860	629,860	1,458,640	771,720	594,210	800,350
心疾患	0	0	0	0	0	0	0	1,899,965	1,341,245	844,800	1,013,240
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	0	2,679,435	1,435,745	1,014,460	1,143,515
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	2,382,160	0	0	2,396,360
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	669,215	1,713,580	1,246,385
腎不全	0	0	0	0	0	0	8,087,920	0	602,220	572,810	612,980
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表6-2 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	0.1	0	0.3	0.3	0.4	0.5	0.5	0.7	1.8	1.1	1.7
高血圧	0	0	0.1	0.2	0.1	0.3	0.6	0.8	2.1	1.7	2.6
脂質異常症	0	0	0.1	0	0.1	0.5	0.6	0.5	1.2	0.9	1.8
心疾患	0	0	0.1	0	0	0	0	0.3	0.9	0.4	0.8
脳血管疾患	0	0	0.1	0.1	0	0.2	0	0.5	0.6	0.6	1.3
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0.1	0	0	0.2	0.1	0.1	0.4
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0.1	0	0	0.2	0.6	0.1	0.3
腎不全	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0.2	0.8	0.3	0.4
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.4	0.1	0.3

## 2. 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費

表 6-3 に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-3 より、糖尿病の入院外医療費は 20-24 歳から発生していた(10-14 歳を除く)。高血圧の入院外医療費は 25-29 歳から発生していた。脂質異常症の入院外医療費は 20-24 歳から発生していた。慢性疾患の糖尿病、高血圧、脂質異常症の入院外医療費の発生年齢は同じ傾向にあった。腎不全の入院外医療費は 35-39 歳から発生し、60-64 歳では 36 万円以上の入院外医療費が発生していた。

表 6-4、図 6-1、6-2、6-3 に慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外受療割合を示した。表 6-4、図 6-1、6-2、6-3 より、糖尿病、高血圧、脂質異常症の慢性疾患、腎・糖尿病合併症の入院外受療割合は 45-49 歳から割合が増加していた。45-49 歳で糖尿病は 7.0%、高血圧は 8.2%、脂質異常症は 6.6%であり、70-74 歳では糖尿病 25.7%、高血圧 45.2%、脂質異常症 40.4%まで上昇していた。

表 6-3 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	0	0	242,490	18,740	81,940	67,690
高血圧	0	0	0	0	0	293,180	106,050	45,130
脂質異常症	0	0	0	0	122,450	83,000	67,750	45,195
心疾患	0	0	0	0	0	0	106,350	42,820
脳血管疾患	0	0	0	0	0	0	41,250	59,755
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
腎不全	0	0	0	0	0	0	0	3,617,390
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	77,290	99,415	87,980	80,050	122,515	102,040	133,610
高血圧	85,030	71,280	66,750	76,250	93,680	90,150	119,940
脂質異常症	103,660	71,280	72,650	78,955	91,365	90,700	120,860
心疾患	116,125	107,340	121,810	85,120	166,700	125,350	169,940
脳血管疾患	114,050	107,470	70,850	90,665	109,900	103,920	139,400
脳出血・脳梗塞	0	118,345	73,180	88,535	46,810	84,310	118,110
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	2,714,305	234,350	173,060	225,700	114,965	146,000
腎不全	0	265,970	99,875	116,420	368,250	161,100	220,375
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	99,960	0	188,180

表 6-4 慢性疾患、心・脳血管疾患、腎疾患に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
糖尿病	0	0	0.4	0.3	0.3	0.2	1.3	2.5
高血圧	0	0	0.2	0	0.1	0.3	0.8	2.5
脂質異常症	0	0	0.2	0.2	0.3	1.2	1.2	2.9
心疾患	0	0	0.2	0.2	0	0.1	0.4	0.3
脳血管疾患	0	0	0	0	0.1	0.1	0.3	0.4
脳出血・脳梗塞	0	0	0	0	0	0	0	0.1
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0.2
腎不全	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.3
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
糖尿病	3.5	7.0	9.7	10.6	15.5	19.0	25.7
高血圧	4.6	8.2	13.6	19.3	26.9	35.1	45.2
脂質異常症	3.3	6.6	12.0	16.0	24.1	31.8	40.4
心疾患	1.1	1.0	2.2	3.0	5.6	6.4	10.4
脳血管疾患	0.8	1.3	2.2	4.0	5.6	7.9	12.4
脳出血・脳梗塞	0	0.4	0.5	0.9	0.4	0.6	0.8
アテローム粥状硬化症 (下肢閉塞性動脈硬化症を含む)	0.1	0.5	0.6	0.8	2.1	2.9	5.3
腎不全	0	0.9	1.4	1.3	2.1	2.2	4.3
2型糖尿病性神経筋疾患	0	0	0.1	0.1	0.2	0	0.2

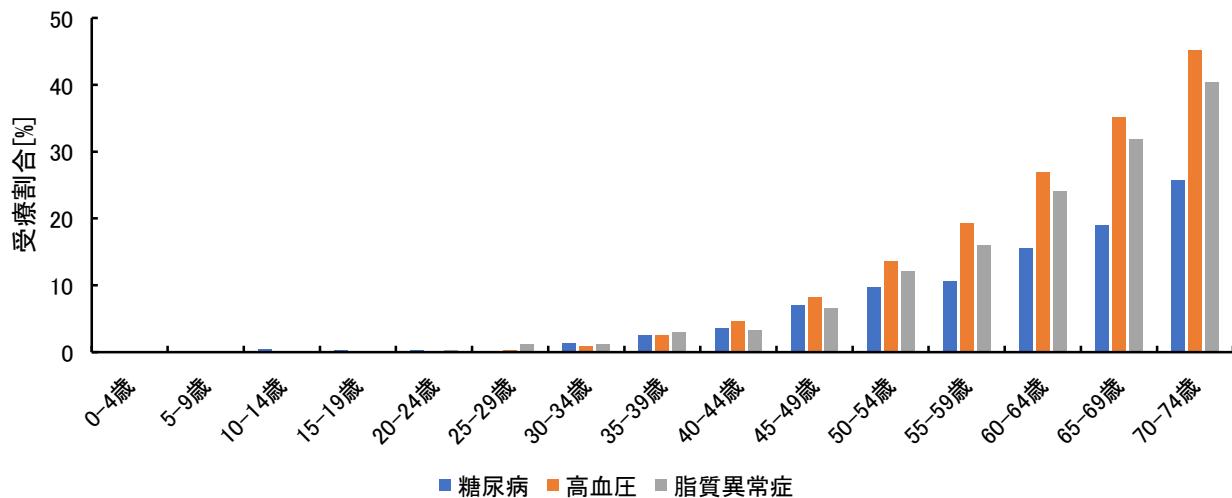


図 6-1 慢性疾患に対する入院外受療割合

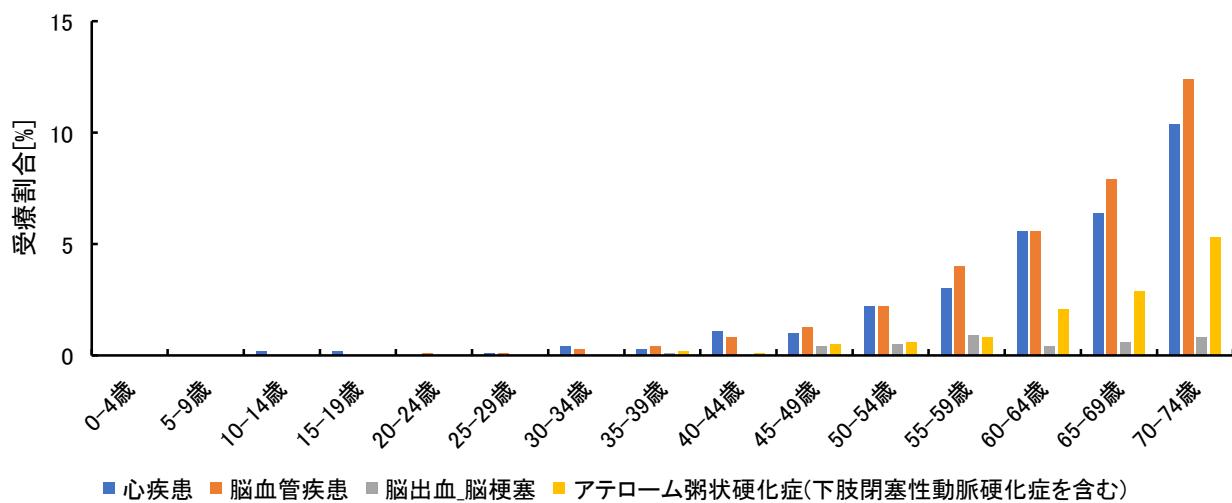


図 6-2 心・脳血管疾患に対する入院外受療割合

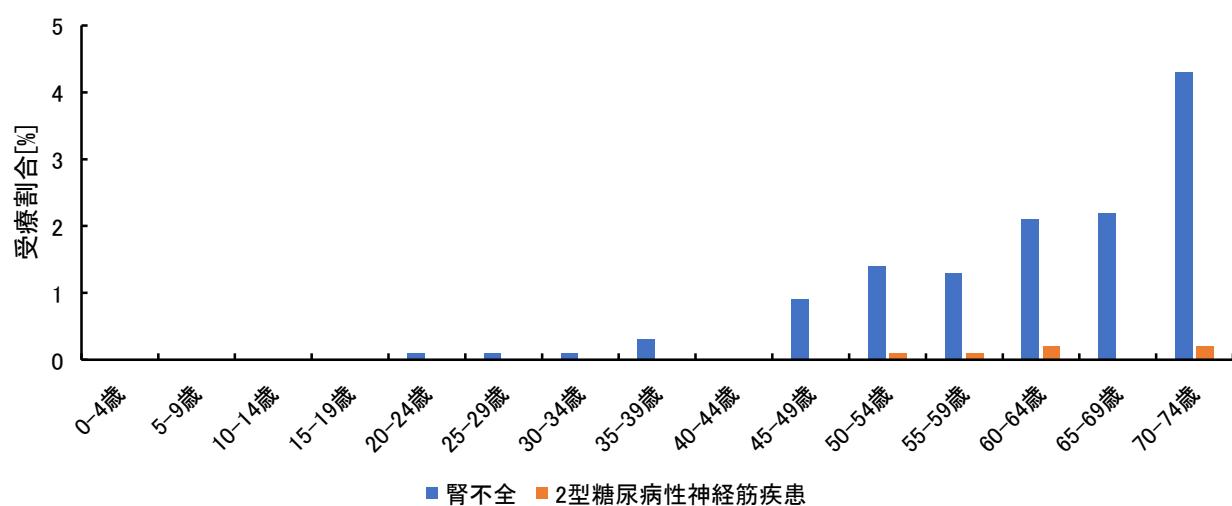


図 6-3 腎疾患に対する入院外受療割合

### 3. うつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費

表 6-5 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-5 より、入院医療費について睡眠障害は 20-24 歳から発生し、45-49 歳で大きく増加し、110 万円を超えていた(20-24 歳の 400 万円を除く)。うつ病エピソードは 40-44 歳、躁病エピソードは 35-39 歳から発生していた(うつ病エピソードの 20-24 歳を除く)。

表 6-6 にうつ病エピソード、躁病エピソード、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院受療割合を示した。表 6-6 より、睡眠障害は 40-44 歳のタイミングから大きく増加し、年齢とともに増加傾向にあった。アルツハイマー病は 40-44 歳、50-54 歳の受療割合は 0.1% であり、70-74 歳では 0.4% まで上昇していた。

表 6-5 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	1,113,950	0	0	0	829,190	2,049,140	1,446,030	851,415	3,486,380	1,427,515	1,100,010
躁病エピソード	0	0	0	748,360	0	3,410,710	2,450,720	1,078,990	4,685,130	0	635,070
睡眠障害	4,183,510	481,950	272,340	448,125	909,490	1,178,570	1,558,870	1,144,045	1,635,700	565,380	1,151,375
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0	967,710	3,599,100	993,260

表 6-6 うつ病、躁病、睡眠障害、アルツハイマー病に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
うつ病エピソード	0.2	0	0.1	0.2	0.6	0.4	0.5	0.6	0.4	0.5	0.5
躁病エピソード	0.1	0	0	0.3	0.2	0.3	0.2	0.4	0.2	0.1	0.1
睡眠障害	0.2	0.2	0.4	0.4	0.8	1.1	0.8	1.2	1.6	1.1	1.7
アルツハイマー病	0	0	0	0	0.1	0	0.1	0.3	0.4	0.2	0.4

#### 4. うつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外医療費

表 6-7 にうつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値を示した. 患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった. 表 6-7 より, うつ病エピソードの入院外医療費は 15-19 歳から発生し, 年齢とともに増加傾向にあり, 45-49 歳では 10 万円を超えていた. 睡眠障害の入院外医療費は 5-9 歳から発生し, 年齢とともに増加傾向にあった. アルツハイマー病の入院外医療費は 55-59 歳から発生し, 70-74 歳では 143,805 円であった.

表 6-8, 図 6-4 にうつ病エピソード, 躁病エピソード, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外受療割合を示した. 表 6-8, 図 6-4 より, うつ病エピソードの入院外受療割合は 10-14 歳から発生し, 35-39 歳で 5%を超える, 40 歳~59 歳までの働き世代では 5.0~6.7% を推移していた. 睡眠障害は 25-29 歳から大きく増加し, 50-54 歳では 12% を超え, 70-74 歳の受療割合は 17.4%まで増加した.

表 6-7 うつ病, 躁病, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0	77,515	60,420	63,820	57,655	75,240
躁病エピソード	0	0	0	76,360	84,295	83,350	80,380	64,500
睡眠障害	0	161,810	64,750	60,260	65,530	44,180	57,760	58,750
アルツハイマー病	0	0	0	0	0	0	0	0
	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	
うつ病エピソード	77,120	103,730	70,130	89,150	125,050	157,810	159,330	
躁病エピソード	99,105	134,685	103,160	147,870	230,900	177,190	160,250	
睡眠障害	71,415	107,470	82,110	120,420	132,360	135,030	148,330	
アルツハイマー病	0	0	0	295,540	150,180	42,040	143,805	

表 6-8 うつ病, 躁病, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
うつ病エピソード	0	0	0.4	0.9	2.4	4.7	4.5	5.5
躁病エピソード	0	0	0	0.8	0.8	1.4	2.1	2.9
睡眠障害	0	1.3	2.6	2.2	2.6	5.5	6.8	8.5
アルツハイマー病	0	0	0	0.2	0.1	0.2	0.4	1.1
	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	
うつ病エピソード	5.5	6.4	5.0	6.7	4.5	4.2	4.2	
躁病エピソード	3.2	2.6	2.4	1.9	1.2	0.9	0.8	
睡眠障害	10.3	11.3	12.8	12.6	14.7	14.2	17.4	
アルツハイマー病	1.1	2.2	2.2	4.5	6.1	7.9	11.9	

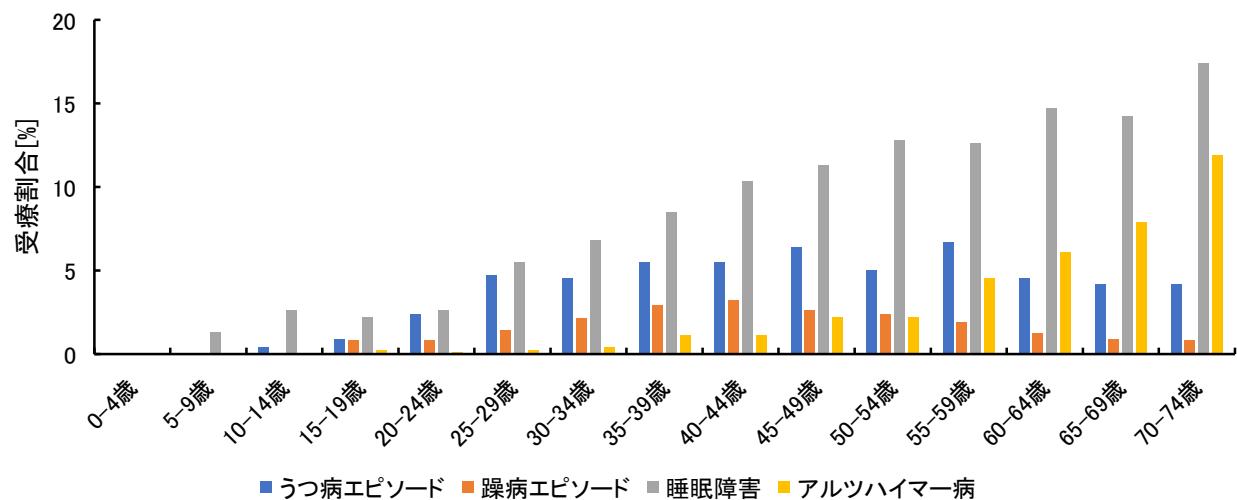


図 6-4 うつ病, 躁病, 睡眠障害, アルツハイマー病に対する入院外受療割合

## 5. 関節疾患に対する入院医療費

表 6-9 に膝関節症、股関節症、骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が2名以下の場合には採用しなかった。表 6-9 より、膝関節症の入院医療費は55-59歳、股関節症は70-74歳、骨粗しょう症は50-54歳から発生していることがわかった。

表 6-10 に膝関節症、股関節症、骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院受療割合を示した。表 6-10 より、膝関節症の入院受療割合は、40-44歳では0.1%、70-74歳では0.4%と年齢に伴い増加していた。骨粗しょう症の入院受療割合は20-24歳から発生しているが、大きく増加するのは60-64歳のタイミングであった。

表 6-9 膝関節症、股関節症、骨粗しょう症に対する入院医療費の中央値(人数2名以下は採用しない)

	単位[円]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	0	0	0	0	0	0	0	158,890	577,130	1,309,165	788,835
股関節症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	599,640
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0	0	0	5,654,445	1,494,240	774,975	590,755	948,010
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	5,654,445	0	774,975	590,755	948,010

表 6-10 膝関節症、股関節症、骨粗しょう症に対する入院受療割合

	単位[%]										
	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	0	0	0	0	0.1	0	0.1	0.3	0.4	0.2	0.4
股関節症	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0	0.1
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.1	0	0	0	0.2	0	0.3	0.2	0.6	0.8	1.1
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0.1	0	0	0	0.2	0	0.3	0.1	0.6	0.8	1.0

## 6. 関節疾患に対する入院外医療費

表 6-11 に膝関節症、股関節症、骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-11 より、膝関節症の入院外医療費は 25-29 歳、股関節症の入院外医療費は 40-44 歳から発生し、膝関節症、股関節症ともに年齢に伴い増加することがわかった(股関節症の 15-19 歳を除く)。

表 6-12、図 6-5 に膝関節症、股関節症、骨粗しょう症(骨折の有無)に対する入院外受療割合を示した。表 6-12、図 6-5 より、膝関節症、股関節症の入院外受療割合が 1%を超えるのは膝関節症は 35-39 歳、股関節症は 55-59 歳であった。

表 6-11 膝関節症、股関節症、骨粗しょう症に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0	0	0	0	0	83,000	118,480	58,750
股関節症	0	0	0	36,340	0	0	0	0
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0	0	0	0	242,490	0	45,700	523,300
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0	0	0	0	0	0	45,700	3,617,390

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	69,750	103,340	100,840	90,680	121,350	149,800	155,410
股関節症	31,085	81,290	197,440	138,180	157,150	151,045	170,560
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	339,430	206,950	204,475	125,000	138,090	164,585	161,610
骨粗しょう症(骨折を伴う)	252,365	202,220	211,860	116,420	138,090	161,315	162,215

表 6-12 膝関節症、股関節症、骨粗しょう症に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
膝関節症	0.0	0.0	0.0	0.2	0.1	0.2	0.4	1.1
股関節症	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.2
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.0	0.0	0.2	0.2	0.2	0.1	0.6	0.6
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.1	0.6	0.3

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
膝関節症	1.1	2.2	2.2	4.5	6.1	7.9	11.9
股関節症	0.4	0.9	0.6	1.3	1.1	1.9	2.8
骨粗しょう症(骨折を伴わない)	0.5	1.3	1.6	2.9	6.6	12.1	18.5
骨粗しょう症(骨折を伴う)	0.4	1.2	1.5	2.5	6.3	11.7	17.9

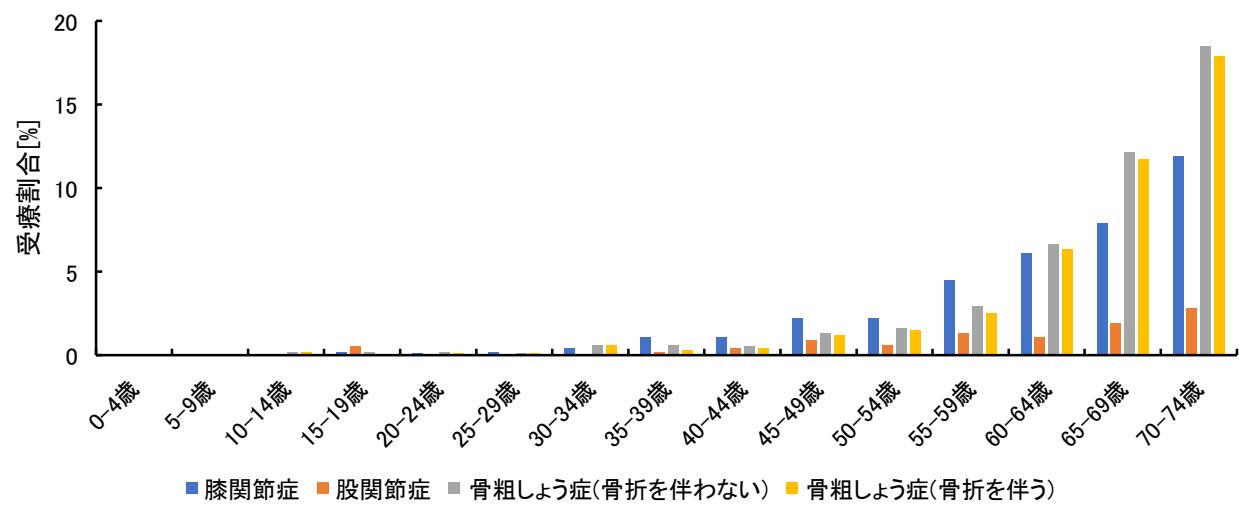


図 6-5 膝関節症, 股関節症, 骨粗しょう症に対する入院外受療割合

## 7. かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院医療費

表 6-13 にかぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院医療費の中央値を示した。患者数が 2 以下の場合には採用しなかった。表 6-13 より, 急性上気道感染症は 20-24 歳から入院医療費が発生し年齢に伴い増加傾向にあった。誤嚥性肺炎は 65-69 歳, 間質性肺炎は 70-74 歳で入院医療費が発生していた(誤嚥性肺炎の 50-54 歳を除く)。

表 6-14 にかぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院受療割合を示した。表 6-14 より, 肺炎の入院受療割合は 45-49 歳で 0.3% を超え, 60-64 歳は 0.4%, 65-69 歳, 70-74 歳は 0.5% であった。

表 6-13 かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する

入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0	4,920	0	0	0	0	610,640	0	412,480	257,690
急性上気道感染症	326,490	6,595	305,115	68,125	194,240	956,430	627,635	963,295	577,130	1,038,090	965,260
肺炎	0	0	0	0	0	1,246,830	0	1,251,740	1,009,235	1,830,200	2,061,525
誤嚥性肺炎	0	0	0	0	0	0	5,654,445	0	0	1,783,630	2,658,690
間質性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	243,265

表 6-14 かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	0	0.1	0.3	0	0	0.1	0.1	0.3	0	0.1	0.1
急性上気道感染症	0.2	0.3	0.4	0.8	0.7	0.6	0.3	0.6	0.8	0.9	1.0
肺炎	0	0	0.1	0	0.2	0.3	0.1	0.2	0.4	0.5	0.5
誤嚥性肺炎	0	0	0.1	0	0.1	0	0.3	0.2	0.1	0.2	0.3
間質性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1

## 8. かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院外医療費

表 6-15, 図 6-6 にかぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-15, 図 6-6 より, かぜ, 肺炎の入院外医療費は乳幼児期と高齢期の入院外医療費が高い構造となっていることがわかった。肺炎の入院外医療費は 35-39 歳から 13 万円を超え、入院医療費も高いことから肺炎予防に取り組む重要性が示された。

表 6-16, 図 6-7 にかぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院外受療割合を示した。図 6-7 より, 急性上気道感染症は乳幼児期の 0-4 歳で 53.6%, 5-10 歳で 65.9%, 10-14 歳で 54.2% であり、非常に高い割合で受療していることが確認できた。

表 6-15 かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する

入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	145,440	121,870	81,550	47,630	44,155	44,180	38,245	66,980
急性上気道感染症	59,210	49,180	42,465	30,360	25,455	28,470	27,860	32,565
肺炎	125,660	77,315	80,375	60,810	70,145	57,170	96,710	135,120
誤嚥性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
間質性肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	62,200	58,440	87,570	87,000	127,905	129,740	150,850
急性上気道感染症	41,945	49,650	48,745	70,715	87,240	96,060	123,060
肺炎	123,990	113,460	99,335	121,470	100,020	215,090	184,430
誤嚥性肺炎	0	0	211,860	0	0	575,050	235,690
間質性肺炎	0	0	93,765	100,370	229,365	227,835	238,165

表 6-16 かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	7.4	11.2	9.5	4.0	2.4	3.2	4.3	4.4
急性上気道感染症	53.6	65.9	54.2	35.2	17.4	18.3	22.5	25.5
肺炎	2.3	1.8	1.3	0.8	0.3	0.3	1.0	0.7
誤嚥性肺炎	0	0	0	0	0	0	0.1	0
間質性肺炎	0	0	0.2	0	0.1	0	0	0.2

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
かぜ(急性鼻咽頭炎(感冒))	3.8	4.5	4.0	3.3	3.6	5.4	5.6
急性上気道感染症	23.5	22.1	19.8	19.7	22.0	27.0	28.7
肺炎	0.8	1.0	1.0	1.1	1.8	1.4	2.2
誤嚥性肺炎	0	0	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4
間質性肺炎	0.1	0	0.6	0.2	0.7	1.3	1.8

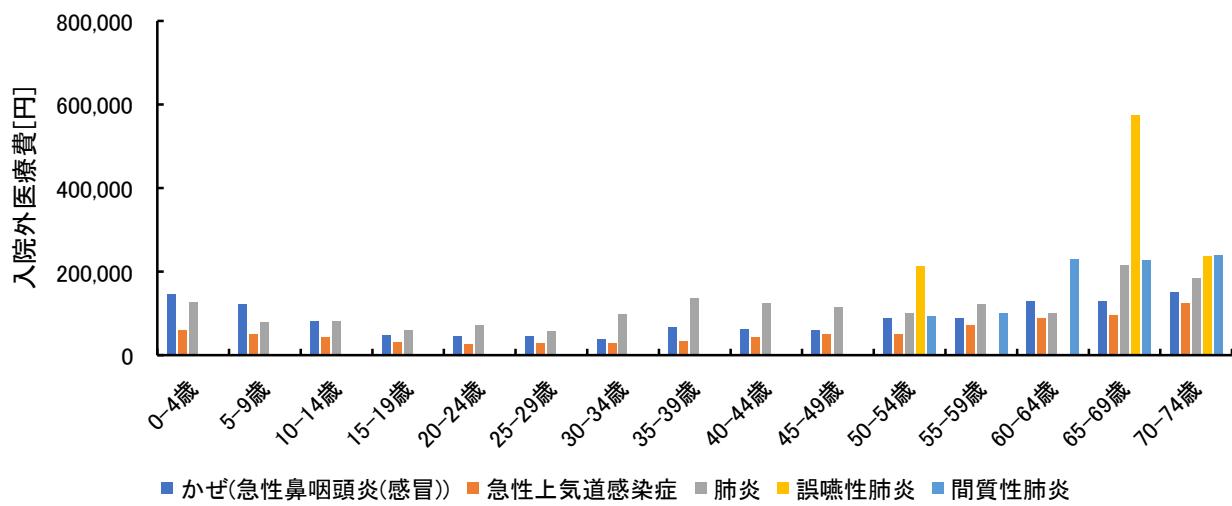


図 6-6 かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院外医療費の中央値  
(人数 2名以下は採用しない)

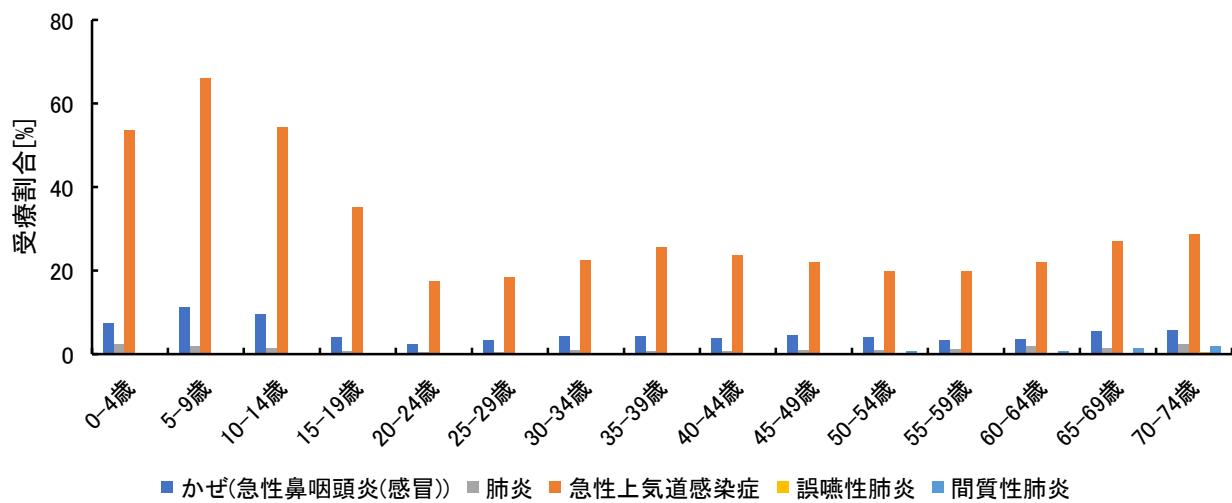


図 6-7 かぜ, 急性上気道感染症, 肺炎, 誤嚥性肺炎, 間質性肺炎に対する入院外受療割合

## 9. 新生物に対する入院・入院外医療費

表 6-17 に新生物に対する入院医療費、表 6-18 に新生物に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-18 より、入院外医療費は乳房の悪性新生物は 25-29 歳、女性生殖器の悪性新生物は 40-44 歳から発生しており、それ以外の悪性新生物は 50-54 歳、55-59 歳頃から発生していた。

表 6-19 に新生物に対する入院受療割合、表 6-20 に新生物に対する入院外受療割合を示した。表 6-20 より、少數ではあるが入院外受療割合は女性生殖器の悪性新生物は 20-24 歳から発生していた。乳房の悪性新生物は 25-29 歳から発生し 40-44 歳で 0.6%、45-49 歳で 1% を超えていた。胃がんは 55-59 歳、結腸の悪性新生物は 35-39 歳から発生していた。70-74 歳では、胃がん(1.2%)、結腸の悪性新生物(2.0%)、乳房の悪性新生物(2.0%) の入院外受療割合が高い傾向にあった。

表 6-17 新生物に対する入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	306,750
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,109,315
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	771,720	0	0
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表 6-18 新生物に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	88,890	0	0
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	77,550	535,355	95,960	188,980
結腸の悪性新生物	0	172,310	0	297,135	150,990	121,520	210,360
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	208,630	0	356,370
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	110,690	173,630	325,365	201,210	411,550
乳房の悪性新生物	98,700	84,320	189,350	199,910	173,235	182,570	173,820
女性生殖器の悪性新生物	91,550	62,030	239,750	180,260	111,035	368,330	193,480
骨髄性白血病	0	0	0	107,900	63,160	196,510	659,790
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	175,370	368,880

表 6-19 新生物に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.1	0	0.1
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0.1	0	0.2	0	0.1
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.2	0.1	0	0
骨髄性白血病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	0

表 6-20 新生物に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
胃がん	0	0	0	0	0	0	0	0
結腸の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.1
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0	0	0	0.1	0	0
乳房の悪性新生物	0	0	0	0	0	0.2	0	0.2
女性生殖器の悪性新生物	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.1
骨髄性白血病	0	0.2	0.2	0	0.1	0	0	0
膵の悪性新生物	0	0	0	0	0	0	0	0.1

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
胃がん	0	0	0	0.4	0.3	0.5	1.2
結腸の悪性新生物	0.1	0.3	0.1	0.5	0.4	0.7	2.0
肝及び肝内胆管の悪性新生物	0	0	0.1	0	0.2	0.1	0.3
気管支及び肺の悪性新生物	0	0	0.2	0.4	0.7	0.9	1.2
乳房の悪性新生物	0.6	1.0	1.6	1.2	1.4	1.7	2.0
女性生殖器の悪性新生物	0.7	0.4	0.3	0.4	0.7	0.6	0.4
骨髄性白血病	0.1	0.1	0.1	0.2	0.4	0.1	0.1
膵の悪性新生物	0	0	0	0.2	0.1	0.4	0.3

## 10. 精神及び行動の障害に対する入院・入院外医療費

表 6-21 に精神及び行動の障害に対する入院医療費、表 6-22 に精神及び行動の障害に対する入院外医療費の中央値を示した。患者数が 2 名以下の場合には採用しなかった。表 6-21 より、入院医療費は統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害は 35-39 歳から発生し、74 万円であることがわかった(20-24 歳を除く)。70-74 歳の入院医療費は統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害は 3,513,580 円、気分[感情]障害は 1,048,815 円、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 1,116,245 円であった。

表 6-22 より、入院外医療費は統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害は 10-14 歳、気分[感情]障害は 15-19 歳、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 5-9 歳から発生していた。

表 6-23 に精神及び行動の障害に対する入院受療割合、表 6-24、図 6-8 に精神及び行動の障害に対する入院外受療割合を示した。表 6-23 より、統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分[感情]障害、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 30-35 歳で 0.7% を超えていた。

表 6-24、図 6-8 より、入院外受療割合が 5% を超えたのは統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害は 40-44 歳(6.1%)、気分障害は 25-29 歳(5.3%)、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害は 25-29 歳(6.3%) であった。

表 6-21 精神及び行動の障害に対する入院医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	単位[円]
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	4,183,510	0	0	748,360	2,739,810	1,246,830	1,281,550	1,165,365	1,719,930	1,713,580	3,513,580	
気分[感情]障害	1,113,950	0	0	744,985	909,490	2,990,630	1,558,870	1,078,990	4,156,420	1,427,515	1,048,815	
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	4,183,510	0	0	0	909,490	956,430	816,430	623,840	1,179,215	486,665	1,116,245	
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

表 6-22 精神及び行動の障害に対する入院外医療費の中央値(人数 2 名以下は採用しない)

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	単位[円]
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0	0	0	0	51,565
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0	141,340	72,305	71,975	67,450	58,205	66,925	
気分[感情]障害	0	0	0	76,360	59,210	65,660	60,910	65,800	
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0	89,080	60,250	85,480	52,770	47,010	49,690	67,900	
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0	0	0	0	129,460	0	131,300	
	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳		
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	47,285	232,480	134,400	72,500	133,380	187,320	91,630		
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	83,610	115,080	82,195	117,810	151,045	174,690	151,165		
気分[感情]障害	76,790	106,375	70,340	105,720	132,370	157,810	159,330		
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	76,790	86,955	69,460	105,720	137,330	151,925	132,050		
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	678,360	55,580	57,440	127,860	234,810	273,310	155,265		

表 6-23 精神及び行動の障害に対する入院受療割合

単位[%]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0.2	0.1	0.2	0.3	0.8	0.8	0.8	0.9	0.9	0.5	0.8
気分[感情]障害	0.2	0.0	0.1	0.4	0.7	0.6	0.6	0.8	0.5	0.5	0.5
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.2	0.1	0.2	0.1	0.8	0.4	0.5	0.7	0.3	0.5	0.5
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

表 6-24 精神及び行動の障害に対する入院外受療割合

単位[%]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0	0	0	0	0.1	0.1	0.1	0.4
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	0	0.2	0.6	1.2	1.0	2.4	2.7	4.5
気分[感情]障害	0	0	0.4	1.7	2.8	5.3	5.9	6.9
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	0.3	2.0	3.2	3.4	3.3	6.3	7.0	8.0
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0	0.4	0.2	0.3	0.1	0.2	0.2	0.3

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
精神作用物質使用による精神及び行動の障害	0.4	0.3	0.6	0.5	0.4	0.2	0.1
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	6.1	6.1	5.8	5.5	3.1	2.3	2.3
気分[感情]障害	7.7	7.4	6.3	7.3	4.9	4.8	4.7
神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	9.0	9.0	7.9	9.3	7.8	7.7	9.1
生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

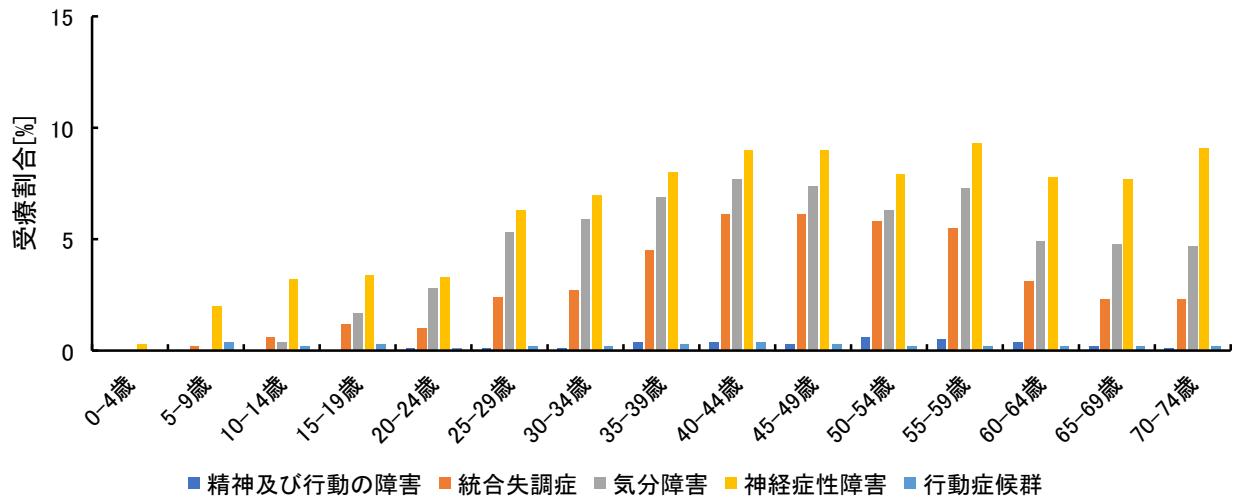


図 6-8 精神及び行動の障害に対する入院外受療割合

## 11. COVID-19 に対する入院・入院外医療費

表 6-25 に COVID-19 に対する入院医療費、表 6-26 に COVID-19 に対する入院外医療費の中央値を示した。表 6-25 より、入院医療費は 55-59 歳から発生していた。表 6-26 より、入院外医療費はすべての年代で発生していた。

表 6-27 に COVID-19 に対する入院受療人数、表 6-28 に COVID-19 に対する入院外受療人数を示した。表 6-28 より、入院外受療人数は子どもと比べ大人の人数が多い傾向にあった。

表 6-25 COVID-19 に対する入院医療費の中央値

単位[円]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	0	0	0	0	0	0	0	824,880	577,130	402,290	1,249,960

表 6-26 COVID-19 に対する入院外医療費の中央値

単位[円]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
COVID-19	76,960	58,990	57,395	36,190	33,260	22,410	39,320	18,240

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	50,140	42,600	45,830	48,655	80,770	84,170	104,670

表 6-27 COVID-19 に対する入院受療人数

単位[人]

	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	1	1	1	1	1	1	2	3	5	6	13

表 6-28 COVID-19 に対する入院外受療人数

単位[人]

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳
COVID-19	13	12	32	47	66	55	45	51

	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳
COVID-19	49	42	71	64	83	130	191

## 第7章 特定健康診査の状況

### 1. 特定健康診査の受診状況

40～74歳の市民を対象に特定健康診査(以下、特定健診)を実施している。令和5年度の受診件数は4,071件であった。

### 2. 特定保健指導レベルの状況

図7-1に令和5年度の保健指導レベル判定結果の割合を性別に示した。なし(該当なし・情報提供含む)は男性は80.6%、女性は93.0%、動機付け支援は男性は13.7%、女性は5.7%、積極的支援は男性は5.7%、女性は1.3%であった。

図7-2に男性、図7-3に女性の令和5年度の保健指導レベル判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性のなしは69.0～86.1%、女性は89.3～94.9%で男女ともに年齢に伴い増加していた。男性の40～49歳、50～59歳の働き世代の積極的支援は17.0～17.2%であった。

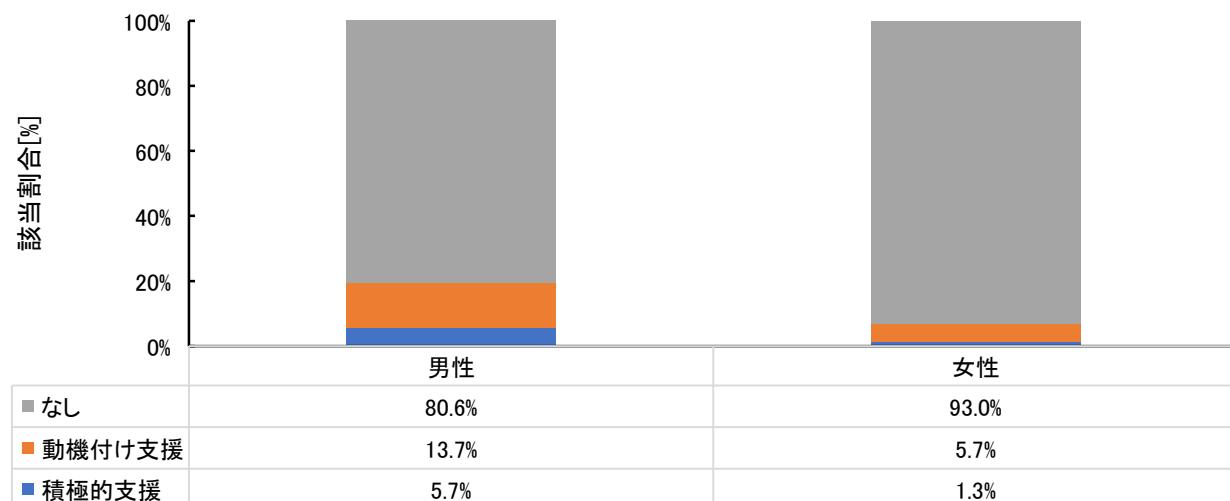


図7-1 保健指導レベル判定結果

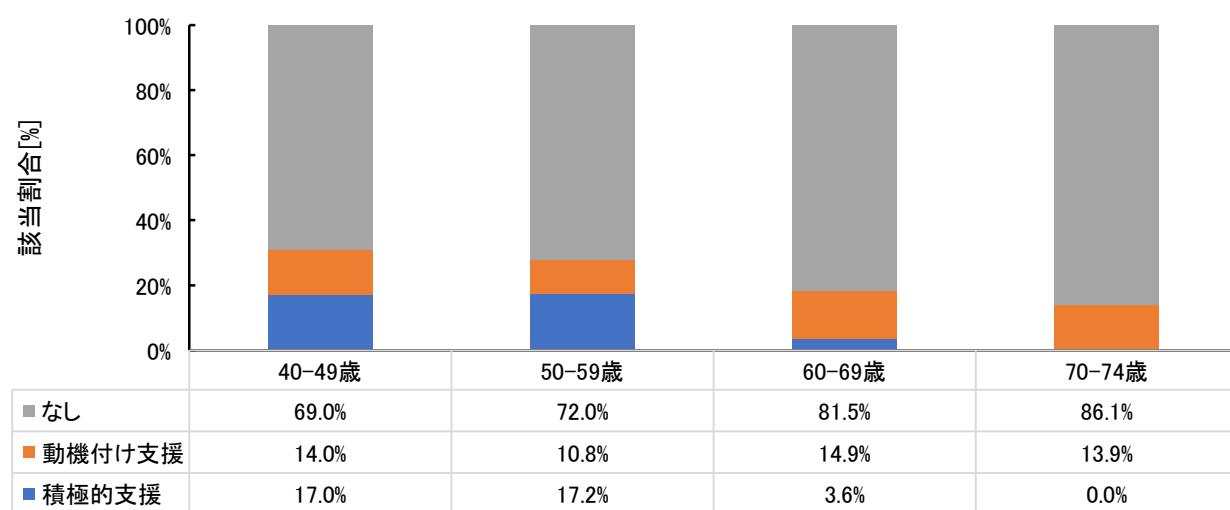


図7-2 男性の年齢階級別の保健指導レベル判定結果

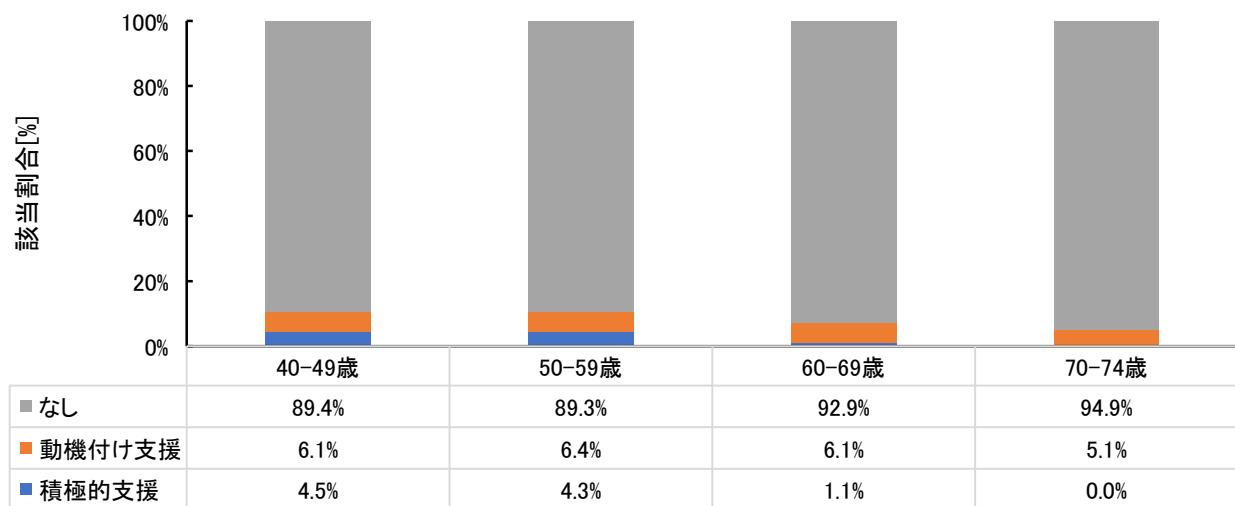


図 7-3 女性の年齢階級別の保健指導レベル判定結果

### 3. メタボリックシンドローム(以下、メタボ)の状況

表 7-1 に令和 5 年度のメタボ判定結果を示した。全体では 33.5%がメタボに該当し、男性は 55.1%、女性は 18.0%であった。年齢階級別では男性は 47.4～58.5%、女性は 14.5～19.4%が該当しており、男性は女性に比べて該当率が高いことがわかった。

表 7-1 メタボ判定結果

		単位[%]
		メタボ該当率
全体		33.5(1363人)
男性		55.1(937人)
女性		18.0(426人)
男性	40～49歳	47.4(81人)
	50～59歳	56.4(158人)
	60～69歳	58.5(310人)
	70～74歳	54.0(388人)
女性	40～49歳	14.5(26人)
	50～59歳	17.6(61人)
	60～69歳	19.4(147人)
	70～74歳	17.6(192人)

#### 3.1. メタボと HbA1c の関係

メタボ判定と HbA1c 判定の関係を表 7-2 に示した。メタボ該当はメタボ非該当と比べ要経過観察、要医療の割合(要経過観察のメタボ該当 21.3%、非該当 13.1%、要医療メタボ該当 16.2%、非該当 6.9%)が高いことがわかった。メタボ群と非メタボ群のアプローチをそれぞれ検討し、改善方法を実施することが求められる。  
(HbA1c 判定:異常なし 5.5%以下、軽度異常 5.6～5.9%、要経過観察 6.0～6.4%、要医療 6.5%以上)

表 7-2 メタボ判定と HbA1c 判定の関係

		令和5年度HbA1c判定				単位[人]
		異常なし	軽度異常	要経過観察	要医療	
令和5年度 メタボ判定	非該当	1083(40.4%)	1063(39.6%)	352(13.1%)	186(6.9%)	
	該当	384(28.3%)	463(34.1%)	289(21.3%)	220(16.2%)	

#### 4. 測定項目の状況

##### 4.1. 身長の状況

図 7-4 に身長の度数分布を性別に示した。男性は 170~174cm にピーク、女性は 155~159cm、160~164cm にピークがある分布であった。図 7-5 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの身長の変化を性別に示した。身長の低下には加齢に伴う変化に加え、骨粗鬆症の影響が挙げられる。令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果、男性は 16.1%、女性は 18.0% が 0~0.4cm の低下があることがわかった。1cm 以上低下した割合は男性は 8.2%、女性は 6.4% であった。

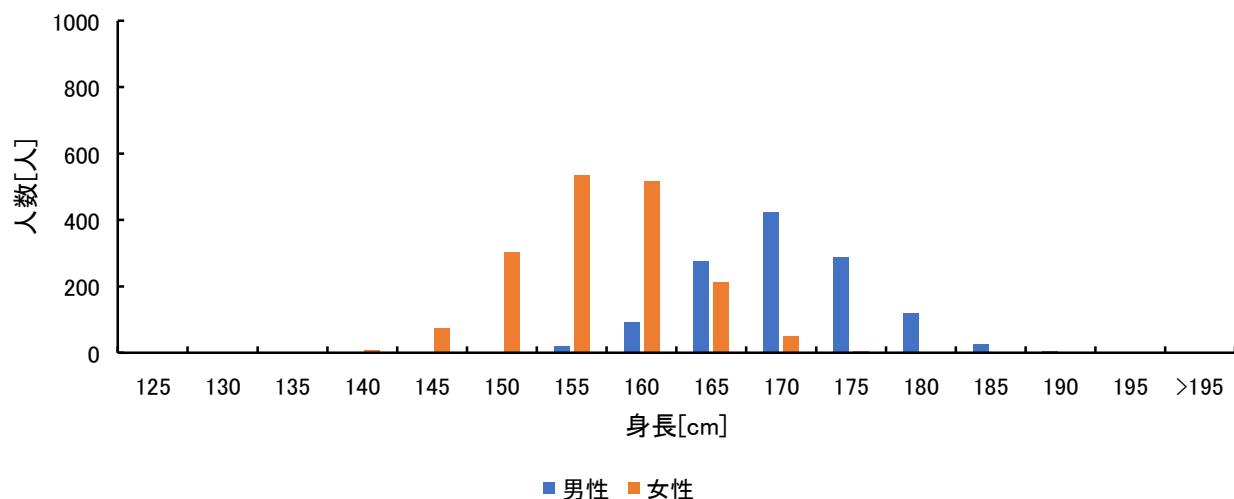


図 7-4 身長の度数分布

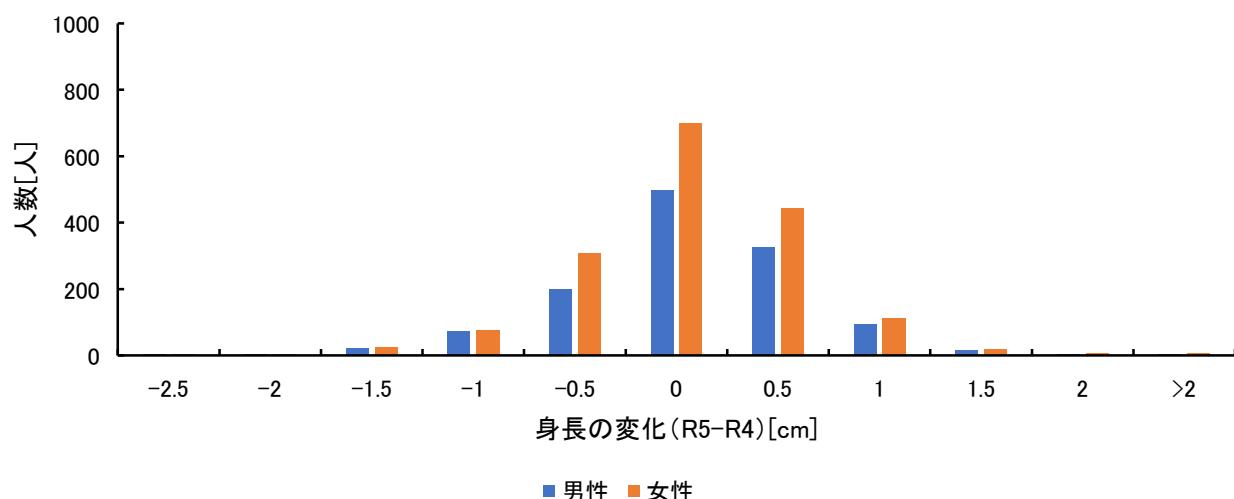


図 7-5 身長の変化

#### 4.2. 体重の状況

図 7-6 に体重の度数分布を性別に示した。男性は 65～69kg, 70～74kg にピーク、女性は 50～54kg, 55～59kg にピークがある分布であった。図 7-7 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの体重の変化を性別に示した。体重の減少にはフレイルやサルコペニアの指標も含まれる。令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果、1kg までの減少がみられたのは男性で 17.4%、女性で 15.9%、1kg までの増加は男性で 18.5%、女性で 22.5% であった。体重の変化が  $\pm 2\text{kg}$  の範囲に男性は 57.7%、女性は 58.1%、 $\pm 1\text{kg}$  の範囲に男性は 35.9%、女性は 38.4% が該当していることがわかった。

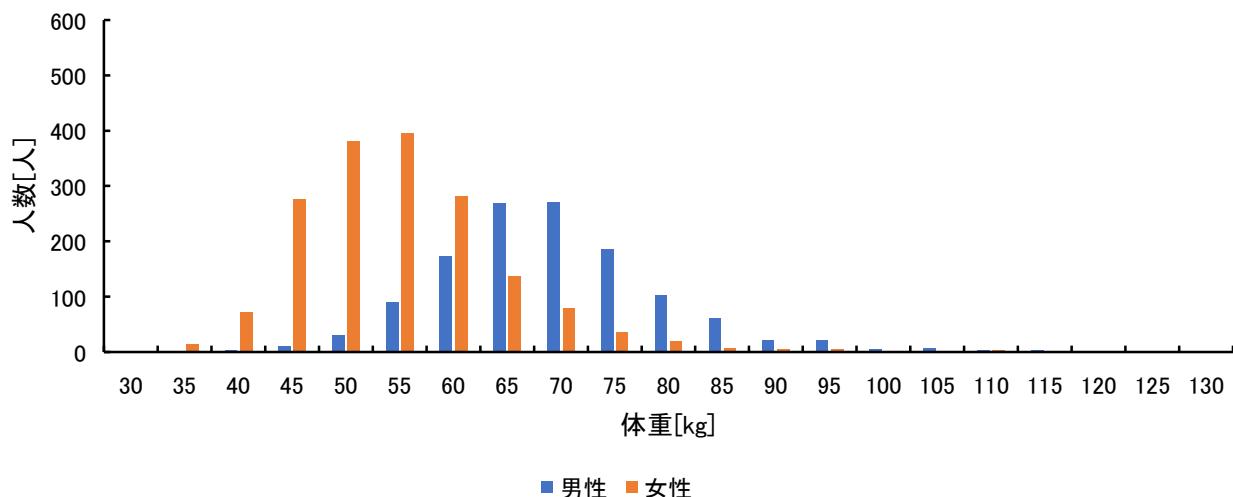


図 7-6 体重の度数分布

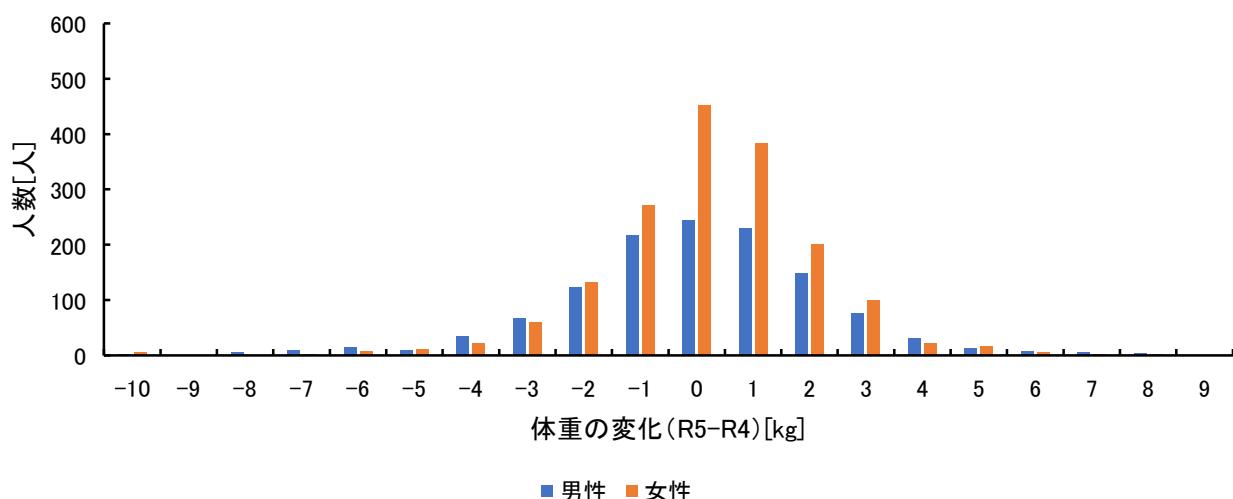


図 7-7 体重の変化

#### 4.3. BMI の状況

BMI の判定は異常なし(18.5–24.9), 要経過観察(18.5 未満), 要経過観察(25 以上)と定義した.

図 7-8 に BMI の度数分布を性別に示した. 男性は 24~25 にピーク, 女性は 20~21 にピークがある分布であった. BMI は体重と同じくフレイルやサルコペニアの指標であり, 高齢期は BMI が 20 以上がよいと考える. 図 7-9 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの BMI の変化を性別に示した. 令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果, 1 以上の減少がみられたのは男性は 13.3%, 女性は 10.3% であった. 2 以上の減少は男性は 2.8%, 女性は 1.8% であった. 1 以上の増加がみられたのは男性は 18.1%, 女性は 18.3%, 2 以上の増加は男性は 2.2%, 女性は 2.0% であった.

BMI 判定別では, 要経過観察(25 以上)の男性は 31.4%(534 人), 女性は 18.7%(444 人)であった. 要経過観察(18.5 未満)の男性は 3.8%(65 人), 女性は 14.8%(352 人)であった. 高齢期(65 歳以上)に着目すると, サルコペニアリスク群となる BMI20 未満該当割合は全体で 22.2%(599 人), 男性 11.3%(123 人), 女性 29.6%(476 人)であり, 女性が多いことがわかった.

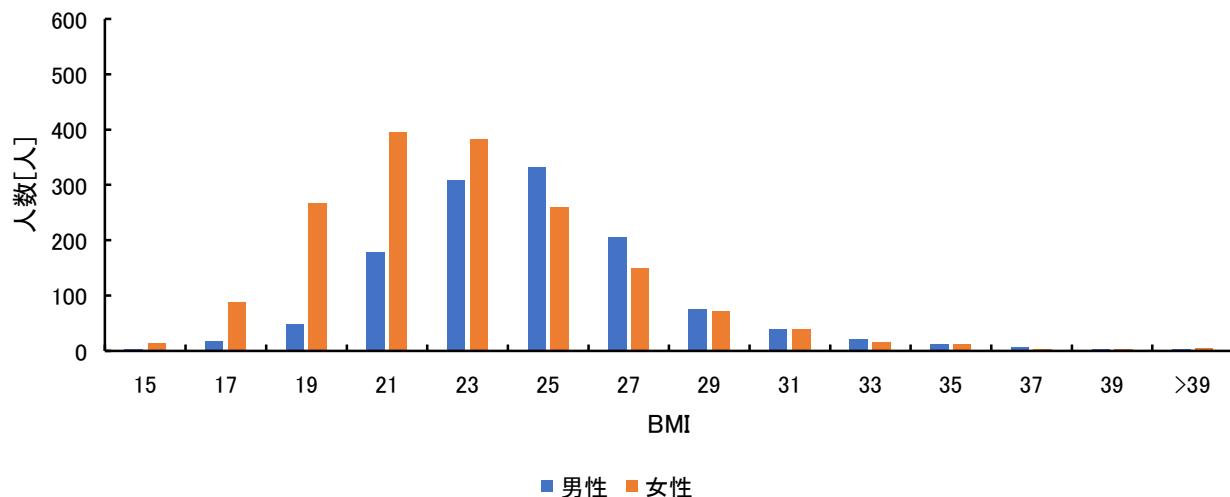


図 7-8 BMI の度数分布

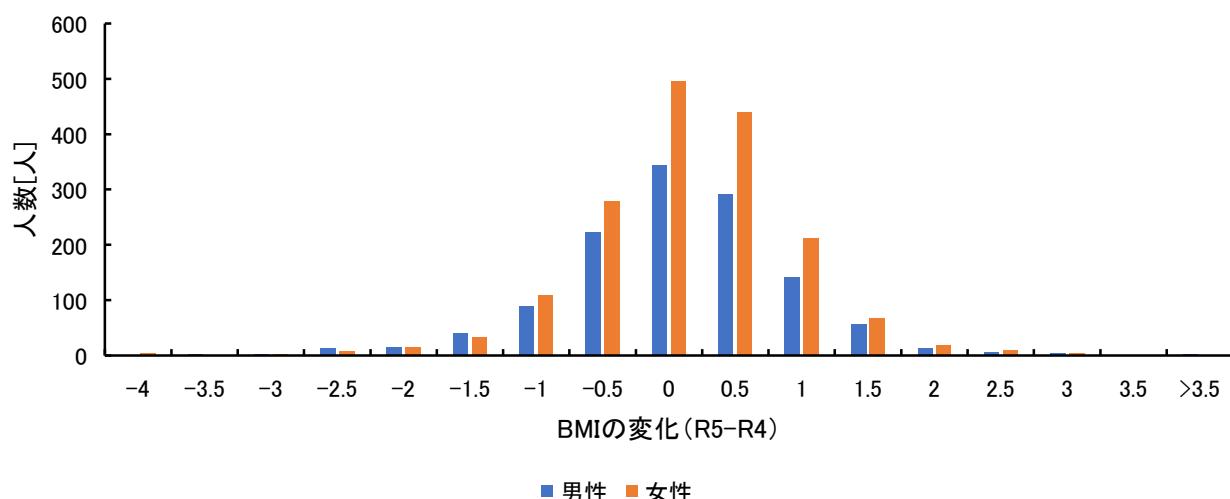


図 7-9 BMI の変化

令和5年度 BMI判定とHbA1c判定の関係を図7-10に全体、男性を図7-11、女性を図7-12に示した。BMI要経過観察(18.5未満)でHbA1c要医療(6.5%以上)と判定されたのは全体で3.4%、男性で6.3%、女性で2.9%であった。BMI要経過観察(18.5未満)でHbA1c要経過観察(6.0-64%)、要医療(6.5%以上)には全体で14.80%(男性21.5%、女性13.5%)であった。BMI要経過観察(25以上)では全体で39.8%(男性40.3%、女性39.1%)であった。BMI異常なし(18.5-24.9)では全体で22.6%(男性26.4%、女性19.8%)であった。BMIの増加に伴い、男女ともに要経過観察(25以上)ではHbA1c高値の割合が多い傾向にあった。

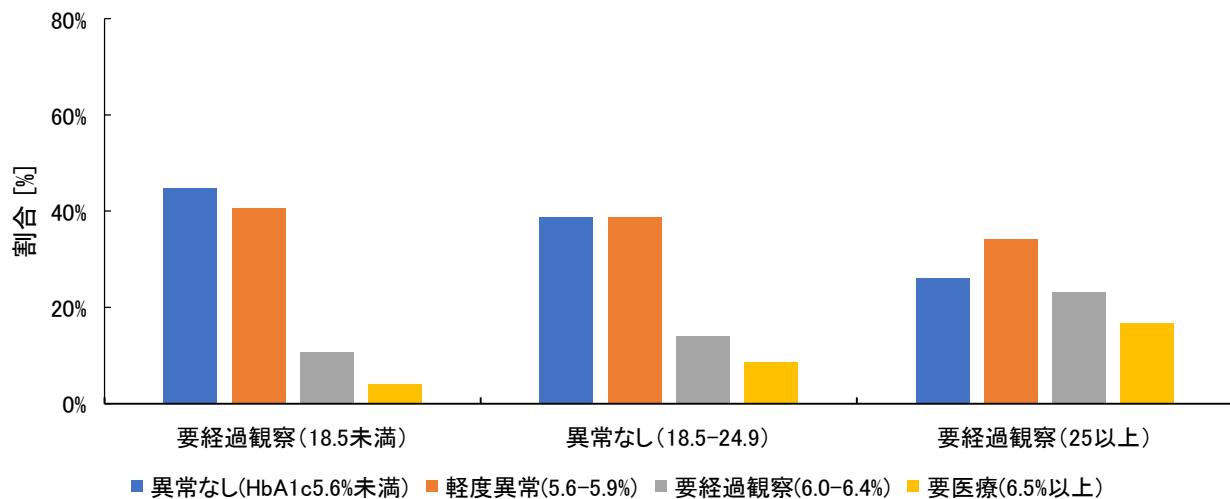


図7-10 BMI判定とHbA1cの関係

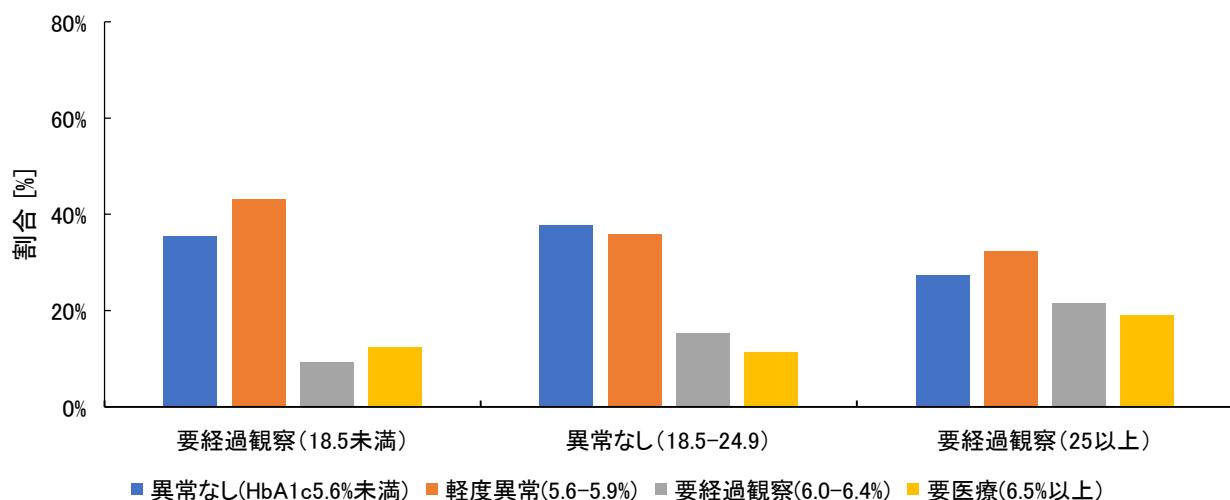


図7-11 男性のBMI判定とHbA1cの関係

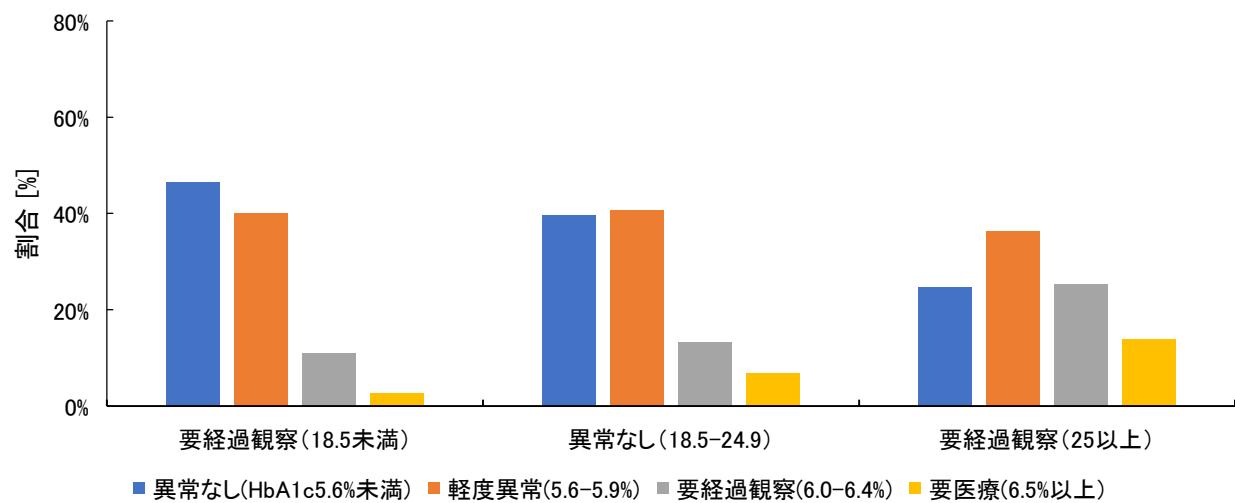


図 7-12 女性の BMI 判定と HbA1c の関係

#### 4.4. 血圧の状況

血圧の判定は異常なし(収縮期血圧 < 130mmHg かつ拡張期血圧 < 85), 軽度異常(収縮期血圧 130-139mmHg または拡張期血圧 85-89mmHg), 要経過観察(収縮期血圧 140-159mmHg または拡張期血圧 90-99mmHg), 要医療(収縮期血圧 >= 160mmHg または拡張期血圧 >= 100mmHg)と定義した.

図 7-13 に収縮期血圧の度数分布を性別に示した. 男女ともに 130~139mmHg にピークがある分布であった. 図 7-14 に拡張期血圧の度数分布を性別に示した. 男女ともに 80~89mmHg にピークがある分布であった. 心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患のリスクを高める収縮期血圧が 180mmHg 以上に該当したのは男性は 0.6%(8 名), 女性は 0.4%(6 名), 拡張期血圧が 110mmHg 以上に該当したのは男性は 0.8%(10 名), 女性は 0.2%(3 名)であった.

図 7-15 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの収縮期血圧の変化, 図 7-16 に拡張期血圧の変化を性別に示した. 令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果, 収縮期血圧が 10mmHg 以上低下したのは男性は 21.8%, 女性は 25.7%, 20mmHg 以上低下したのは男性は 7.2%, 女性は 8.5% であった. 収縮期血圧が 30mmHg 以上増加したのは男性は 6.0%, 女性は 5.2% であった.

図 7-17 に男性, 図 7-18 に女性の令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの収縮期血圧の変化を散布図に示した. 心疾患や脳血管疾患などの循環器疾患のリスクを高める収縮期血圧 180mmHg のラインに引いている. 男女ともに令和 5 年度に収縮期血圧が 180mmHg 以上の該当者のほぼ全員が令和 4 年度から収縮期血圧が増加していた.

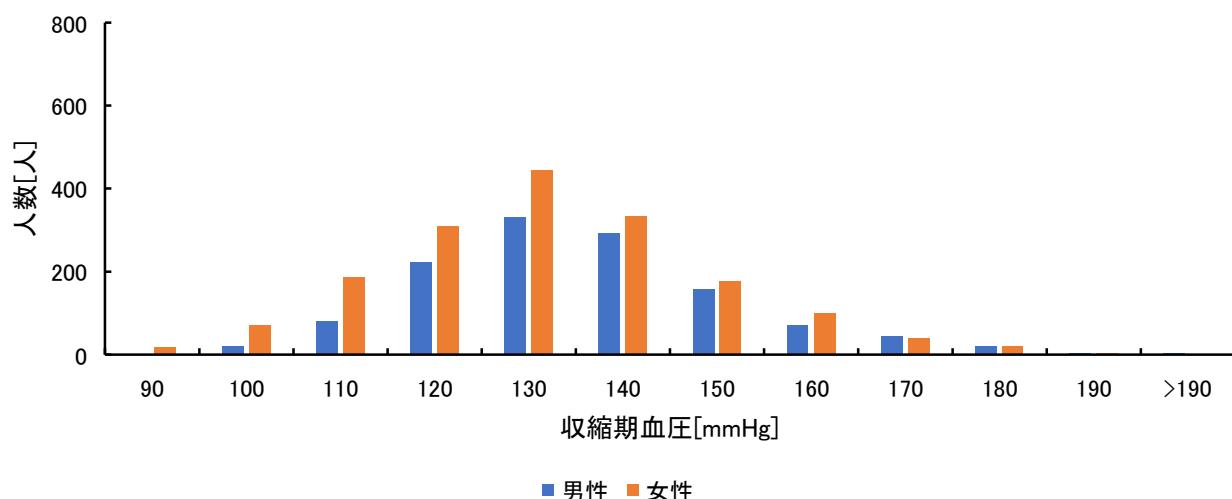


図 7-13 収縮期血圧の度数分布

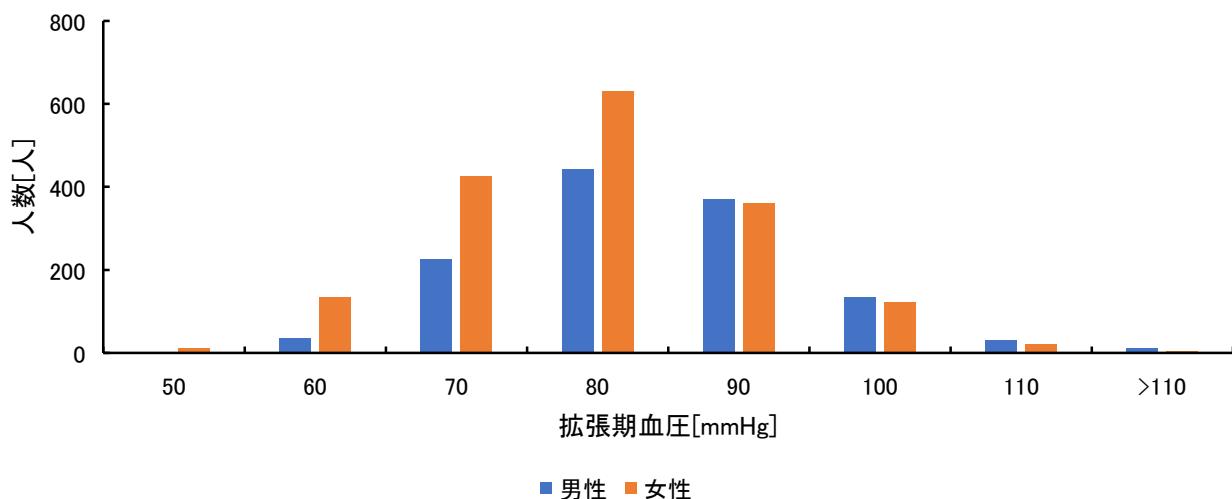


図 7-14 拡張期血圧の度数分布

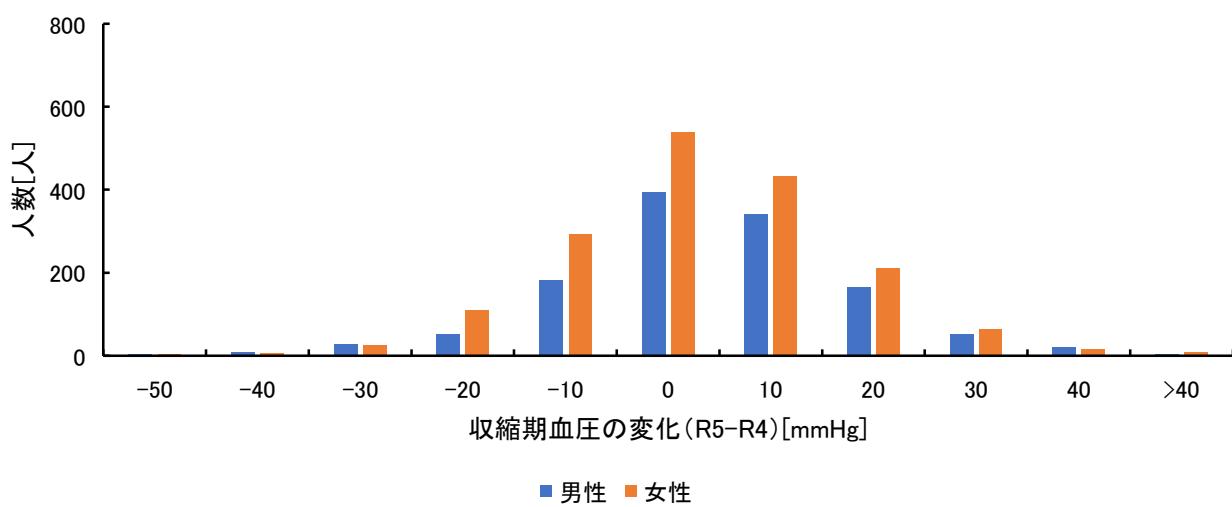


図 7-15 収縮期血圧の変化

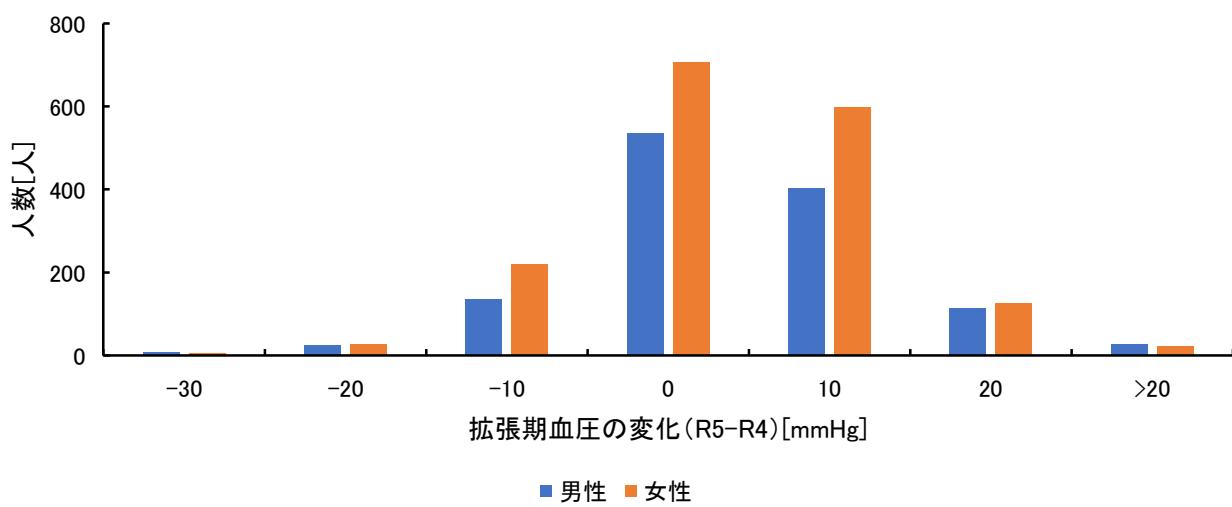


図 7-16 拡張期血圧の変化

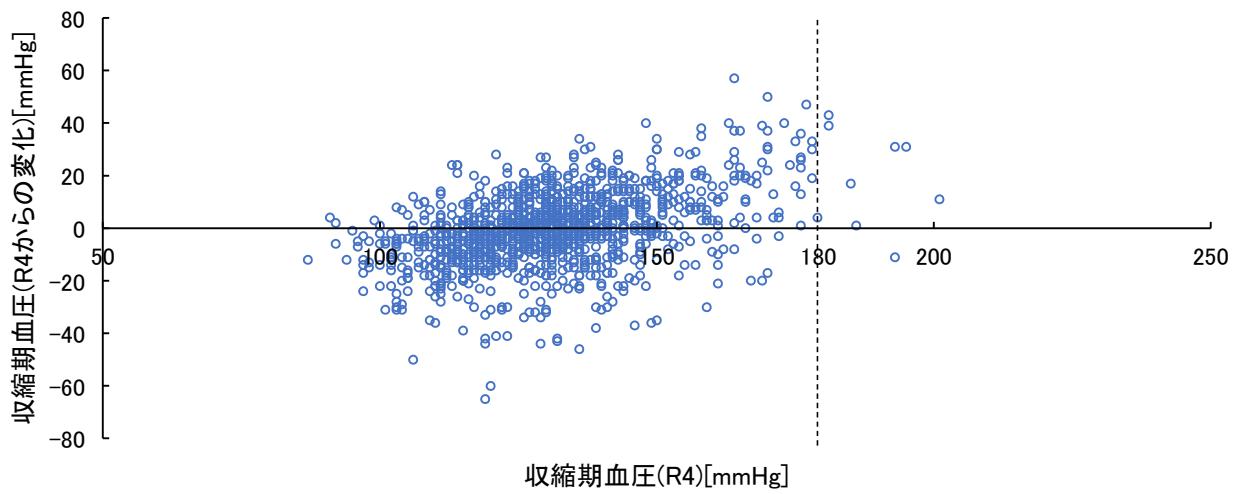


図 7-17 男性の収縮期血圧の変化

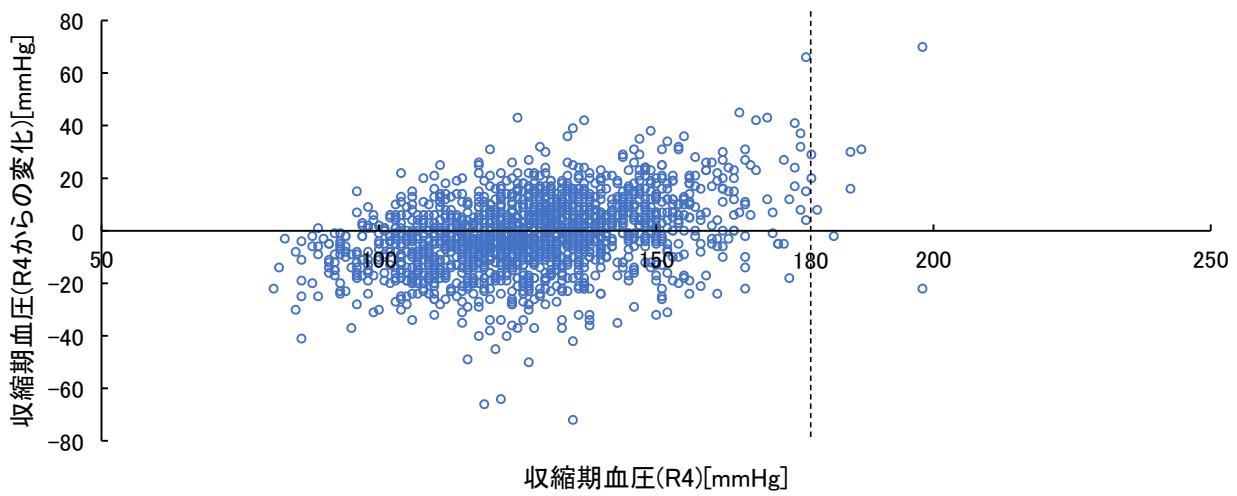


図 7-18 女性の収縮期血圧の変化

図 7-19 に令和 5 年度の血圧判定結果の割合を性別に示した。異常なしは男性は 44.4%, 女性は 53.1%, 要経過観察, 要医療は男性は 31.3%, 女性は 25.5% であった。

図 7-20 に男性, 図 7-21 に女性の令和 5 年度の血圧判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに 50-59 歳から要経過観察の割合が増加していた。そして、男女ともに年齢に伴い異常なしの割合が減少し、軽度異常, 要経過観察の割合の増加が確認できた。要医療該当割合は男性は 40-49 歳では 2.4%, 50-59 歳では 7.9%, 60-69 歳では 9.2%, 70-74 歳では 9.6%, 女性は 40-49 歳では 1.1%, 50-59 歳では 3.2%, 60-69 歳では 5.9%, 70-74 歳では 7.4% であった。

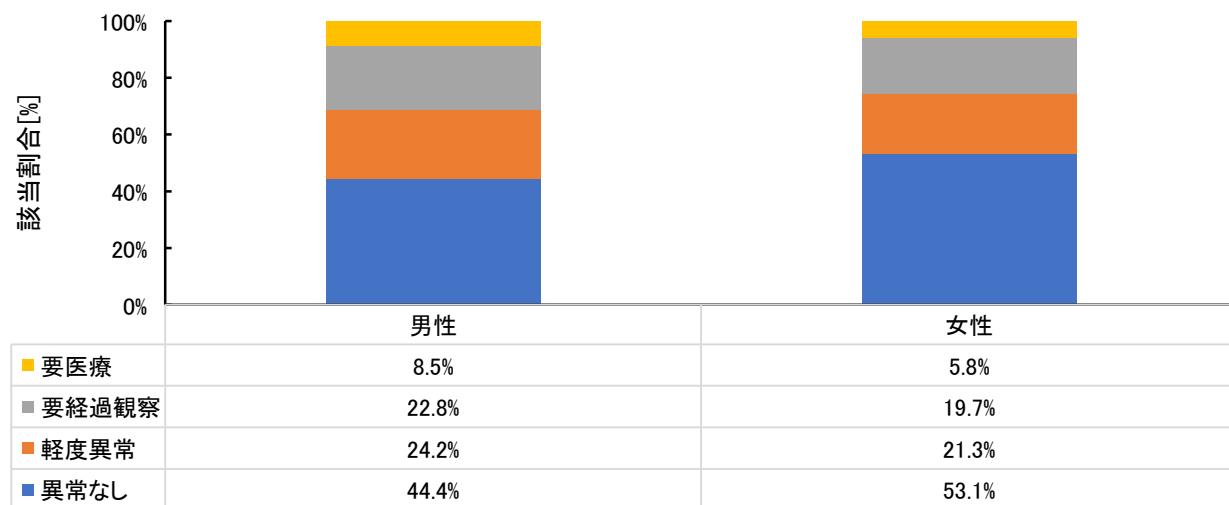


図 7-19 血圧判定結果の割合

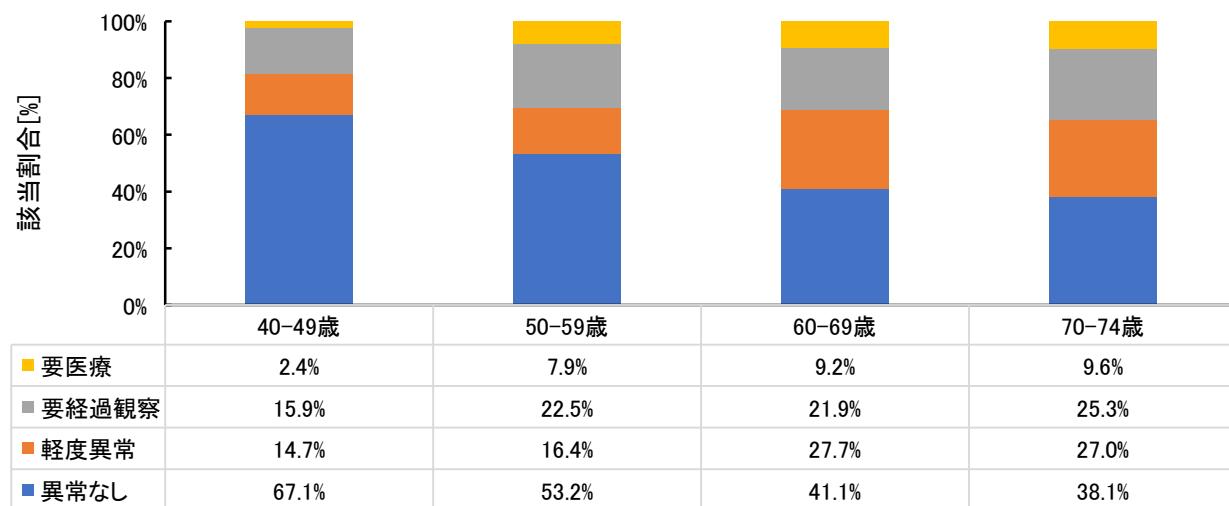


図 7-20 年齢階級別の血圧判定結果の割合(男性)

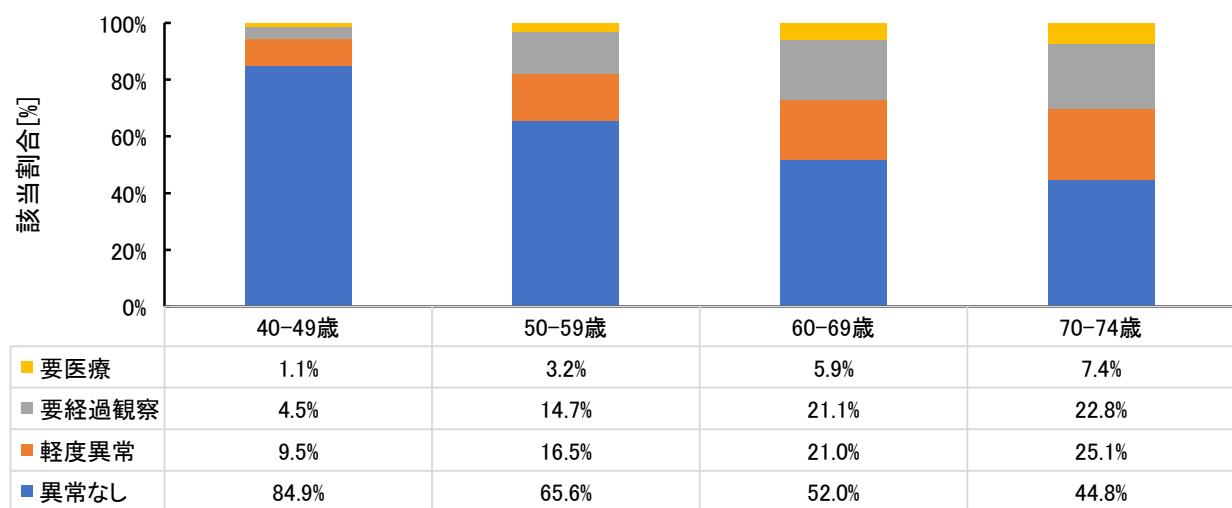


図 7-21 年齢階級別の血圧判定結果の割合(女性)

#### 4.5. 腹囲の状況

図 7-22 に腹囲の度数分布を性別に示した。男性は 85～89cm, 90～94cm にピーク、女性は 80～84cm, 85～89cm にピークがある分布であった。メタボリックシンドロームの基準値である男性 85cm、女性 90cm 以上は男性は 76.8%(960 人)、女性は 32.5%(554 人)であった。

図 7-23 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの腹囲の変化を性別に示した。令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果、腹囲が 6cm 以上増加したのは男性は 8.9%、女性は 17.0%、10cm 以上増加したのは男性は 1.4%、女性は 4.1% であった。腹囲が 6cm 以上減少したのは男性は 5.8%、女性は 8.7%、10cm 以上減少したのは男性は 1.0%、女性は 2.0% であった。

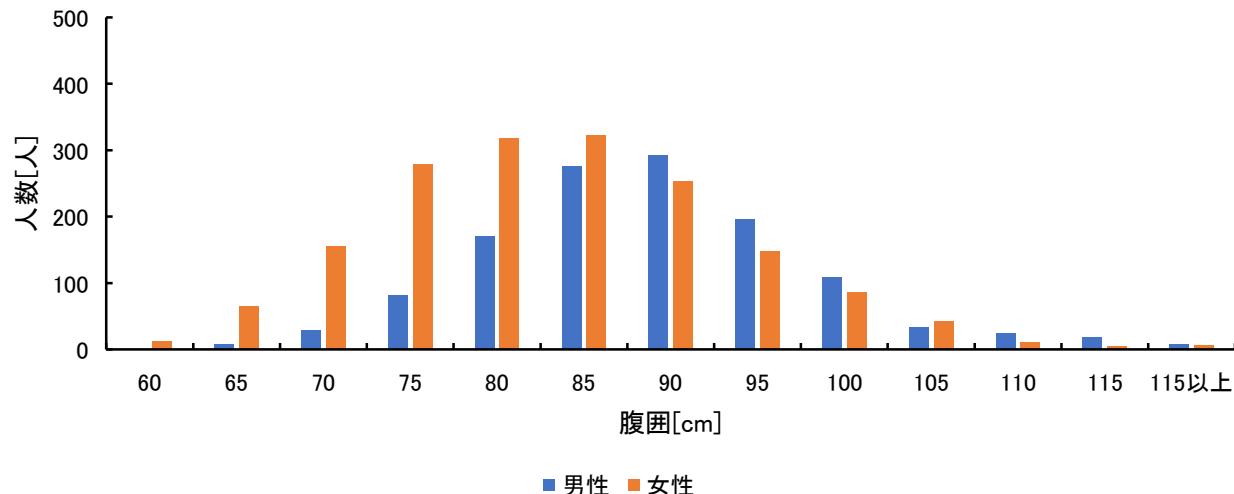


図 7-22 腹囲の度数分布

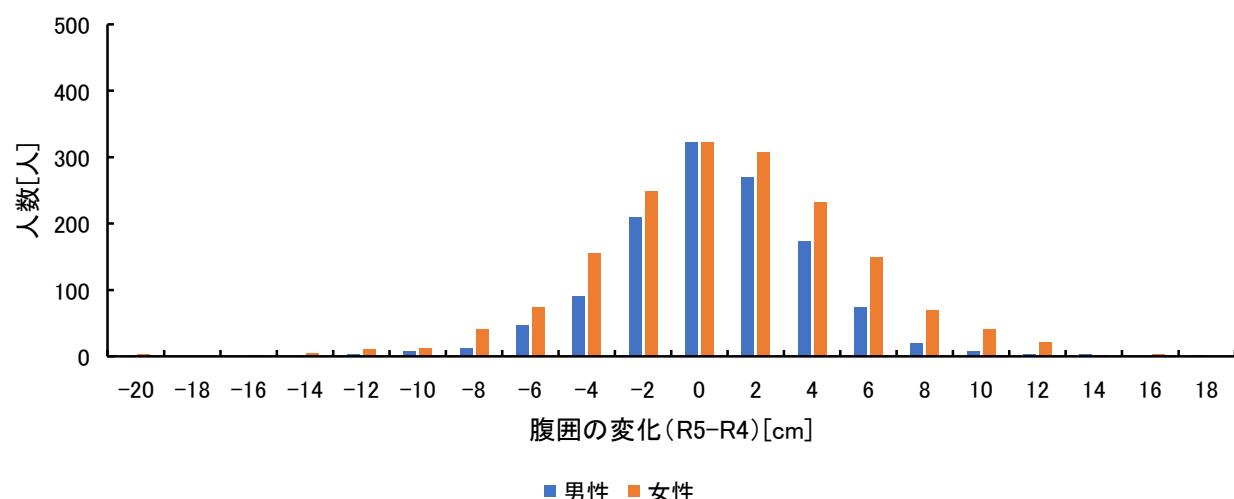


図 7-23 腹囲の変化

#### 4.6. HbA1c の状況

HbA1c の判定は異常なし(5.6%未満), 軽度異常(5.6–5.9%), 要経過観察(6.0–6.4%), 要医療(6.5%以上)と定義した.

図 7-24 に HbA1c の度数分布を性別に示した. 男女ともに 5.6~6.0% にピークがある分布であり, 4.5~12%までの幅広い分布であった. 糖尿病の基準値である 6.5%以上は男性は 11.7%(146 人), 女性は 6.2%(105 人)であった. そして, 合併症リスクが高まる 8.5%以上は男性は 1.6%(20 人), 女性は 0.7%(11 人)であった.

図 7-25 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの HbA1c の変化を性別に示した. 令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果, HbA1c が 0.2%以上減少したのは男性は 14.4%, 女性は 11.2%, 0.2%より増加したのは男性は 17.1%, 女性は 15.4% であった.

図 7-26 に男性, 図 7-27 に女性の令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの HbA1c の変化を散布図に示した. 縦の破線は HbA1c 判定の異常群の HbA1c 6.5% のラインに引いている. 令和 5 年度に 8.0% 以上の該当者は令和 4 年度から増加傾向にあることがわかった.

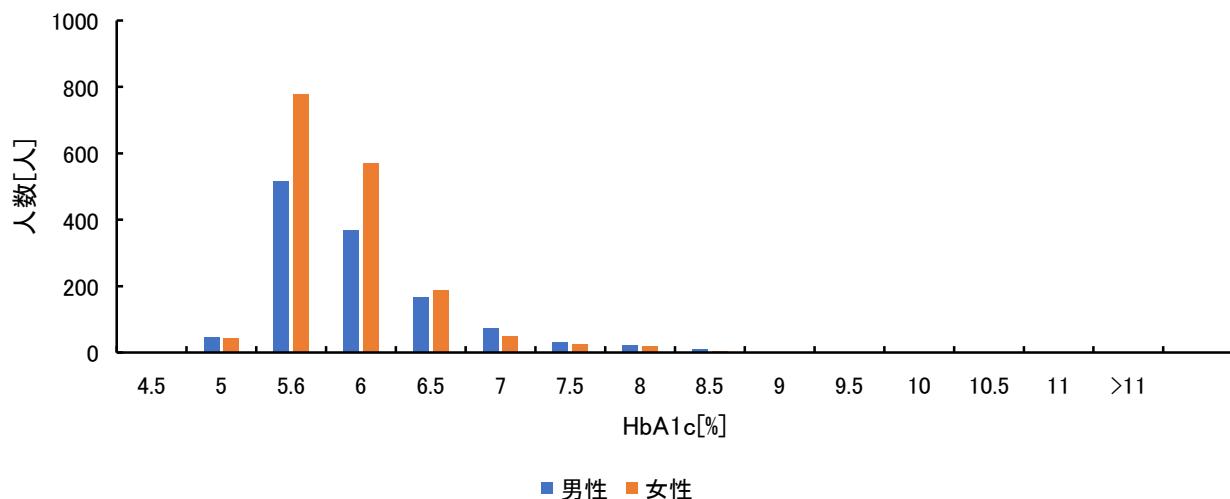


図 7-24 HbA1c の度数分布

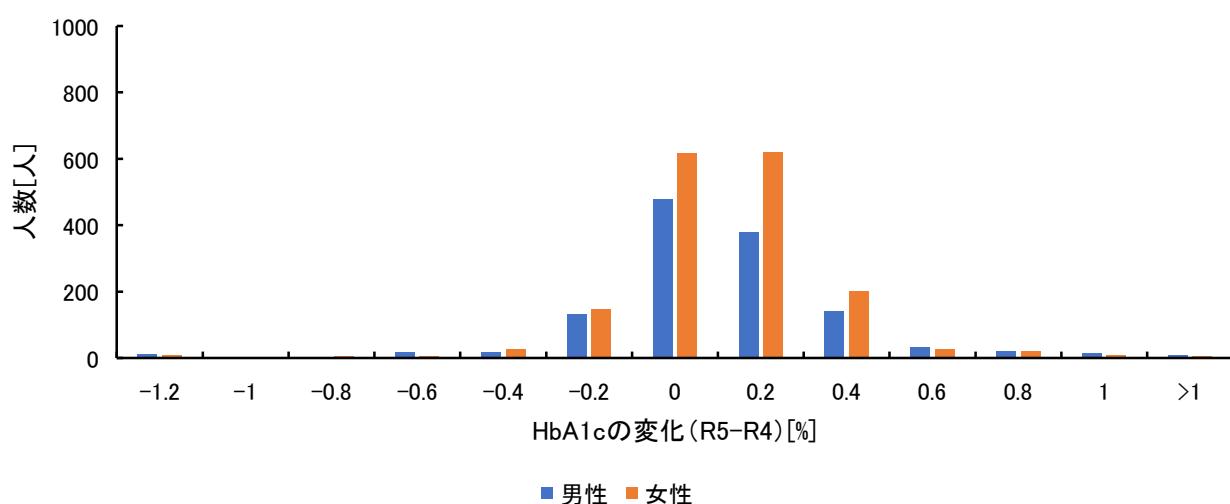


図 7-25 HbA1c の変化

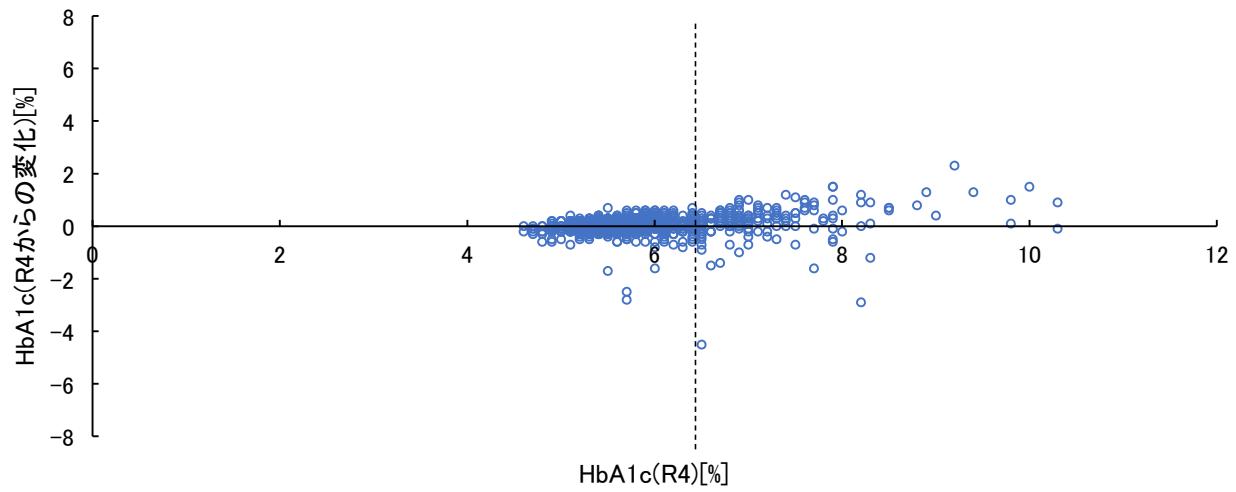


図 7-26 男性の HbA1c の変化

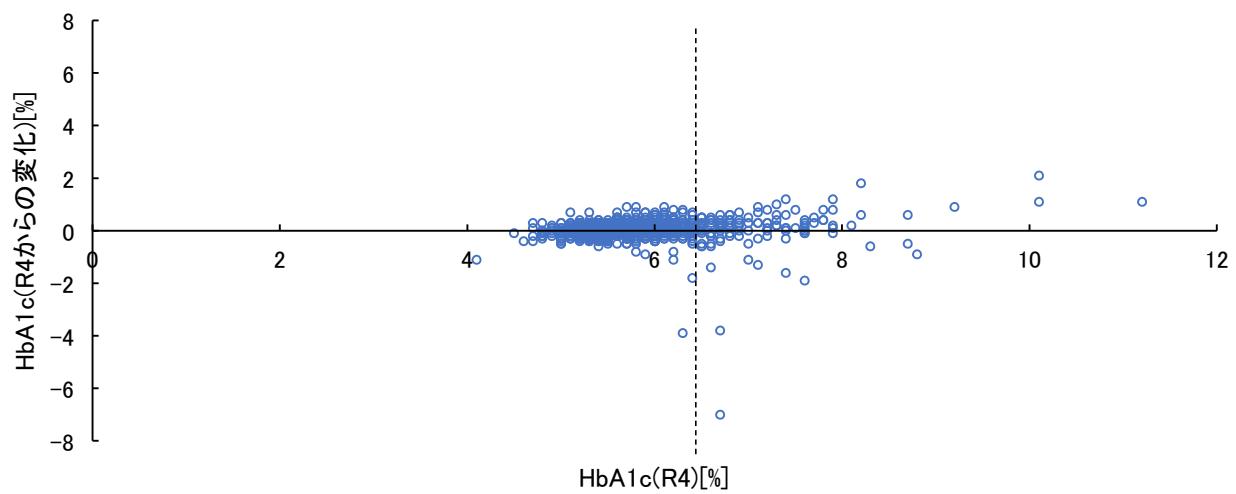


図 7-27 女性の HbA1c の変化

図 7-28 に令和 5 年度の HbA1c 判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 34.4%，軽度異常は 35.0%，要経過観察は 16.9%，要医療は 13.7% であった。女性の異常なしは 37.7%，軽度異常は 39.8%，要経過観察は 15.1%，要医療は 7.4% であった。

図 7-29 に男性、図 7-30 に女性の令和 5 年度の HbA1c 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに異常なしの割合は年齢とともに減少し、軽度異常、要経過観察、要医療の割合が増加していた。60-69 歳、70-74 歳では男性は 32.1～37.4%，女性は 20.4～29.6% が要経過観察、要医療に該当していることがわかった。

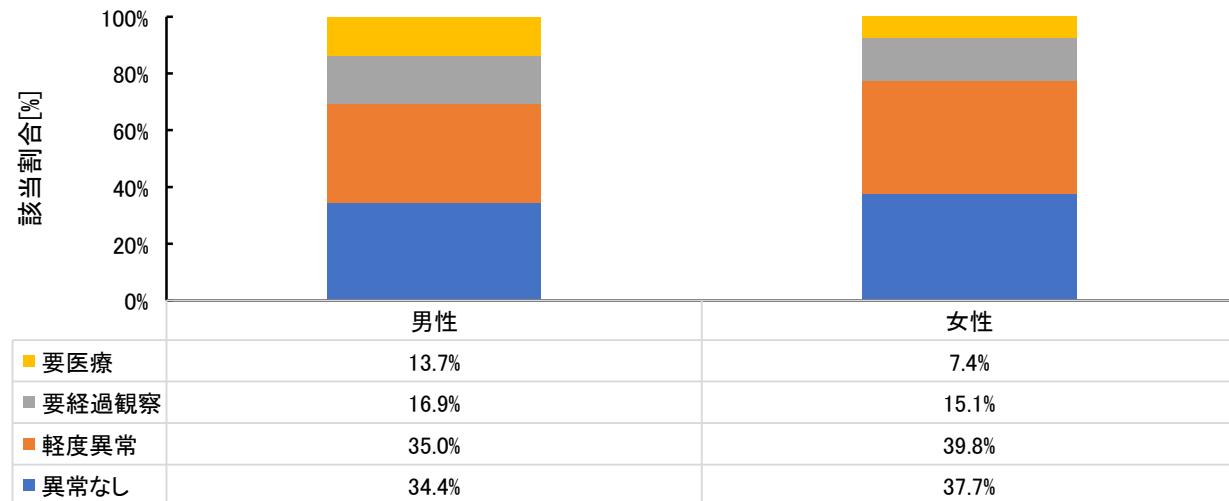


図 7-28 HbA1c 判定の結果

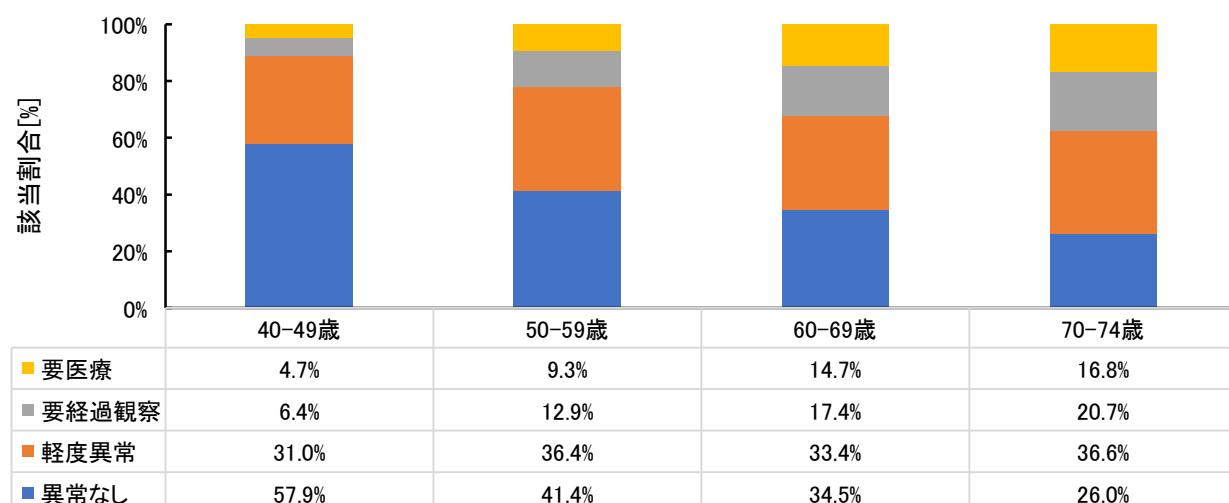


図 7-29 男性の年齢階級別の HbA1c 判定の結果

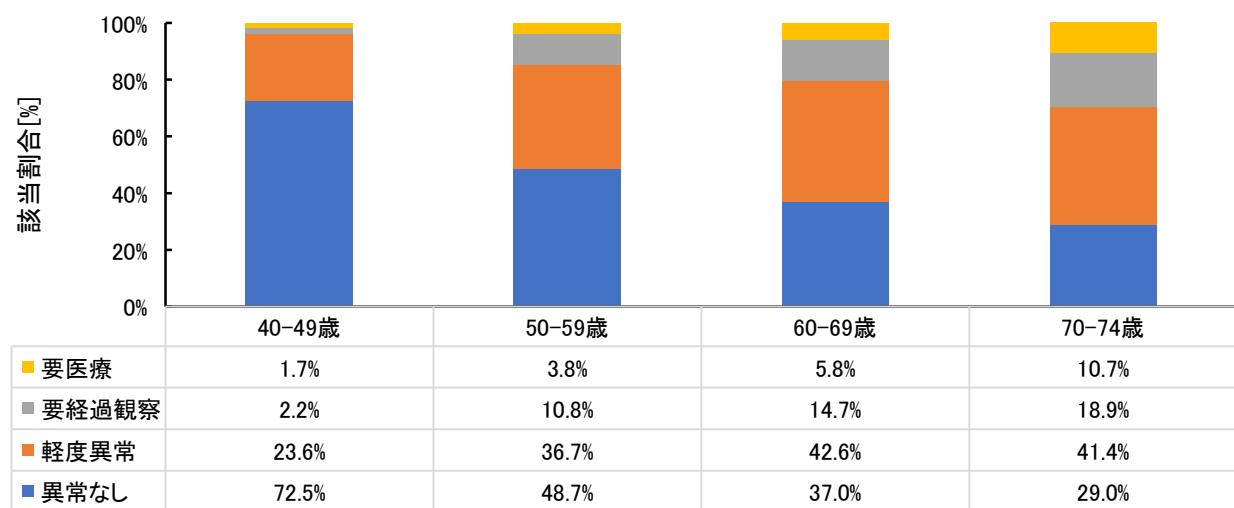


図 7-30 女性の年齢階級別の HbA1c 判定の結果

#### 4.7. 中性脂肪(TG:トリグリセリド)の状況

TG の判定は異常なし(30–149mg/dl), 軽度異常(150–299mg/dl), 要経過観察(300–499mg/dl), 要医療(299mg/dl 以下または 500mg/dl 以上)と定義した.

図 7-31 に TG の度数分布を性別に示した. 男女ともに 90~149mg/dl にピークがある分布であった. 300mg/dl 以上は男性は 3.7%(46 人), 女性は 1.0%(17 人)であった.

図 7-32 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの TG の変化を性別に示した. 令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果, 50mg/dl より増加した割合が男性は 11.0%, 女性は 7.4% であった. 100mg/dl より増加したのは男性は 3.2%, 女性は 1.9% であった. 100mg/dl 以上減少したのは男性は 4.5%, 女性は 1.9% であった.

図 7-33 に男性, 図 7-34 に女性の令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの TG の変化を散布図に示した. 縦の破線は TG 判定の中等度高中性脂肪血症群の 300mg/dl のラインに引いている. 男女ともに令和 5 年度に TG が 300mg/dl 以上の該当者は令和 4 年度から増加傾向にあった.

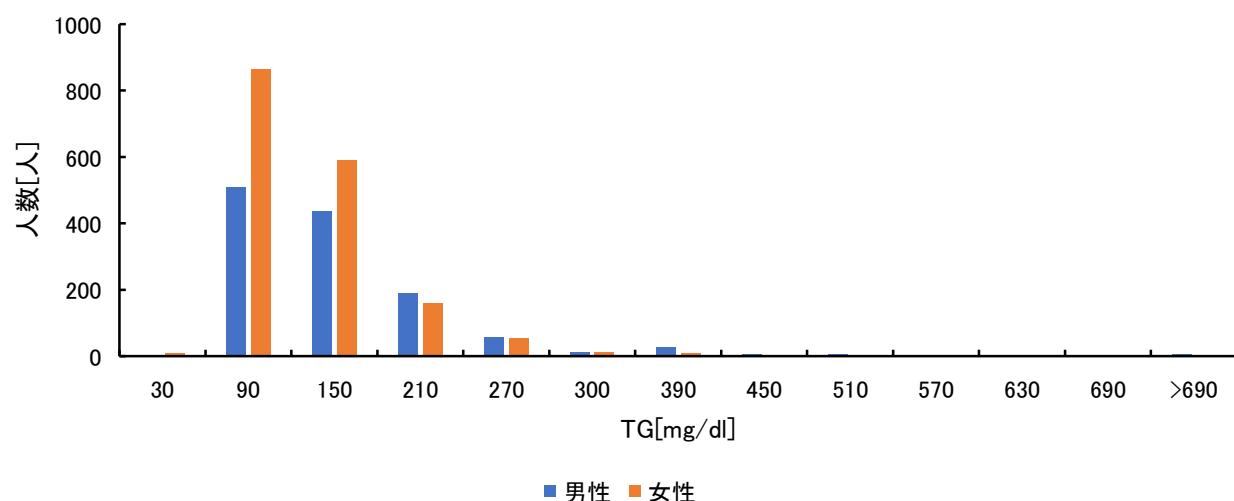


図 7-31 TG の度数分布

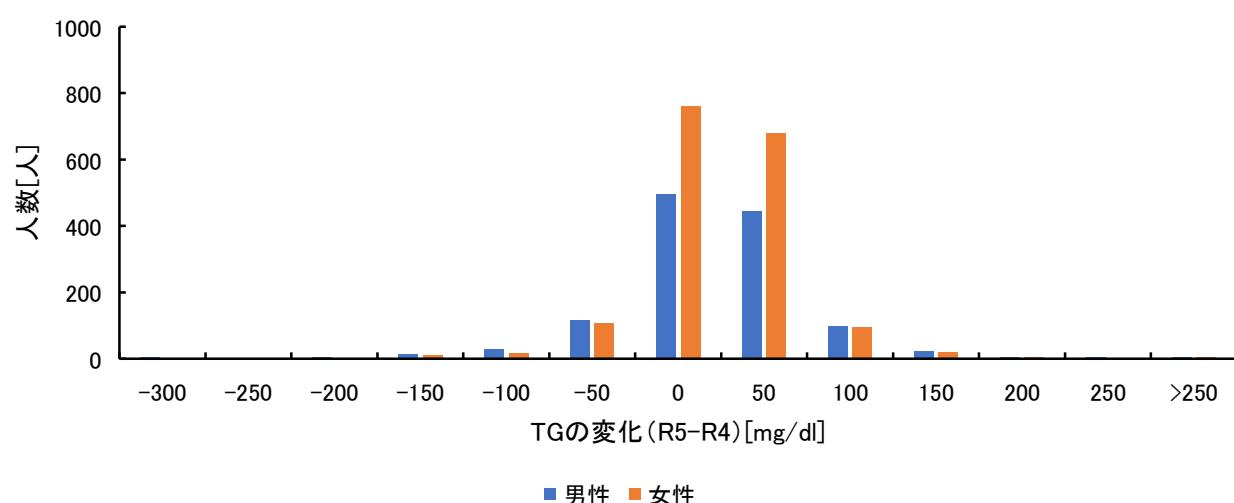


図 7-32 TG の変化

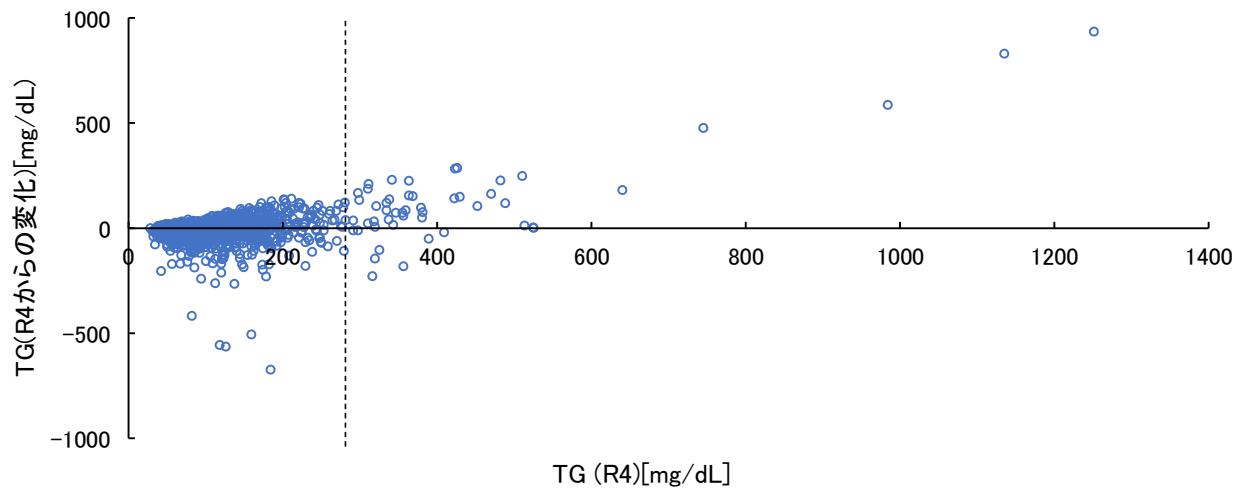


図 7-33 男性の TG の変化

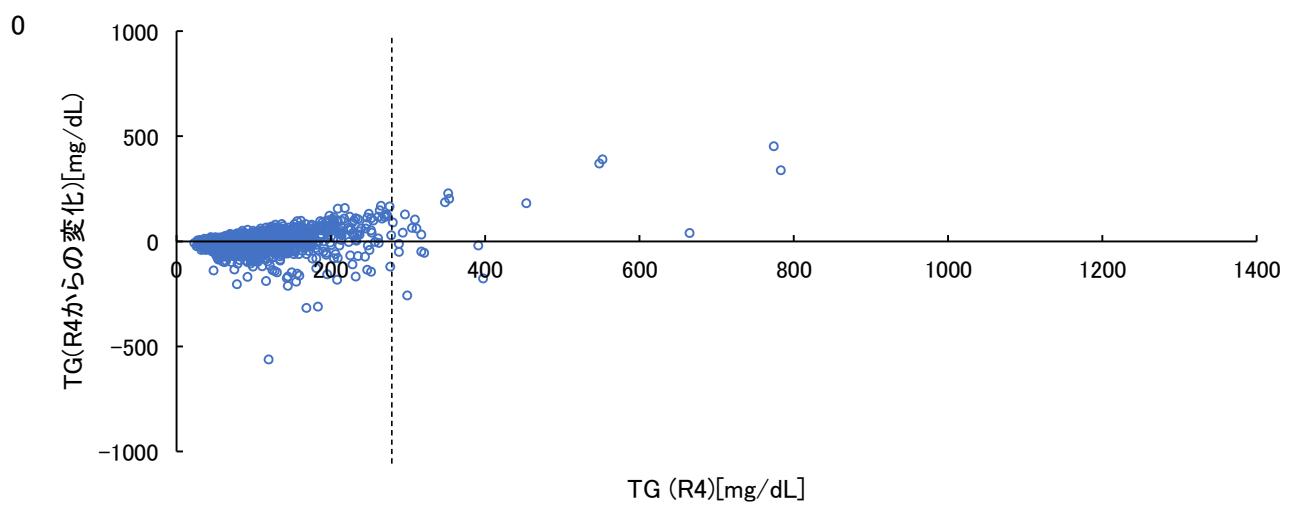


図 7-34 女性の TG の変化

図 7-35 に令和 5 年度の TG 判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 73.8%，軽度異常は 21.8%，要経過観察は 3.5%，要医療は 0.9% であった。女性の異常なしは 84.5%，軽度異常は 13.9%，要経過観察は 0.7%，要医療は 0.8% であった。

図 7-36 に男性、図 7-37 に女性の令和 5 年度の TG 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性の異常なしの割合は 69.6～77.6%，女性は 82.8～88.8% であることがわかった。男性の要経過観察、要医療の割合は 2.8～7.6%，女性は 1.1～4.0% であり、年齢に伴い低下傾向であることがわかった。

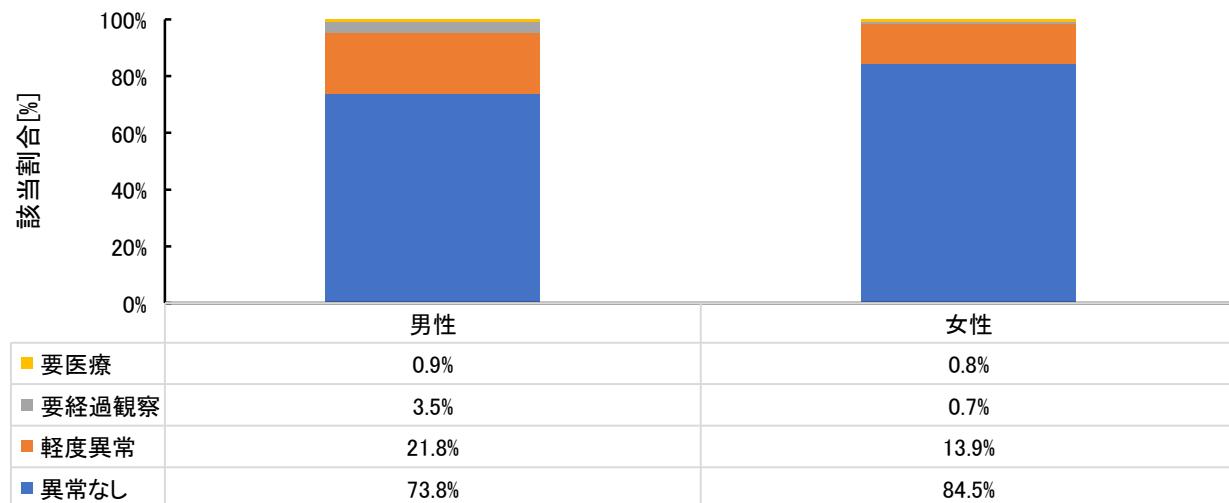


図 7-35 TG 判定の結果

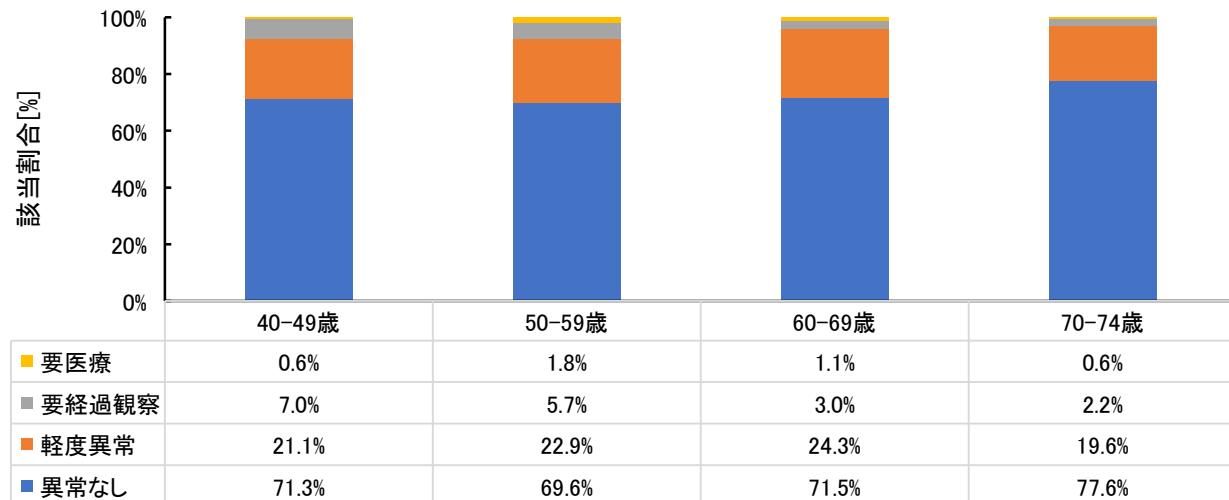


図 7-36 男性の年齢階級別の TG 判定の結果

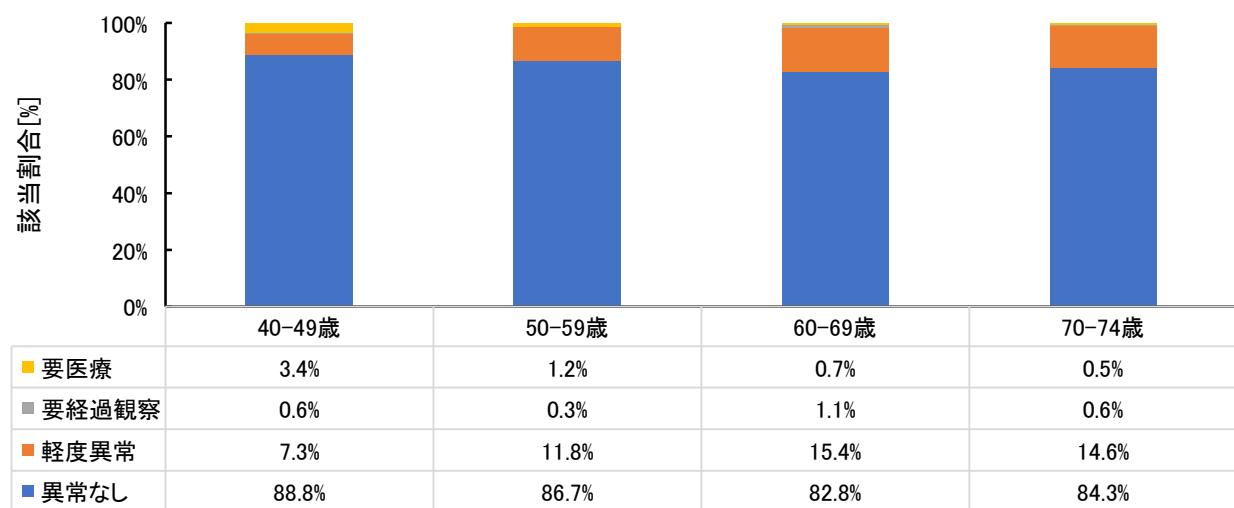


図 7-37 女性の年齢階級別の TG 判定の結果

#### 4.8. HDL コレステロールの状況

HDL コレステロールの判定は異常なし(40mg/dl 以上), 要経過観察(35~39mg/dl), 要医療(34mg/dl 以下)と定義した.

図 7-38 に HDL コレステロールの度数分布を性別に示した. 男性は 60~69mg/dl にピーク, 女性は 70~79mg/dl にピークがある分布であった. 39mg/dl 以下は男性は 6.5%(81 名), 女性は 1.3%(22 名)であった.

図 7-39 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの HDL コレステロールの変化を性別に示した. 令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果,  $\pm 5\text{mg/dl}$  の割合が男性は 73.0%, 女性は 70.8% であった.

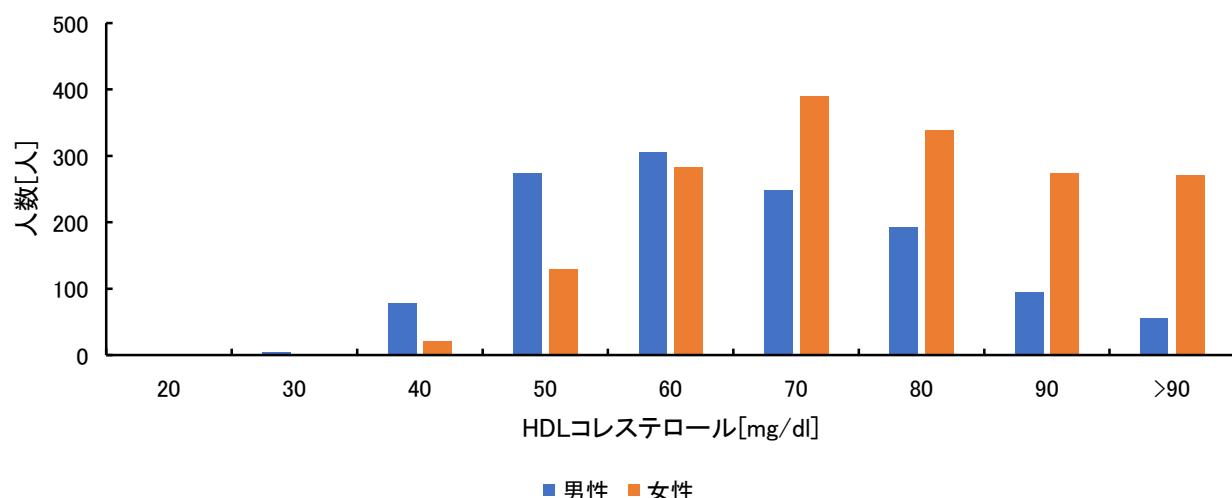


図 7-38 HDL コレステロールの度数分布

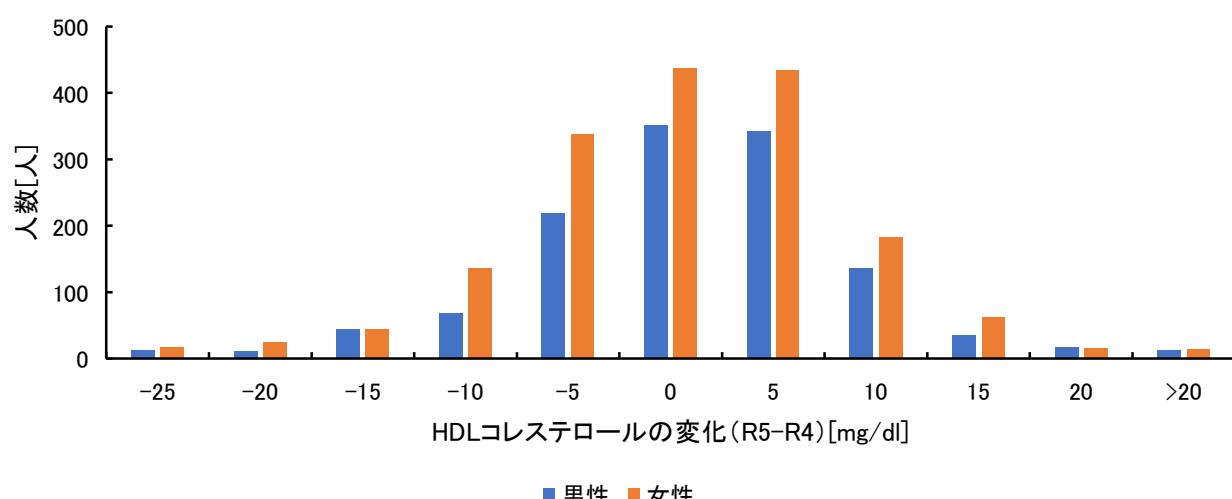


図 7-39 HDL コレステロールの変化

図 7-40 に令和 5 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 94.2%，要経過観察は 4.1%，要医療は 1.7% であった。女性の異常なしは 98.9%，要経過観察は 0.8%，要医療は 0.3% であった。

図 7-41 に男性、図 7-42 に女性の令和 5 年度の HDL コレステロール判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともにすべての年齢階級で異常なしの割合は 90% 以上であった。

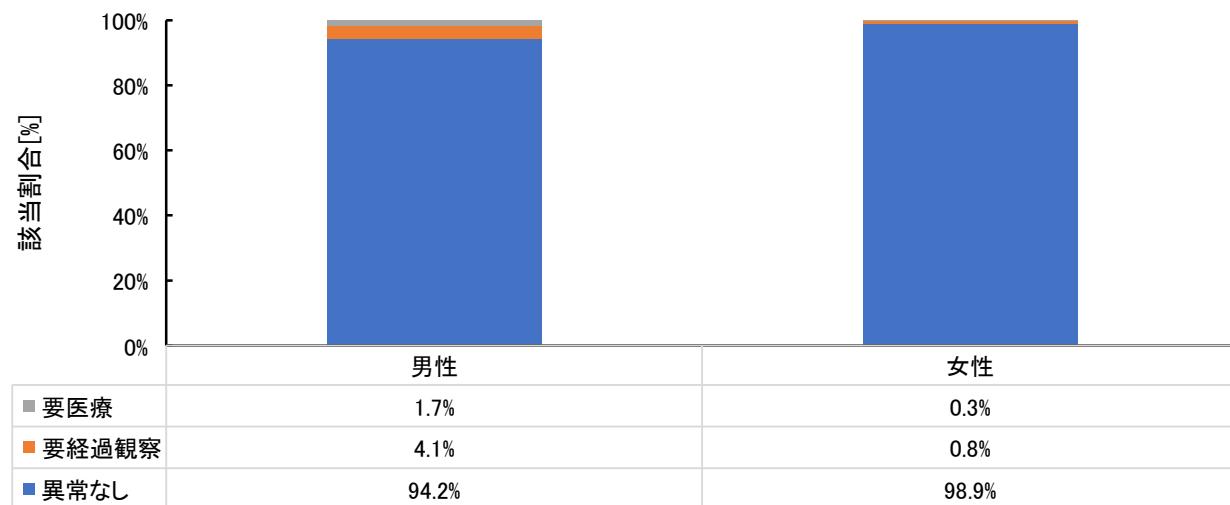


図 7-40 HDL コレステロール判定の結果

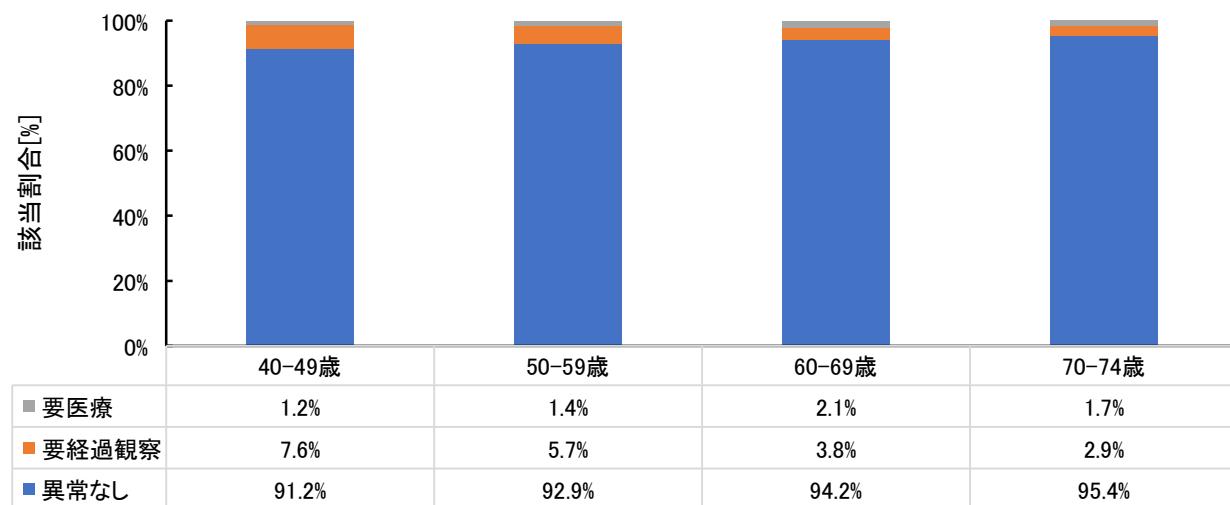


図 7-41 男性の年齢階級別の HDL コレステロール判定の結果

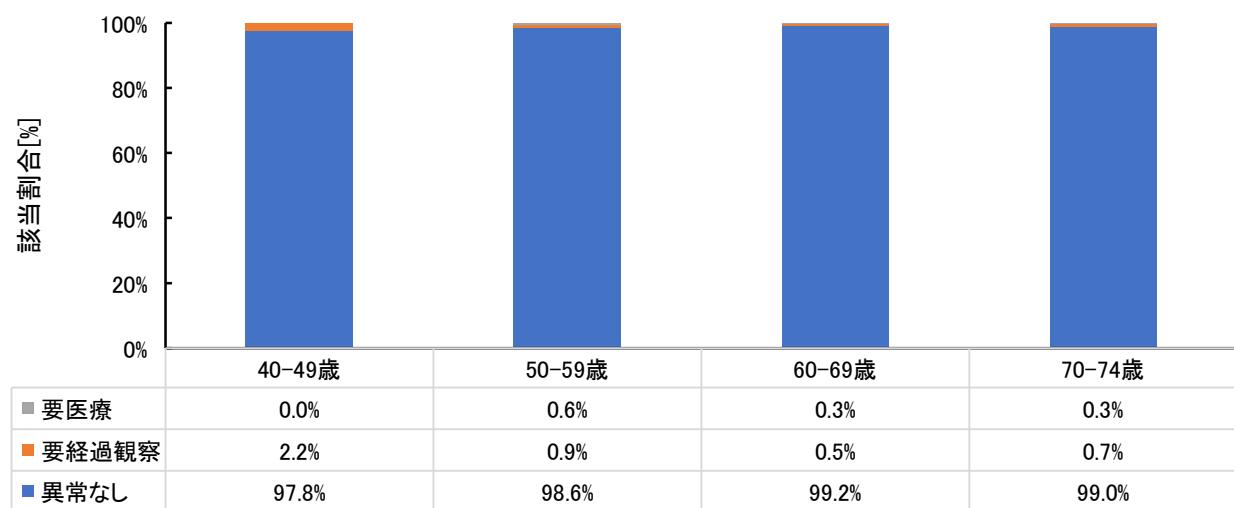


図 7-42 女性の年齢階級別の HDL コレステロール判定の結果

#### 4.9. LDL コレステロールの状況

LDL コレステロールの判定は異常なし群(60–119mg/dl), 軽度異常群(120–139mg/dl), 要経過観察群(140–179mg/dl), 要医療群(59mg/dl 以下または 180mg/dl 以上)と定義した.

図 7-43 に LDL コレステロールの度数分布を性別に示した. 男性は 120~129mg/dl にピーク, 女性は 130~139mg/dl にピークがある分布であった. 120mg/dl 以上の割合は男性は 46.2%(578 人), 女性は 58.2%(994 人)であった. 180mg/dl 以上の割合は男性は 3.0%(37 人), 女性は 5.0%(85 人)であった. 60mg/dl 以下の割合は男性は 2.2%(27 人), 女性は 0.8%(14 人)であった.

図 7-44 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの LDL コレステロールの変化を性別に示した. 令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果,  $\pm 10\text{mg/dl}$  の割合は男性は 61.8%, 女性は 61.3% であった. 40mg/dl 以上減少したのは男性は 3.5%, 女性は 4.0% であった. 40mg/dl 以上増加したのは男性は 4.3%, 女性は 3.6% であった.

図 7-45 に男性, 図 7-46 に女性の令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの LDL コレステロールの変化を散布図に示した. 縦の破線は LDL コレステロール判定の異常群の LDL コレステロール 180mg/dl のラインに引いている. 男女ともに令和 5 年度に LDL コレステロールが 180mg/dl 以上の該当者は令和 4 年度から LDL コレステロールが増加傾向にあった.

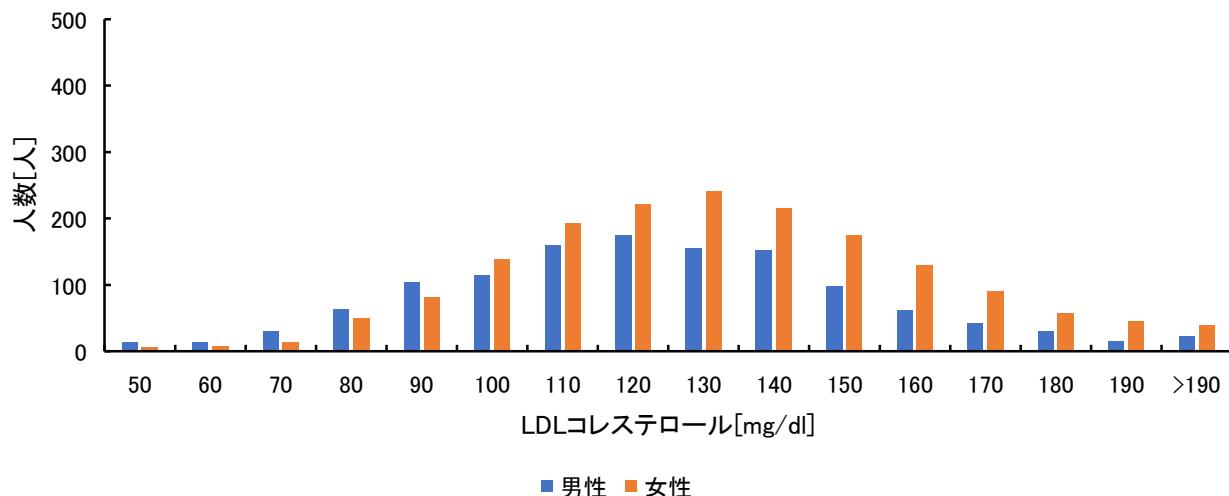


図 7-43 LDL コレステロールの度数分布

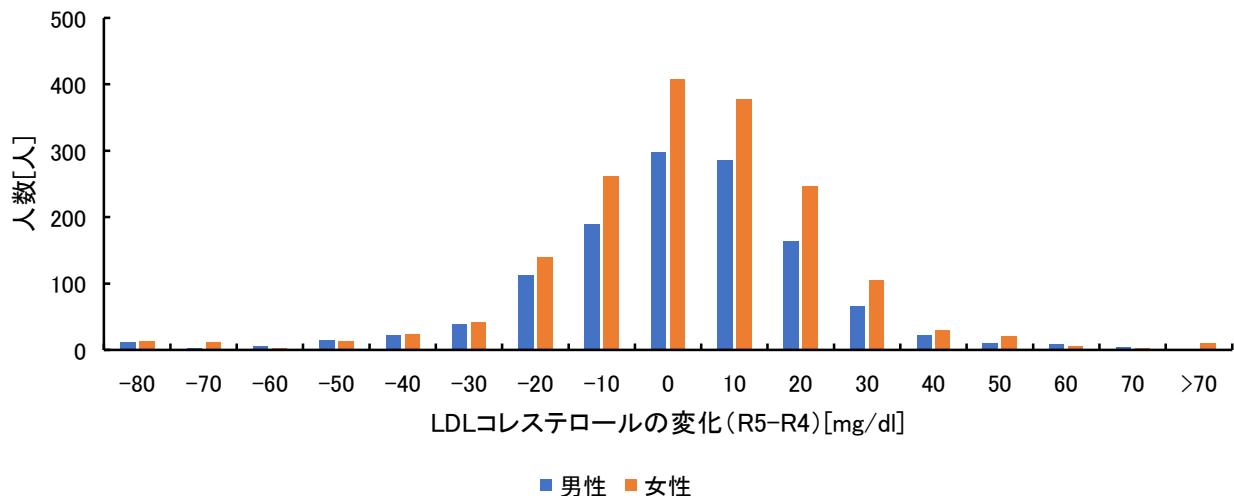


図 7-44 LDL コレステロールの変化

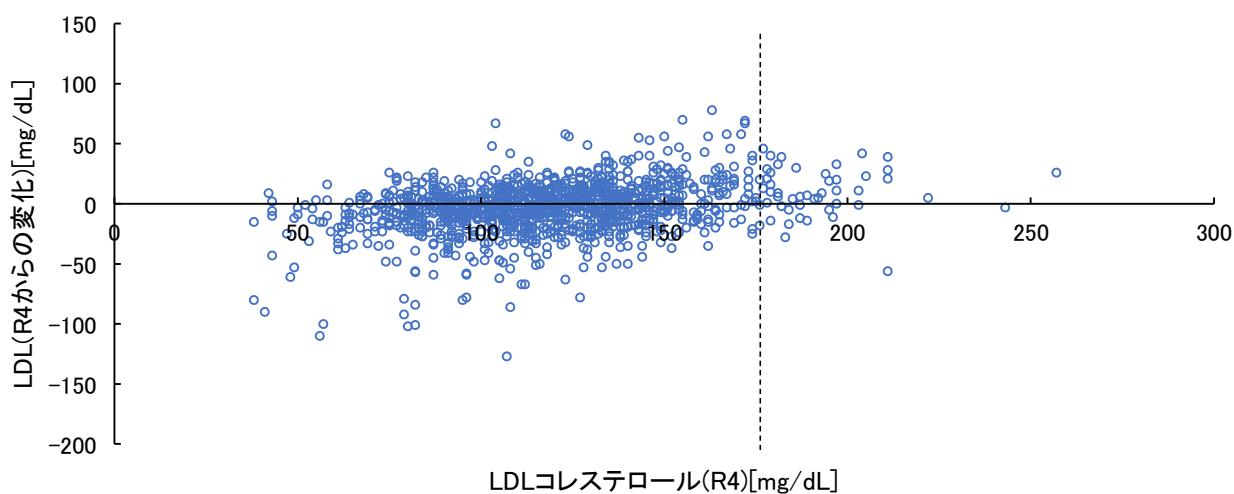


図 7-45 男性の LDL コレステロールの変化

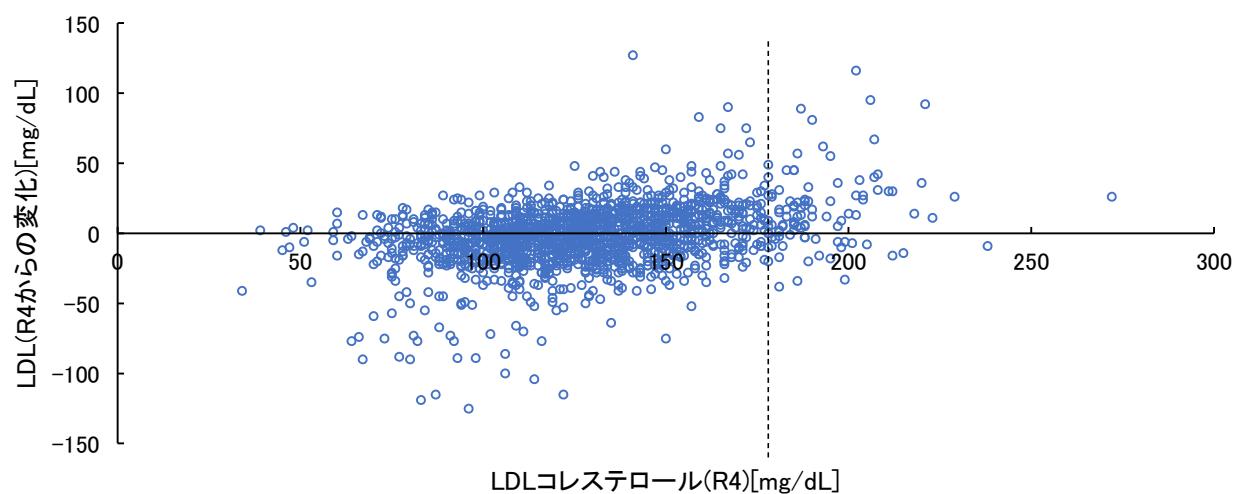


図 7-46 女性の LDL コレステロールの変化

図 7-47 に令和 5 年度の LDL コレステロール判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 49.3%，軽度異常は 24.4%，要経過観察は 20.5%，要医療は 5.8% であった。女性の異常なしは 39.7%，軽度異常は 26.1%，要経過観察は 27.6%，要医療は 6.5% であった。

図 7-48 に男性、図 7-49 に女性の令和 5 年度の LDL コレステロール判定結果の割合を年齢階級別に示した。男性は年齢に伴い異常なしの割合が増加していた。女性は 50-59 歳、60-69 歳で異常なしの割合が低下し、軽度異常、要経過観察の割合が増加していた。

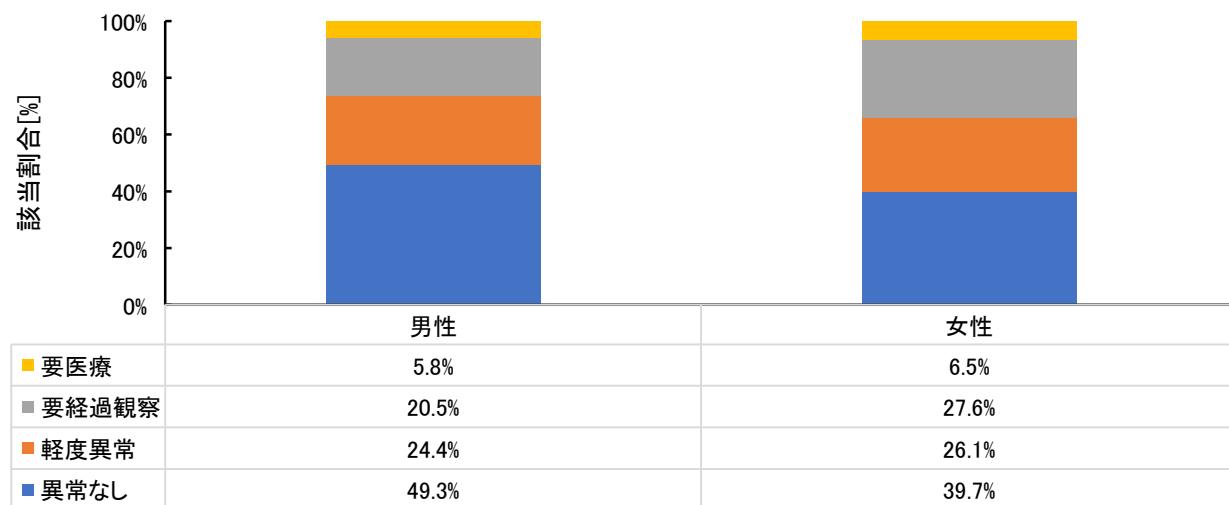


図 7-47 LDL コレステロール判定の結果

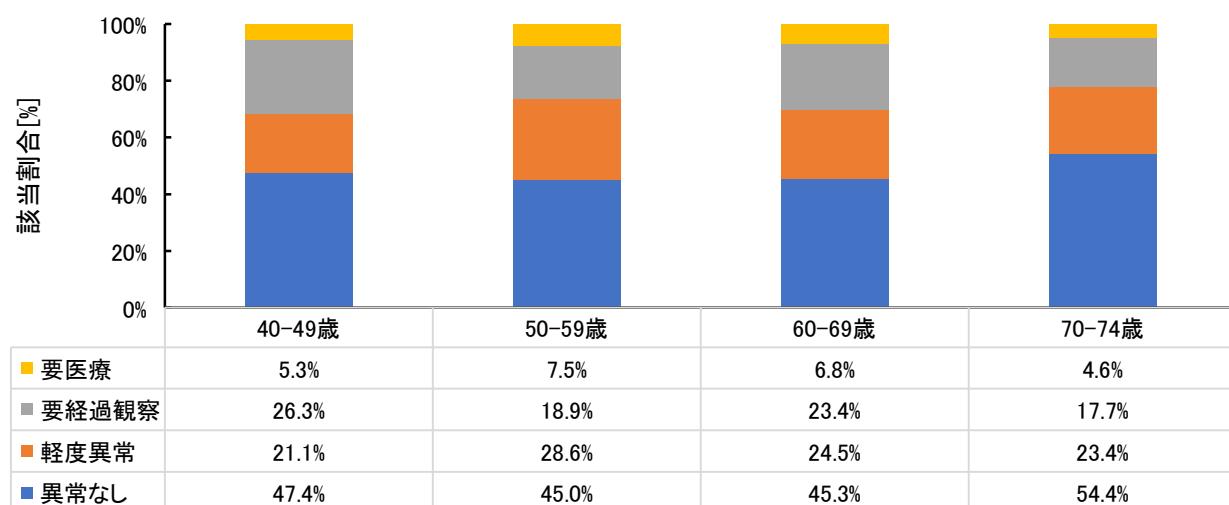


図 7-48 男性の年齢階級別の LDL コレステロール判定の結果

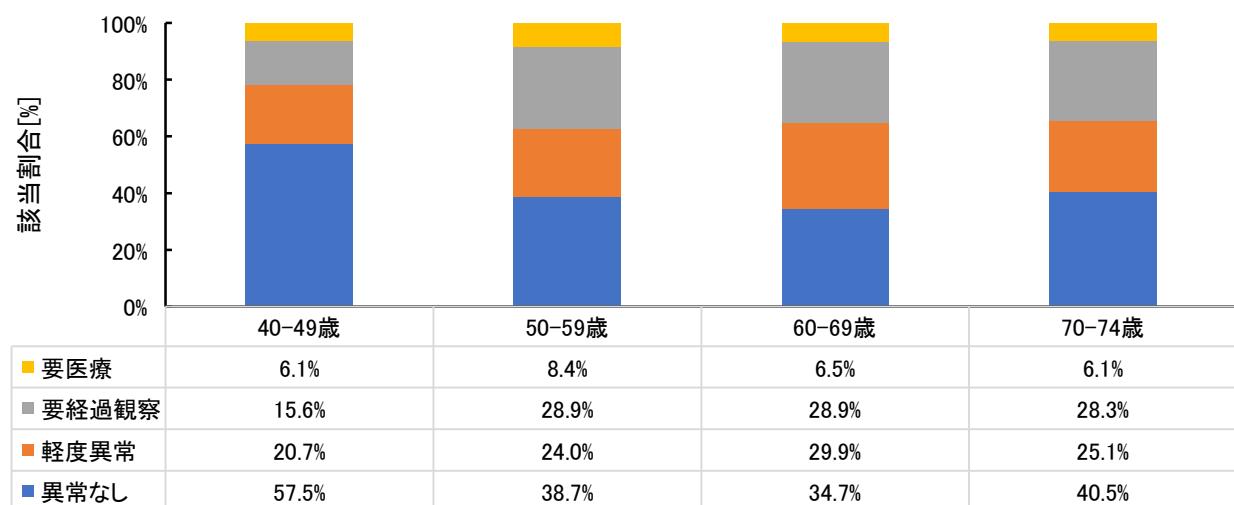


図 7-49 女性の年齢階級別の LDL コレステロール判定の結果

#### 4.10. GOT・GPT・ $\gamma$ -GTP の状況

図 7-50 に GOT, 図 7-51 に GPT, 図 7-52 に  $\gamma$ -GTP の度数分布を性別に示した。GOT は男女ともに 30~34IU/L, GPT は 30~39IU/L にピークがある分布であった。 $\gamma$ -GTP は男性は 40~59IU/L, 女性は 20~39IU/L にピークがある分布であった。

図 7-53 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの GOT の変化, 図 7-54 に GPT の変化, 図 7-55 に  $\gamma$ -GTP の変化を性別に示した。令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果, GOT は男性は 84.4%, 女性は 83.2% $\pm$ 10IU/L の変化, GPT は男性は 61.8%, 女性は 81.6% $\pm$ 10IU/L の変化であった。 $\gamma$ -GTP は男女ともに 96% 以上が $\pm$ 50IU/L の変化であった。

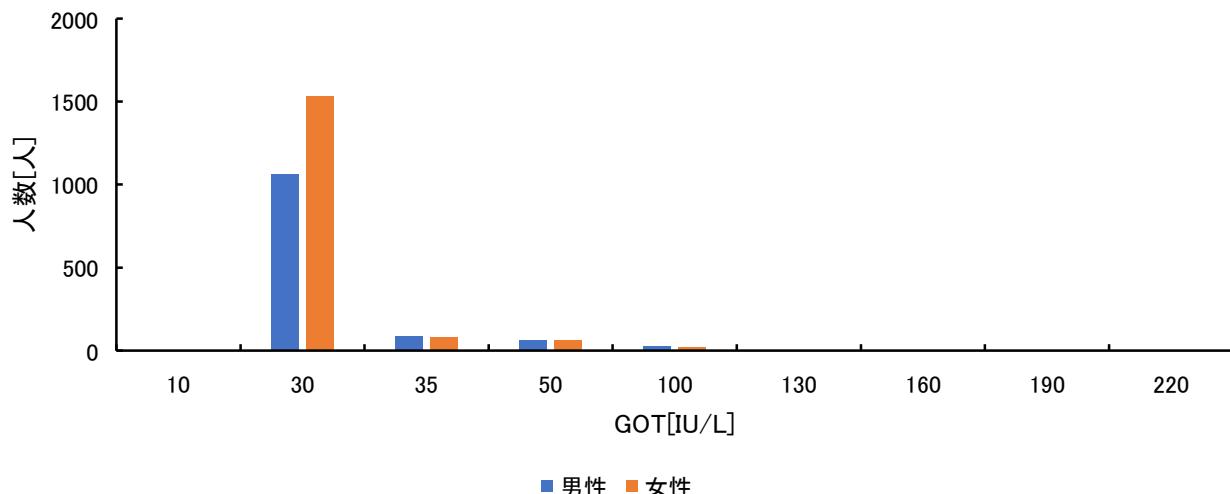


図 7-50 GOT の度数分布

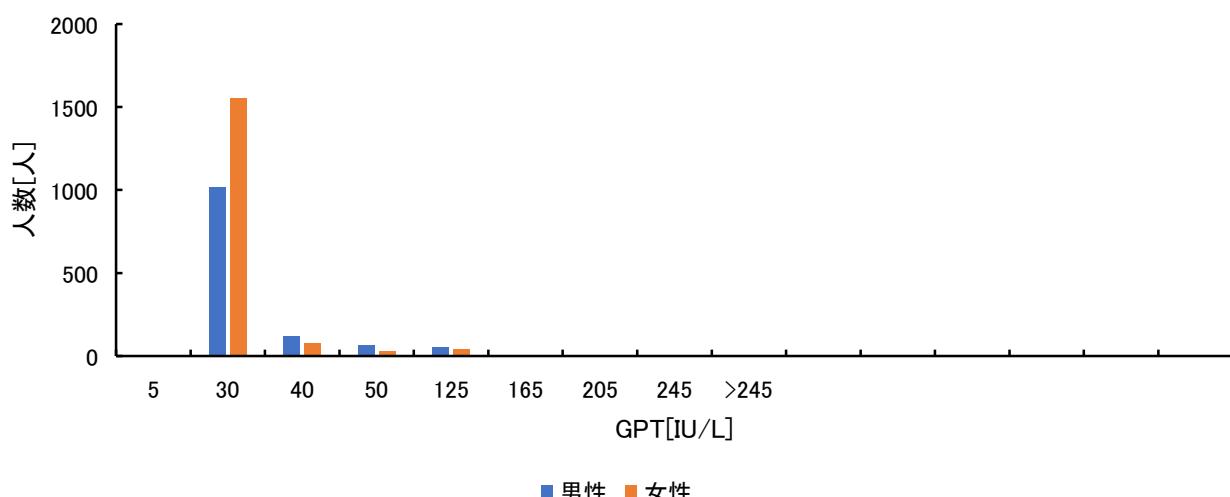


図 7-51 GPT の度数分布

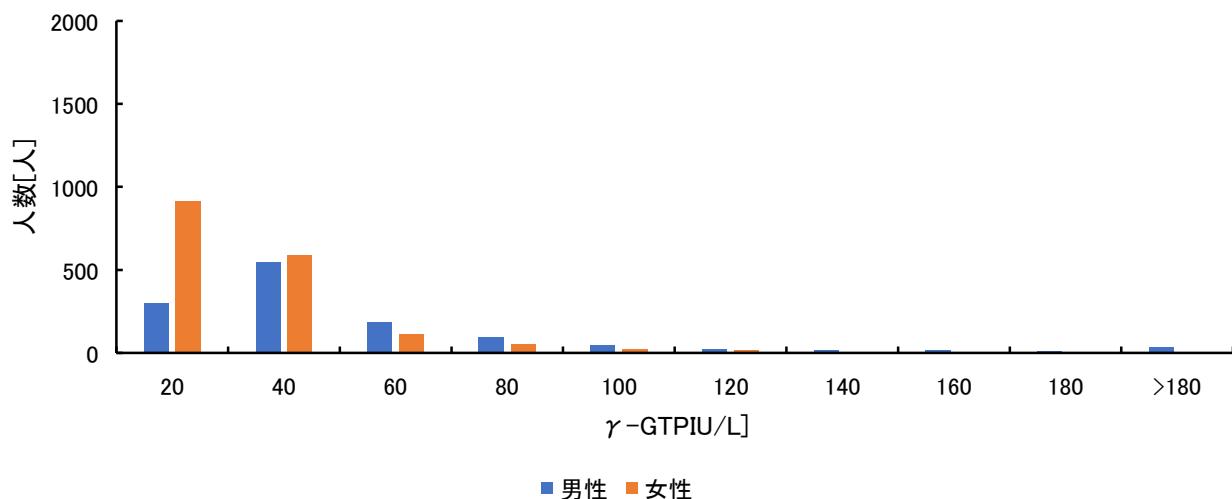


図 7-52  $\gamma$ -GTP の度数分布

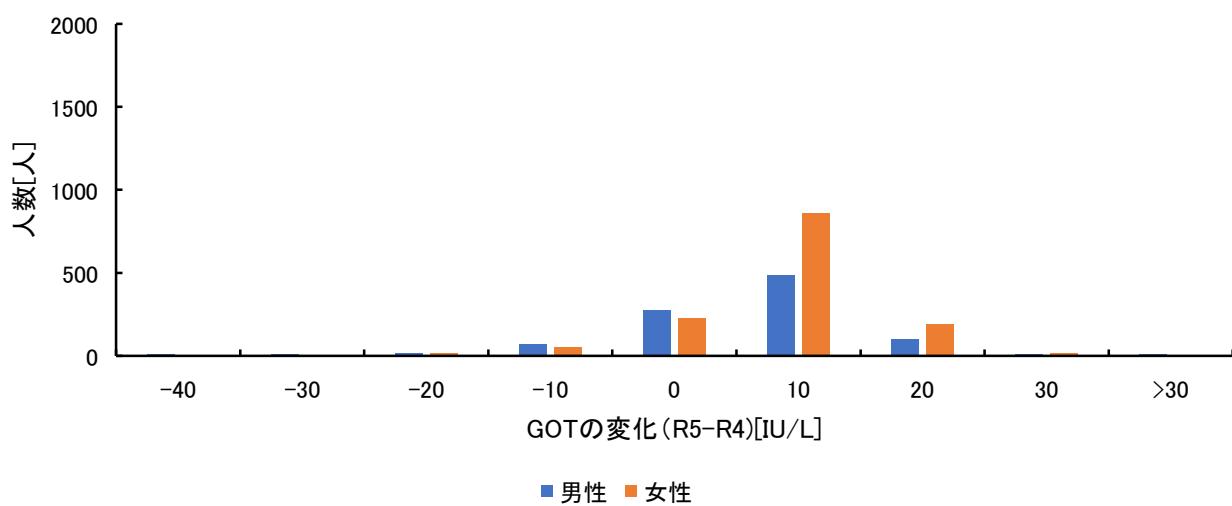


図 7-53 GOT の変化

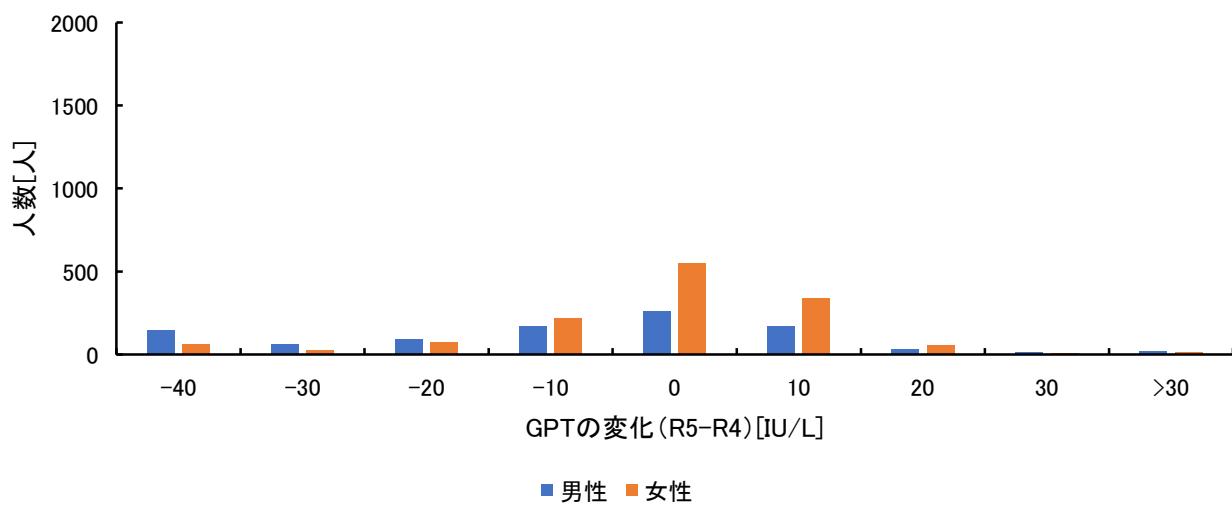


図 7-54 GPT の変化

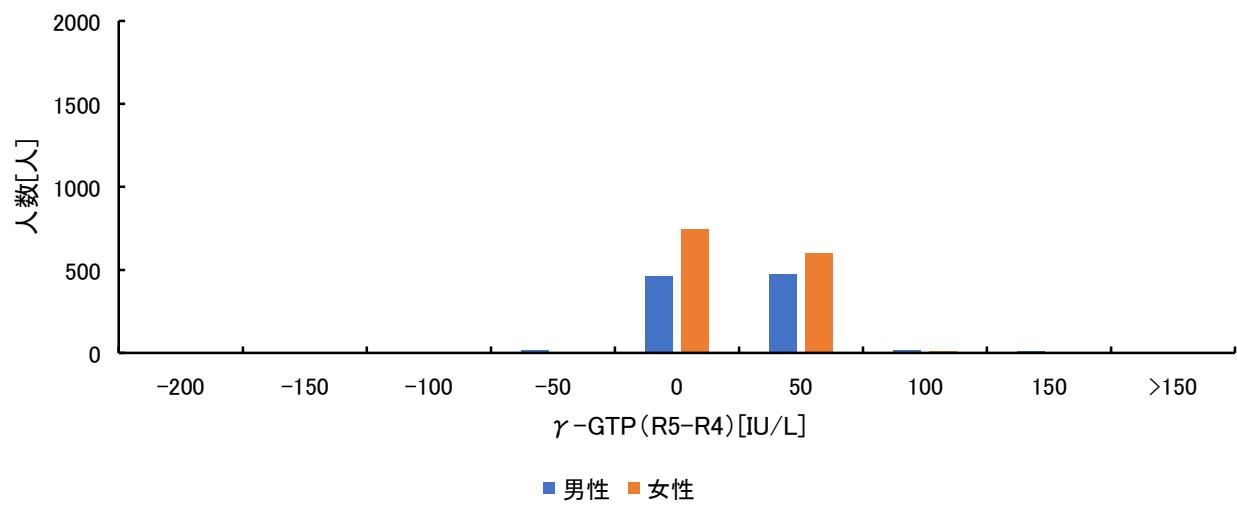


図 7-55  $\gamma$ -GTP の変化

#### 4.11. 血清クレアチニンの状況

図 7-56 に血清クレアチニンの度数分布を性別に示した。男性は  $0.9\text{mg/dl}$  にピーク、女性は  $0.7\text{mg/dl}$  にピークがある分布であった。男性の  $1.0\text{mg/dl}$  以上の割合は 18.9%(236 人)、女性の  $0.7\text{mg/dl}$  以上の人数は 31.4%(531 人) であった。

図 7-57 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの血清クレアチニンの変化を性別に示した。令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果、 $\pm 0.1\text{mg/dl}$  の割合が男性は 90.1%、女性は 96.6% であった。

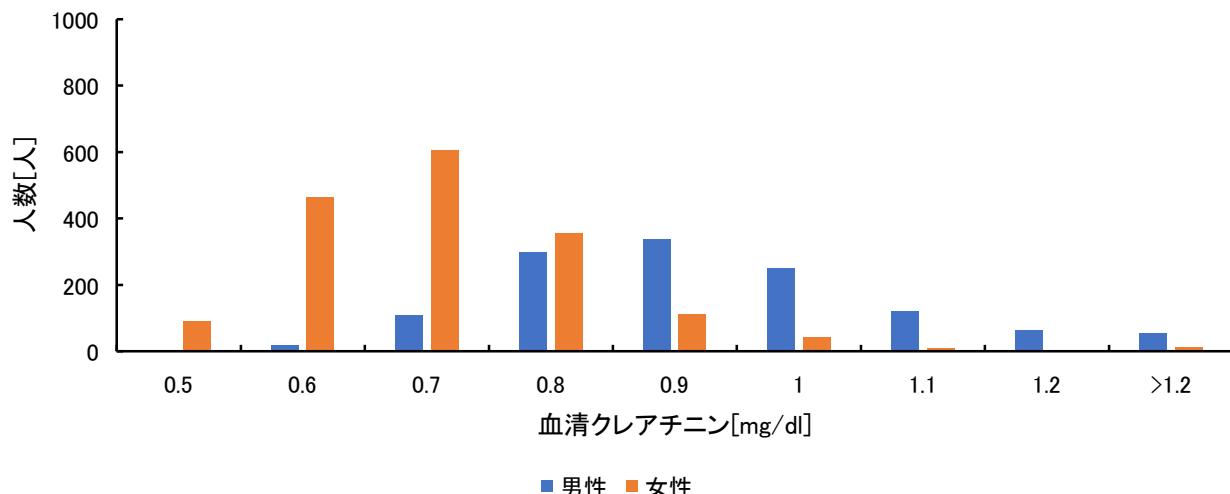


図 7-56 血清クレアチニンの度数分布

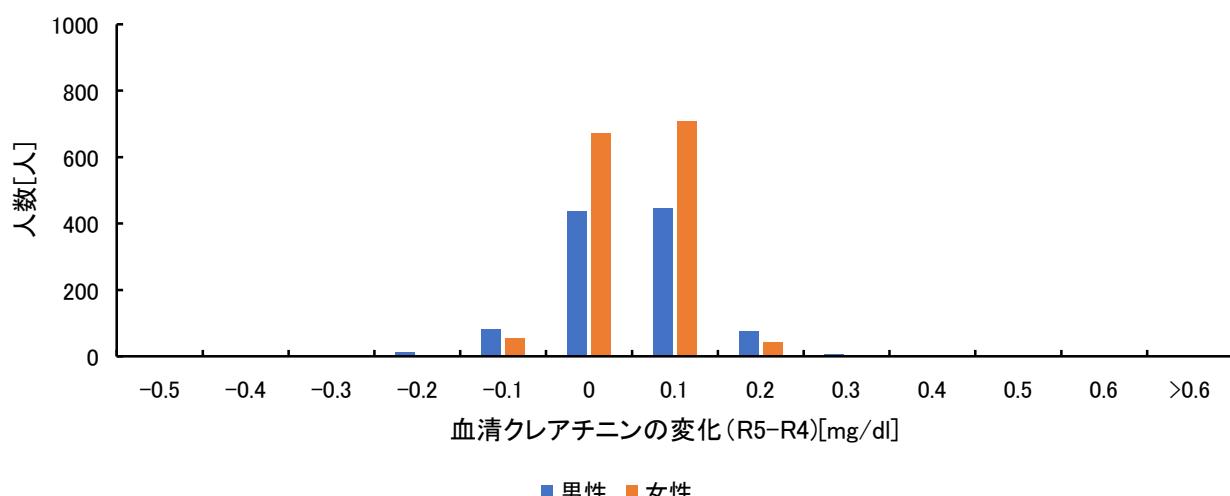


図 7-57 血清クレアチニンの変化

#### 4.12. eGFR の状況

eGFR 判定は異常なし( $60.0[\text{ml}/\text{分}/1.73\text{m}^2]$  (以下単位省略)以上), 要経過観察群(45.0-59.9), 要医療群(44.9 以下)と定義した.

図 7-58 に eGFR の度数分布を性別に示した. eGFR は血清クレアチニンから算出し, 腎臓が老廃物を尿へ排出する能力がどの程度あるかを示している. 腎臓における血液の濾過量のため, 値が小さくなるほど濾過機能が悪いことを意味する. 男女ともに  $75\sim89\text{ ml}/\text{min}/1.73\text{m}^2$  にピークがある分布であった.

図 7-59 に令和 5 年度を基準に令和 4 年度からの eGFR の変化を性別に示した. 令和 4 年度と令和 5 年度を比較した結果,  $\pm 5$  の割合が男性は 75.1%, 女性は 76.5% であった. 15 以上減少したのは男性は 2.3%, 女性は 1.5% であった. 15 以上増加したのは男性は 1.9%, 女性は 1.6% であった.

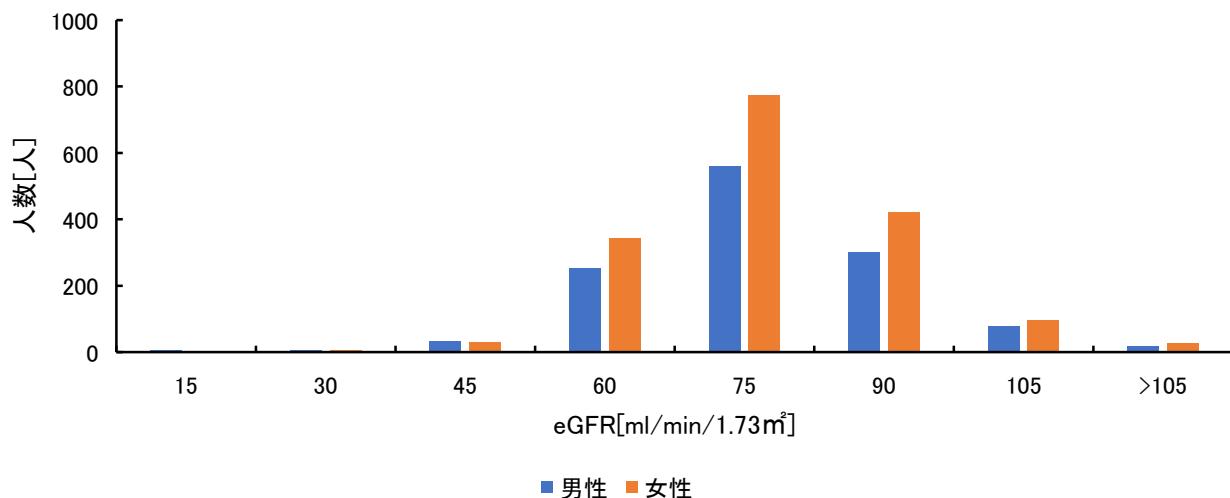


図 7-58 eGFR の度数分布

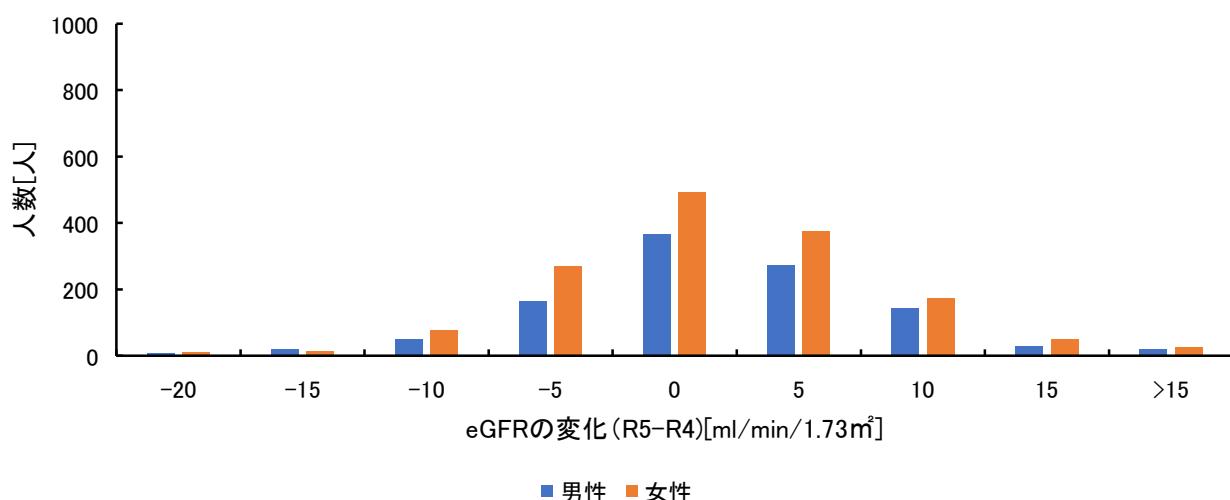


図 7-59 eGFR の度数分布

図 7-60 に令和 5 年度の eGFR 判定結果の割合を性別に示した。男性の異常なしは 77.8%，要経過観察は 19.2%，要医療は 3.1% であった。女性の異常なしは 78.3%，要経過観察は 19.9%，要医療は 1.8% であった。

図 7-61 に男性、図 7-62 に女性の令和 5 年度の eGFR 判定結果の割合を年齢階級別に示した。男女ともに年齢に伴い異常なしの割合が低下していた。40-49 歳は男女ともに要医療は 0% であったが年齢に伴い、要経過観察、要医療の割合が増加していた。

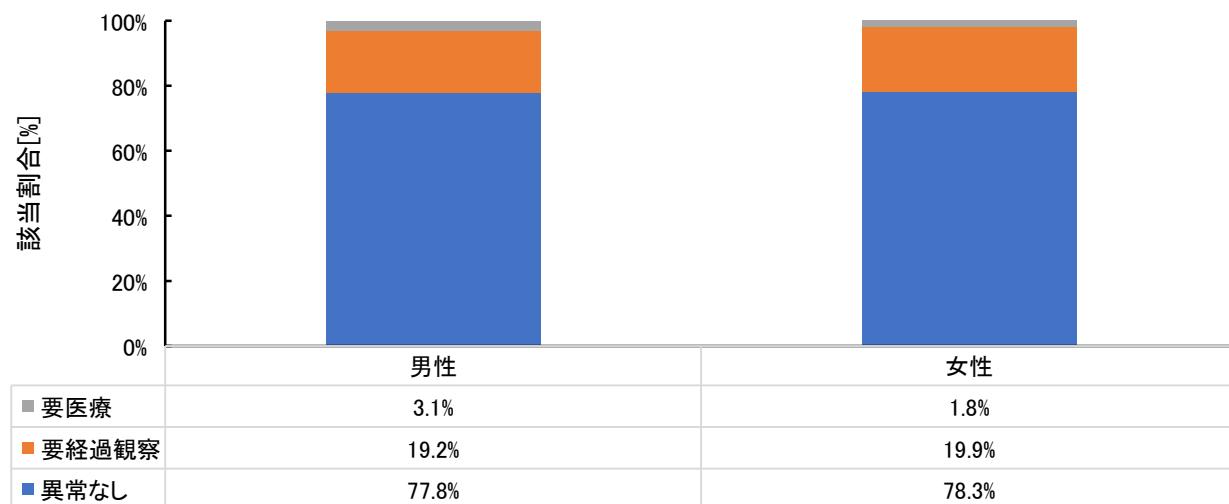


図 7-60 eGFR 判定の結果

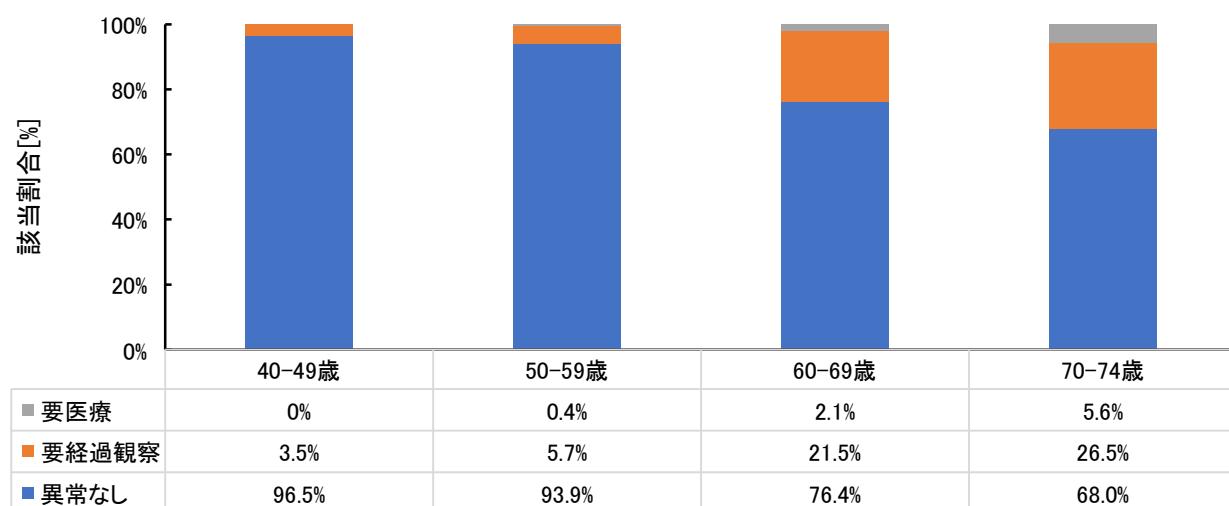


図 7-61 男性の年齢階級別の eGFR 判定の結果

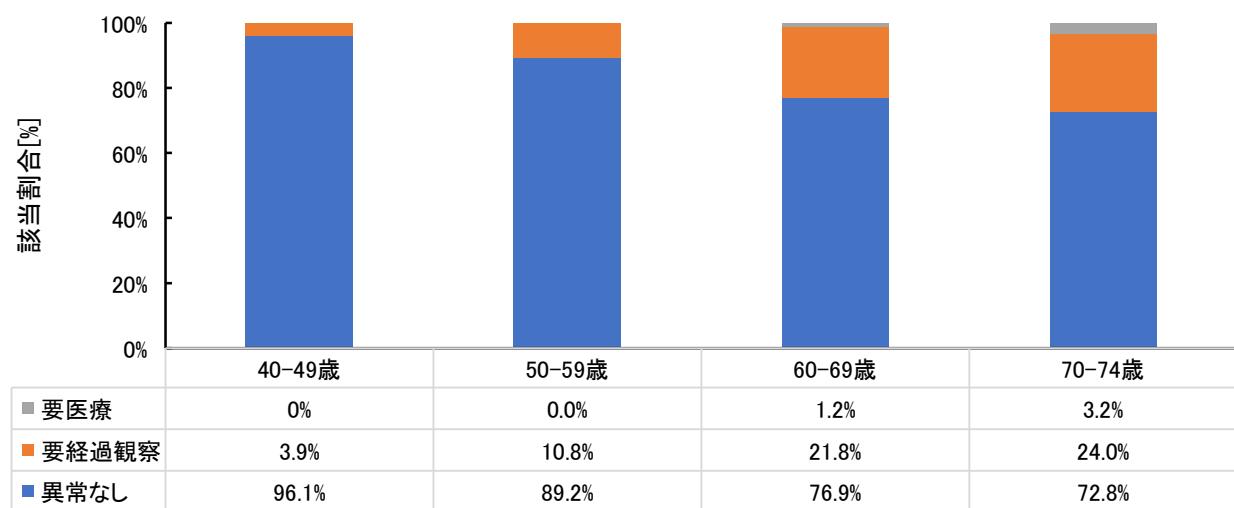


図 7-62 女性の年齢階級別の eGFR 判定の結果

## 第8章 まとめ

### 1. 国保医療費のまとめ

- 国保被保険者は 65 歳以上が 30%, 60 歳以上まで含めると 37%を占めた。つまり、国保医療費の 4 割は 60 歳以上の医療費が反映されている。生産年齢である 15~64 歳の割合は 63.6%, 20~64 歳の割合は 60.1%であった。65 歳以上も継続的に働く割合が増えており、国保の在り方も変わる可能性があるが、国保の被保険者割合は、生産年齢(15~64 歳)の割合が今後も低いままで推移すると予測される。定年退職や疾病等により社保から国保に移行する人を対象とした健康教育や社会復帰対策は今後も重要だと考えられる。
- 国保被保険者の 2 番目のピークは 20~29 歳(割合は 31.6%)であった。若年期からの健康教育・運動の推進や健診・検診は予防的アプローチとして意義が大きいと考えられる。
- 入院の受療割合は、男性は 55 歳以降、女性は 65 歳以降に増加している。50 歳以降では女性より、男性の入院割合が高い傾向にある。
- 入院外の受療割合は男女ともに子どもと高齢者で高い U 字型のカーブを描く。特に、高齢期になるほど入院を含めた受療割合、レセプト件数が増加した。入院外の受療割合について 60%を超えるのは、男性で 55 歳、女性では 40 歳であり、その後は上昇した。
- レセプト件数が 36 件/年を超えたのは 92 名であった。25~35 件/年だったのは 429 名であった。40 歳から増加傾向がみられることから、重複受診は早期から教育と対策が求められることがわかる。
- 入院外診療日数が年間 120 日を超える頻回受診者は、79 名(平均年齢 63.6 歳)であり、男性が 53 名(平均年齢 63.5 歳)、女性が 26 名(平均年齢 64.0 歳)であった。この傾向は昨年度と同様であった。背景疾患は、第 9 章(循環器系の疾患)、第 4 章(内分泌、栄養及び代謝疾患)、第 11 章(消化器系の疾患)、第 13 章(筋骨格系及び結合組織の疾患)が多かった。一人当たりの医療費では、第 2 章の新生物、第 3 章の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害、第 14 章の腎尿路性器系の疾患、第 1 章の感染症及び寄生虫症では 450 万円を超えていた。
- 入院期間が 250 日を超える長期入院患者は、40 名(平均年齢 60.6 歳)が該当し、男性で 25 名(平均年齢 57.4 歳)、女性で 15 名(平均年齢 65.9 歳)であった。総医療費の総額は約 2.4 億円であった。このうち消化器系の疾患、精神及び行動の障害、神経系の疾患の罹患者が多いことがわかった。
- 国保医療費で患者数が多く、医療費の総額が大きいのが、第 11 章の消化器系の疾患、第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患、第 10 章の呼吸器系の疾患、第 9 章の循環器系の疾患、第 13 章の筋骨格系及び結合組織の疾患であった。特に患者数が多いのは、第 10 章の呼吸器系の疾患、第 11 章の消化器系の疾患、第 7 章の眼及び付属器の疾患、第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患、第 12 章の皮膚及び結合組織の疾患、第 9 章の循環器系疾患であった。
- 総医療費の合計は 70~74 歳の人数、受療割合が高いため、他群よりも大きく上回っていた。70~74 歳で総医療費が高いのは、第 11 章の消化器系の疾患、第 9 章の循環器系の疾患、第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患、第 10 章の呼吸器系の疾患であった。この傾向は毎年同様であり、対策が求められる。総医療費が高い上位 3 つの第 11 章、第 9 章、第 4 章は 65 歳で受療割合が 4 割を超えていた。
- 70~74 歳について、入院の受療割合が高い疾病分類(入院受療割合 3%を超える)は、第 11 章の消化器系の疾患、第 9 章の循環器系の疾患、第 4 章の内分泌、栄養及び代謝疾患であった。この 3 つの疾病分類は 65~69 歳で 2%を超えており、加齢とともに増加傾向にあった。さらにこの 3 疾病分類は入院外でも受療割合が 50%を超えており、入院につながるリスクを高めている。

- 患者数に関わる上位疾患のうち睡眠障害(不眠症)は上位 7 位に位置し, 25-29 歳から第 6 位に発症し, 40-44 歳で受療割合が 10%を超えた.
- COVID-19 は男性は 26 位(受療割合 4.5%), 女性は 30 位(5.2%)に位置した.
- 精神および行動の障害の入院医療費, 入院外医療費では, 統合失調症, うつ病などの気分障害の医療費が 20~70 歳代まで幅広く大きな割合で発生していた.

## 2. 幼児・若年期

- 幼児, 若年層では, 急性上気道炎などの呼吸器疾患, アレルギー性鼻炎, 湿疹などの皮膚及び皮下組織の疾患, 結膜炎などの眼科疾患が多い.

## 3. 青・壮年期

- 25~39 歳では, 急性気管支炎などの呼吸器の疾患, アレルギー性鼻炎, 不眠症, うつ病などの精神及び行動の障害による疾病が増加している. ストレスに対する知識や行動, 休養, 相談できる環境の利用などの対応が求められる.
- 40 歳代からでんかん, 統合失調症などが入院医療費の上位に位置している. 不眠症の受療割合は 10%を超え, 高血圧症の受療割合が 8%を超え, 心不全が病名として出現する.
- 筋骨格系及び結合組織の疾患, 糖尿病, 脂質異常症の慢性疾患の割合が増加する. 統合失調症などの精神的な課題の割合の増加から, 長期に影響する疾病構造が構成されている. 40 歳からの対策は大きな影響を与えると考えられる.
- 50 歳代でも不眠症は上位疾患に挙げられる. 60 歳代からは心不全, アルツハイマー型認知症, パーキンソン病, うつ病が増加している. 高血圧の受療割合は 25%を超え, 脂質異常症, 糖尿病の受療割合が増加している.

## 4. 高齢期

- 高齢期では, 第 4 章の糖尿病, 脂質異常症等の内分泌, 栄養及び代謝疾患, 第 6 章の睡眠障害, 多発性ニューロパチーの神経系の疾患, 第 9 章の高血圧性疾患, 心不全等の循環器系疾患, 第 13 章の関節炎, 股関節症, 膝関節症, 脊柱管狭窄症の筋骨格及び結合組織の疾患, 骨粗鬆症が増加していた. これらの疾患は, 総医療費合計で 5 億円以上かかっており, 予防や対策が求められる. 特に, 多発性ニューロパチーは糖尿病, アルコール, 薬剤性が要因として考えられるため, 正しい知識を持つことと, 生活習慣の改善が必要だと考えられる.
- 高齢期ではアレルギー性鼻炎, 結膜炎, 呼吸器系の疾患医療費, 患者割合が高い. その中に, 急性上気道感染症などが含まれる. 鼻水の症状の原因には薬剤性鼻炎など薬に由来するものも少なくない. 花粉症やアレルギーの治療に抗コリン系薬剤を継続的に服用すると認知症リスクを高める可能性がある.
- 55~59 歳から心疾患, 脳血管疾患が増加している. 背景に糖尿病, 高血圧症, 脂質異常症に罹患し, その後, 心疾患, 脳血管疾患が発現することから予防と対策, さらには再発予防に取り組むことが求められる.
- アルツハイマー病は 60-64 歳から増加している. アルツハイマー病は長期にわたる睡眠障害や運動, 生活習慣も関連すると報告される. 睡眠障害は 25-29 歳から右肩上がりに増加している. この関連が疑われるため, 対策が求められる.

- 膝関節症、股関節症は入院外では入院では 60 歳以降、入院外では 55-59 歳以降で受療割合が増加し、医療費が高まっている。これはこれまでと同じ傾向であり、予防が求められる。骨粗鬆症は 60 歳以降で増加している。女性は特にホルモンの影響で骨粗鬆症対策が求められる。関節疾患は下肢筋力の向上、歩行、靴の対策などにより予防ができるため、早期の対策が必要である。
- 肺炎の入院・入院外の受療割合は 60-64 歳から増加している。肺炎は、要介護要因にもなることから口腔衛生や義歯、入れ歯の対策が求められる。

## 5. 特定健診

- 保健指導について、動機付け・積極的支援に該当したのは男性が 19.4%、女性が 7.0%で男性に多い傾向であった。男性の 40~49 歳は 31.0%(動機付け 14.0%, 積極的 17.0%), 50-59 歳は 28.0%(動機付け 10.8%, 積極的 17.2%), 女性の 40~49 歳は 10.6%(動機付け 6.1%, 積極的 4.5%), 50-59 歳は 10.7%(動機付け 6.4%, 積極的 4.3%)であった。
- メタボ該当者は全体で 33.5%，男性 55.1%，女性 18.0%が該当した。男性に多い傾向にある。
- 糖尿病の指標となる HbA1c では、メタボ非該当の要経過観察、要医療の該当者は 20.0%に対し、メタボ該当者では 37.5%が該当した。メタボ該当者では糖尿病リスクが高いことが推察される。
- 身長の 1 年間の変化で 1cm 以上減少したのは男性で 8.2%，女性で 6.4%であった。50 歳以降で身長が 2cm 以上、若いときと比べて 4cm 以上減少していると骨粗鬆症リスク群と報告される。女性は特に骨粗鬆症による骨折リスクが高いため、予防が求められる。身長の変化にも注目し、骨折予防に心掛けたい。
- BMI では、25 以上に該当したのは男性で 31.4%，女性で 18.7%であった。18.5 未満では男性で 3.8%，女性で 14.8%であった。男性の肥満、女性の痩せが課題として挙げられる。
- BMI 別に HbA1c 判定を確認すると、男性の 18.5 未満は HbA1c の要経過観察、要医療の割合が 21.5%，18.5~25 未満は 26.4%，25 以上は 40.3%が該当した。女性では 18.5 未満は 13.6%，18.5~25 未満は 19.9%，25 以上は 39.1%が該当した。男女ともに BMI が大きいほど糖尿病リスクが高いことがわかった。メタボと同様に糖尿病対策という点でも BMI のコントロールが求められる。
- 血圧では収縮期血圧において男女ともに 130~139mmHg にピークがあり、次に 140~149mmHg の度数分布が大きかった。つまり、軽度異常、要経過観察の割合が高いことがわかった。特に心疾患、脳血管疾患リスクが高まる収縮期血圧が 180mmHg 以上は男性の 0.6%(8 名)，女性の 0.4%(6 名)，拡張期血圧が 110mmHg 以上は男性の 0.8%(10 名)，女性の 0.2%(3 名)であった。
- 血圧において、要経過観察、要医療に該当したのは男性で 31.3%，女性で 25.5%であった。要経過観察、要医療該当者は年齢とともに増加し、男性では 50-59 歳で 30.4%，60-69 歳で 31.1%，70-74 歳で 34.9%であった。女性では 50-59 歳で 17.9%，60-69 歳で 27.0%，70-74 歳で 30.2%であった。この傾向は、国保の疾病構造と類似しているため、心疾患、脳血管疾患の予防の対策が求められる。
- 腹囲について男性は 90~94cm にピーク、次は 85~89cm であった。つまり境界域の割合が高い。女性は 80~89cm にピークがある分布であった。メタボリックシンドロームの従来の基準値である男性 85cm、女性 90cm 以上は男性は 76.8%(960 人)，女性は 32.5%(554 人)であった。前年度との比較では、全体的に腹囲は増加傾向にある。脂質異常症や糖尿病対策として対策を進めたい。
- 中性脂肪の TG で要経過観察、要医療に該当する 300mg/dl 以上は男性は 3.7%(46 人)，女性は 1.0%(17 人)であった。前年度からの変化をみると、男女ともに要経過観察以上の高値群の上昇が大きいことがわ

かる。

- LDLコレステロールの度数分布は非常に幅広い。ピークについて男性は130-139mg/dl、女性は120-129mg/dlにあった。軽度異常である120mg/dl以上の割合について、男性は46.2%(578人)、女性は58.2%(994人)であった。要医療である180mg/dl以上の割合は男性は3.0%(37人)、女性は5.0%(85人)であった。同じく要医療に該当する60mg/dl以下の割合は男性は2.2%(27人)、女性は0.8%(14人)であった。
- LDLコレステロールの要経過観察、要医療に該当したのは、男性で26.3%、女性で32.1%であった。年齢別では、男性の40-49歳で31.6%、50-59歳で26.4%、60-69歳で30.2%、70-74歳で22.3%であった。女性では40-49歳で21.7%、50-59歳で37.3%、60-69歳で35.4%、70-74歳で34.4%であった。男性よりも女性の方が高く、女性の50歳以降は30%を超える割合を推移した。
- 糖尿病の指標であるHbA1cは男女ともに5.6~5.9%にピーク、次に6.0~6.4%にピークがある分布であった。つまり軽度異常、要経過観察に該当する割合が高いことがわかる。糖尿病の基準値である6.5%以上は男性は11.7%(146人)、女性は6.2%(105人)であった。そして、合併症リスクが高まる8.5%以上は男性は1.6%(20人)、女性は0.7%(11人)であった。前年度との比較ではHbA1c7%以上で増加傾向にあることから重症化対策が求められる。
- HbA1cの要経過観察、要医療に該当したのは男性の40-49歳で11.1%、50-59歳で22.2%、60-69歳で32.1%、70-74歳で37.5%であった。女性では40-49歳で3.9%、50-59歳で14.6%、60-69歳で20.5%、70-74歳で29.6%であった。加齢変化により増加傾向にあるが、特に男性の増加が大きい。
- 腎機能を表すeGFRでは、要医療に該当したのは男性で3.1%、女性で1.8%であった。60歳代から腎機能が低下する割合が増加しており、60-69歳では要経過観察が21.5%、要医療が2.1%、70-74歳では要経過観察が26.5%、要医療が5.6%であった。糖尿病と合わせて腎機能の低下は糖尿病性腎症などの合併症、血液透析につながり、日常生活機能を大きく下げ、医療費の高騰につながる。糖尿病重症化予防など、腎機能の課題に取り組む必要性がうかがえる。

以上